

討論型世論調査「雪とわたしたちの暮らし」

調 査 報 告 書

平成 26 年 8 月

札幌市・慶應義塾大学 DP 研究センター

目次

1. はじめに	1
2. 主要な設問の統計データの分析.....	3
2.1 データの全体像（T1、T2、T3 の変化について）	3
(1) 札幌市民は雪対策の現状に対してどう考えているのか.....	3
(2) 雪堆積場について.....	13
(3) 札幌市の今後の雪対策について	14
(4) 市民ができることについて	16
(5) 知識質問の正答率の変化.....	19
2.2 政策設問に関する相関分析.....	21
2.3 態度や意見の変化の分析.....	25
3. 調査と討論フォーラムの参加者の評価.....	27
4. まとめ	29
5. 討論フォーラムの参加者の特徴と検定.....	31
5.1 討論フォーラム参加者の特徴.....	31
5.2 討論フォーラム参加者の有意差に関する検定.....	33
6. 討論型世論調査の運営について.....	36
6.1 調査の概要	36
6.2 調査の実施体制.....	38
(1) 運営事務局の構成.....	39
(2) アドバイザー委員の構成.....	39
(3) 監修者について.....	40
6.3 世論調査・アンケート調査の設計.....	40
(1) 世論調査（T1 調査）	41
(2) 参加意向調査.....	42
(3) 討論前アンケート調査（T2 調査）・討論後アンケート調査（T3 調査）	45
6.4 討論フォーラムの設計.....	45
(1) 討論フォーラムの参加意向確認.....	45
(2) 討論資料の作成.....	46
6.5 討論フォーラムの概要.....	46
(1) 日時・会場.....	47

(2) 費用・謝金.....	47
(3) 討論フォーラムのスケジュール.....	47
(4) 小グループ討論の参加者グループ分け.....	48
(5) 全体会議.....	48
(6) モデレータの養成と小グループ討論の進行方法.....	49
7. 単純集計表.....	52
(1) 全体的な傾向.....	52
(2) 討論フォーラムの参加者と非参加者.....	52
(3) 討論フォーラムを経た意見の変化.....	52
(4) 討論型世論調査の評価.....	53
(5) 設問ごとの回答の変化.....	53
巻末資料.....	96

1. はじめに

札幌市では、毎年札幌市民を対象に市政世論調査を行ってきたが、さらに深く市民の意識を知るために「雪とわたしたちの暮らし」についての討論型世論調査を行うことを決定した。札幌市が毎年実施している市政世論調査では、除雪が、この35年間、市政に関する要望の第1位となっている（平成21（2009）年を除く）。例えば、平成25（2013）年度の調査では、市政への要望で「力を入れてほしい」と思うもの（3つまで回答）の1位に「除雪に関すること」（40.6%）が選ばれている。しかしながら、市民は雪と暮らしをめぐる問題について、十分な情報に基づき、じっくりと考えたうえで意見を示しているのだろうか。

討論型世論調査という手法は、いくつかの点で一般の世論調査と異なっている。通常の世論調査は無作為に対象者を選び、そこに市民の「縮図」（microcosm）を作る。討論型世論調査の場合、その回答者に、討論ができる規模の討論フォーラムに参加するように誘い、再度「縮図」の市民が一堂に会する討論フォーラムを開催し、市民の意見や態度がどう変化するかを調べる。通常の世論調査は1回で意見や態度を調べるのに対して、討論型世論調査では、事前に送付された討論資料で背景知識の情報提供を受け、さらには討論フォーラムで、少人数のグループによる討論と専門家に対する質疑で学び、考え、話しあうことができるように設計されている。アンケートは、討論フォーラムの開始前とすべてが終了した後で行い、合計3回の世論調査のデータをとることができる。

このような意見聴取の結果は、実際の政策に活かされることが望まれる。しかし、討論型世論調査の結果は、答えが単純なイエス・ノーの2分法ではないので、解釈も簡単ではない。

札幌市民は札幌市の雪の現状をどのように把握しているのかを出発点とし、その上で、これからどうしたらよいのかという問いかけを行った。そして、後者については、市が行うべきことと、市民が行うべきことの両方を尋ねている。

おそらく、討論フォーラムに参加した市民は、問題が容易ではないということに気がつくことになっただろう。例えば、充実した対策にはコストがかかり、除雪と排雪ではそのコストのかかり方が違うということを、今回の調査で十分に認識しただろう。そして、どこまですればよいのかは、意見が分かれるだろう。また、市民参加といっても、できることとできないことがあり、それは人によって大きく違っており、将来の高齢化も見据える必要もある。その意味で、学び、考え、話しあうということを経て、再度調べた世論調査のデータは貴重なものである。

この報告書は、意見や態度の変化を記述すると同時に、その理由も見つけようとしている。しかし、細部を詳しく調べる分析よりも、札幌市民の考え方の方向性を探り出すこと

がこの報告書の目的となっている。ここで集められたデータとともに、本報告書が活かされる機会があることを期待している。

2. 主要な設問の統計データの分析

ここで扱う統計データは、18 歳以上の札幌市民への世論調査（T1 全体と呼ぶ、3,000 サンプル、回答者 1,368 名）と、その中で討論フォーラムに参加した者 205 名のうち有効回答（T1 参加者と呼ぶ、204 名）の討論フォーラムの開始時に行ったアンケート調査（T2）及び討論フォーラム終了時のアンケート調査（T3）の 3 つのデータを対象として分析を行うものである。情報提供や討論を経て、意見や態度にどのような変化が表れたのかということを中心に分析を試みることにする。

2.1 データの全体像（T1、T2、T3 の変化について）

（1）札幌市民は雪対策の現状に対してどう考えているのか

札幌市が毎年行っている市政世論調査では、市による除雪、特に生活道路の除雪に関する市民の要望が最も多い。

討論型世論調査では各種設問を聴取しているが、調査結果全体を概観すると、札幌市民は雪に関する関心や雪に対する苦勞などの設問に大きく反応していることがわかる。そのような反応から、意見や態度の傾向を探ると、どうなっているだろうか。例えば、生活道路の除雪は誰が、どの程度行えばよいのだろうか。また市民はすべての雪を除雪し、排雪を行うことまでを望んでいるのだろうか。それとも最低限の除雪・排雪が行われればよいのだろうか。

冬のくらしで札幌市民が大変だと思っていることに関する設問（図 1～4）において、それぞれの意見の変化を見ると、一般的に T1 と比べて、T2、T3 では「苦にならない」という意見が増加している。だが、その中で平均値（表 1）を比較すると、自家用車での移動（渋滞など）が最も大変だと参加者が感じていることがわかる。

また、冬のくらしについて我慢できることに関する設問（図 5～11）において、それぞれ意見の変化を見ると、T1 と比べて、T2、T3 では「我慢できる」という意見が増加している。だが、その中で平均値（表 2）を比較すると、車道や歩道の路側に除雪された雪が排雪されずに放置され、必要な車線が確保されないことが最も我慢できないと参加者が感じていることがわかる。

そして、除雪・排雪の満足度に関する設問（図 12～15）において、札幌市による幹線道路や生活道路の除排雪に対する、満足度の変化を見ると、T1 と比べて、T2、T3 では「満足」という意見が増加している。だが、その中で平均値（表 3）を比較すると、生活道路、特に

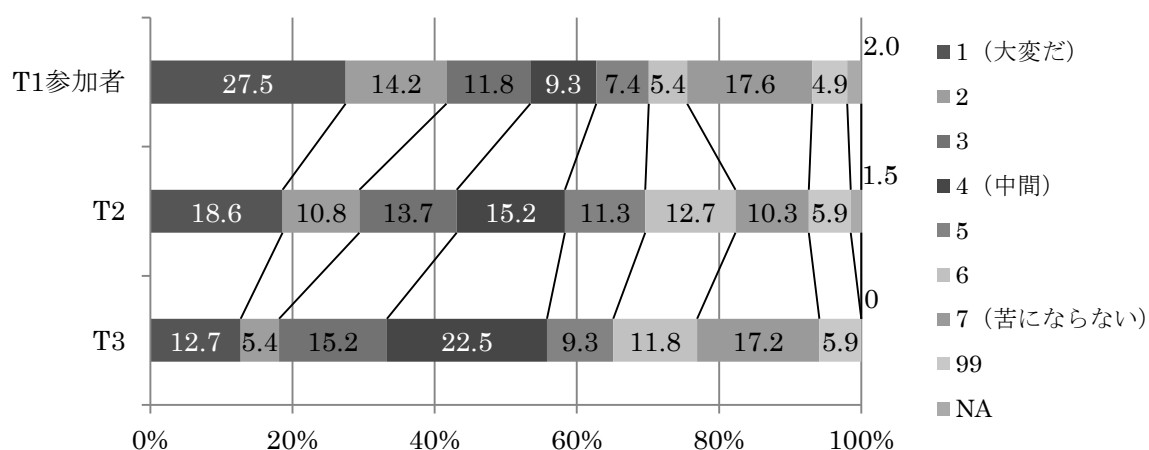
生活道路の排雪の満足度が最も低い。

また、冬の道路の排雪の望ましい水準に関する設問（図 16～18）において、幹線道路の望ましい排雪水準に対する意見の変化を見ると、T1 と比べて、T2、T3 では不便を「ある程度は我慢すべき」という意見が増加した。また、生活道路の排雪水準に対する意見の変化を見ると、T1 と比べて、T2、T3 では不便を「ある程度は我慢すべき」という意見が増加した。さらに、生活道路の排雪は行政がすべきなのかという質問に対する意見の変化を見ると、「行政が排雪をする責任はない」という意見が増加した。だが、T3 の時点において、行政が排雪すべきかどうかという質問に対する回答をみると、責任があると答えた参加者はやや多いものの、どちらともいえないと答える人が最も多く、「行政に責任はない」という意見と「行政がすべきだ」という意見が拮抗しているといえる。

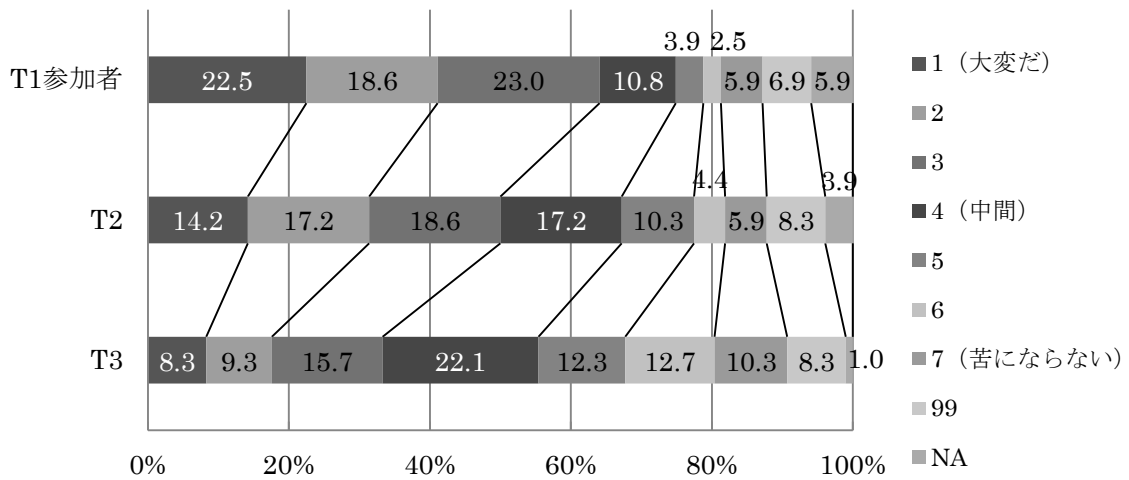
以上をまとめると、参加者は生活道路の排雪についての満足度が低く、また路側に除雪された雪が排雪されずに放置され、必要な車線が確保されないことが最も我慢できないことだと参加者は考えている。

毎年の世論調査で要望が一番多い生活道路の除雪（排雪を含む回答と思われる）への回答は、T2、T3 への経過とともに、満足度は増加している（表 3）。しかし、生活道路に関しては、依然としてその平均値は、7 段階尺度の中間の 4 を下回っていることに注意する必要がある。

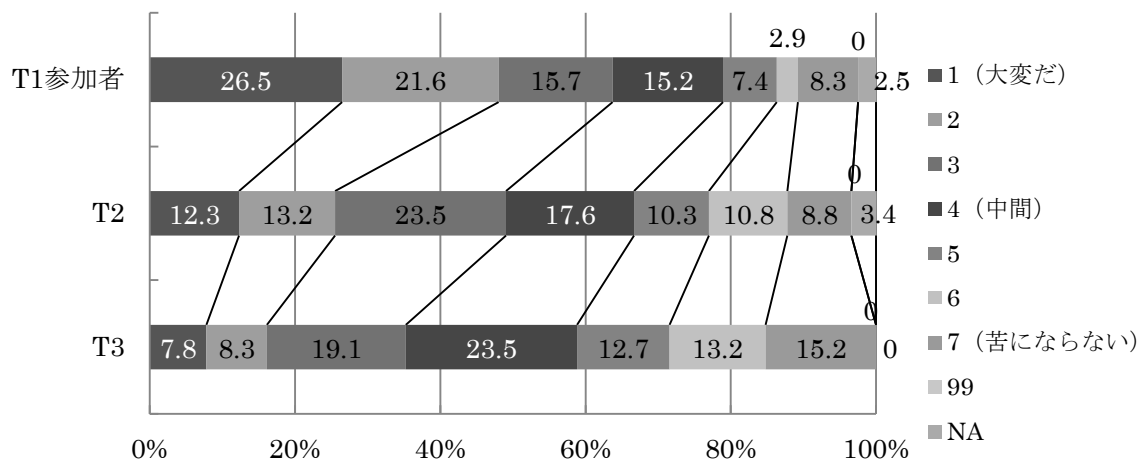
【図 1 自宅周辺の雪かきの大変さに関する意見（Q14s1）の変化】



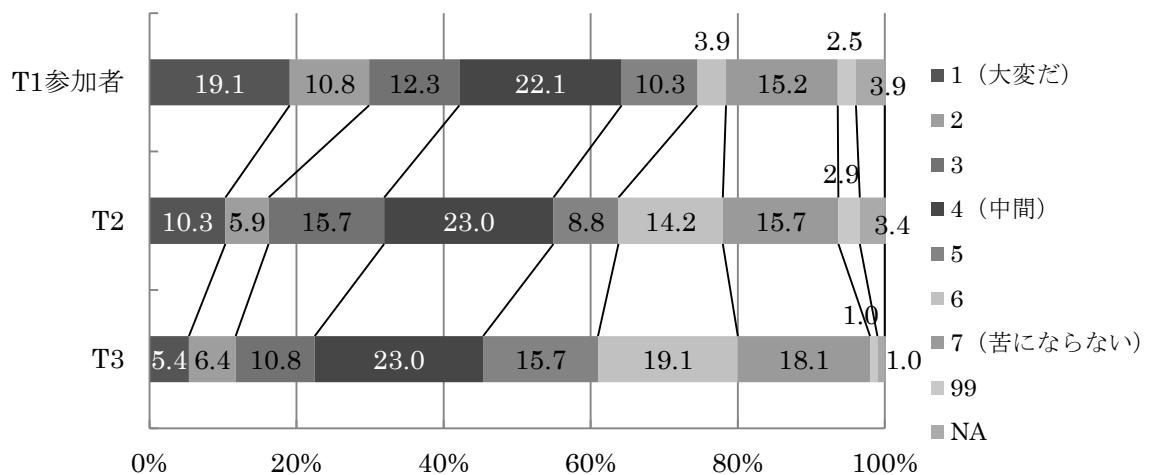
【図2 自家用車で移動の大変さに関する意見（Q14s2）の変化】



【図3 徒歩での移動の大変さに関する意見（Q14s3）の変化】



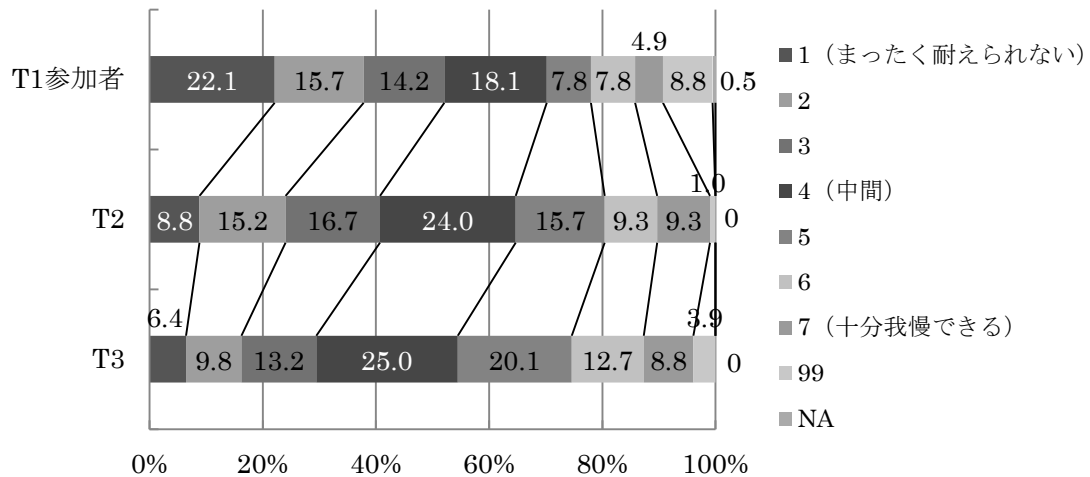
【図4 公共交通機関での移動の大変さに関する意見（Q14s4）の変化】



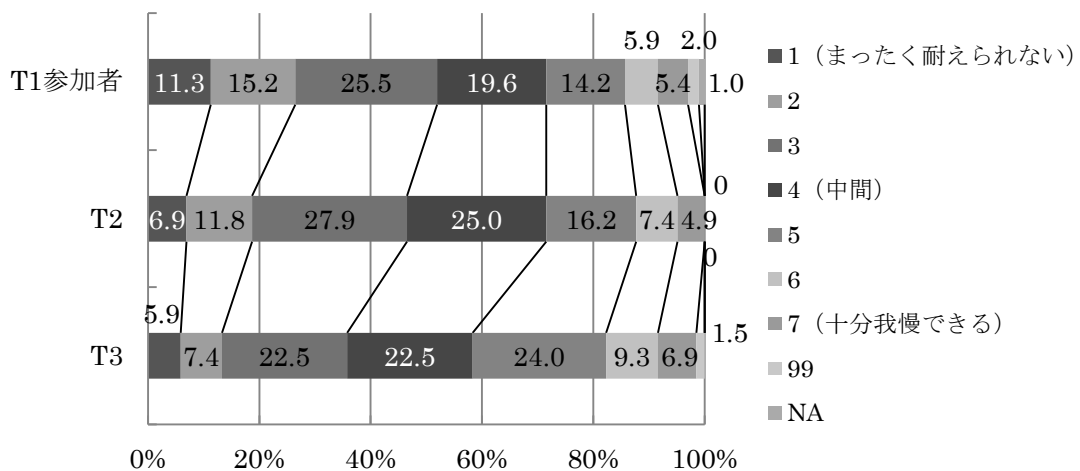
【表1 冬のくらしで札幌市民が大変と思っていることに関する態度の平均値】

Q14 (1: 大変だ、7: 苦にならない)	T1 参加者	T2	T3
④ 公共交通機関での移動 (遅延など)	3.7	4.3	4.7
③ 徒歩での移動 (路面の凍結など)	2.9	3.7	4.3
① 自宅周辺の雪かき	3.5	3.8	4.2
② 自家用車での移動 (渋滞など)	2.8	3.3	4.1

【図5 行政による除雪作業で間口に雪が置かれることを我慢できるかに関する意見 (Q3s1) の変化】

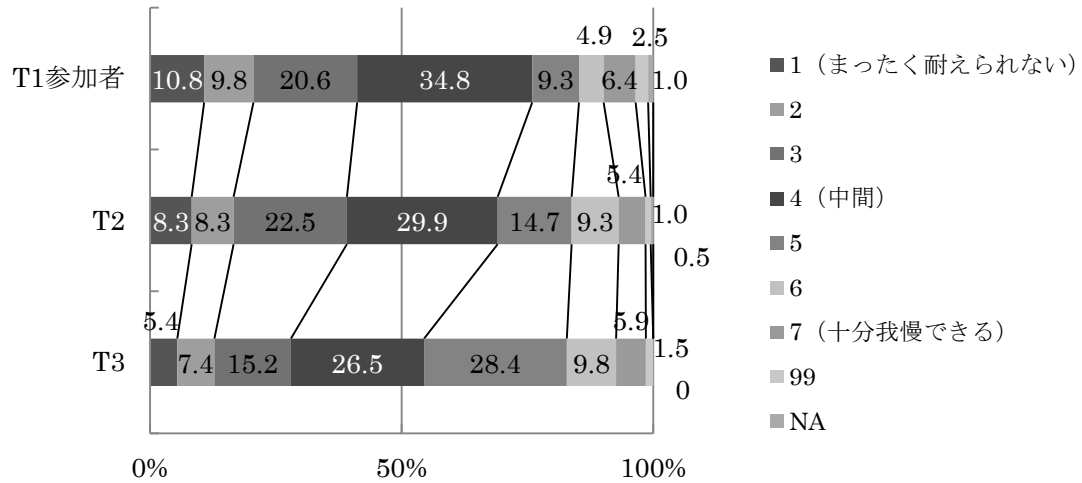


【図6 車道にワダチや凸凹ができることを我慢できるかに関する意見 (Q3s2) の変化】



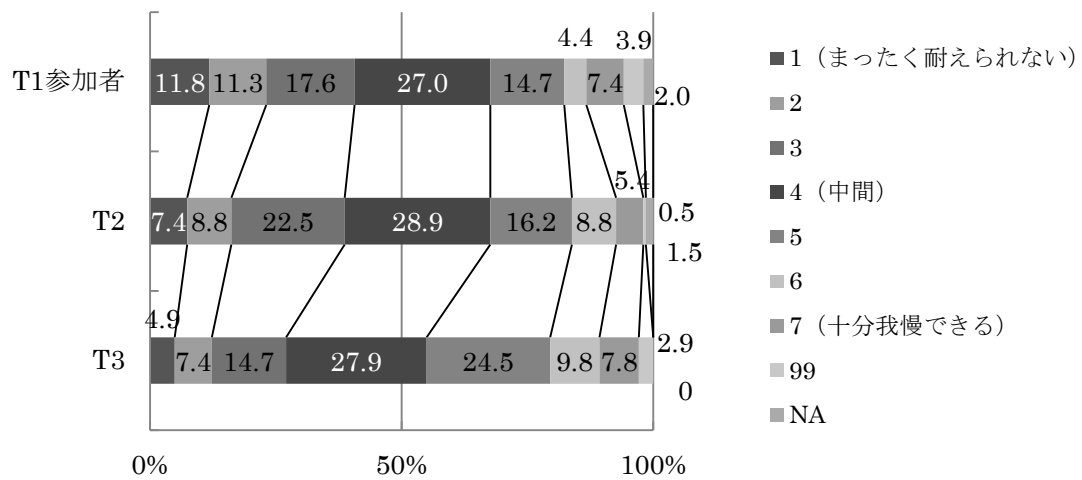
【図7 道路や家ごとに均等に除雪が行われないことを

我慢できるかに関する意見（Q3s3）の変化】



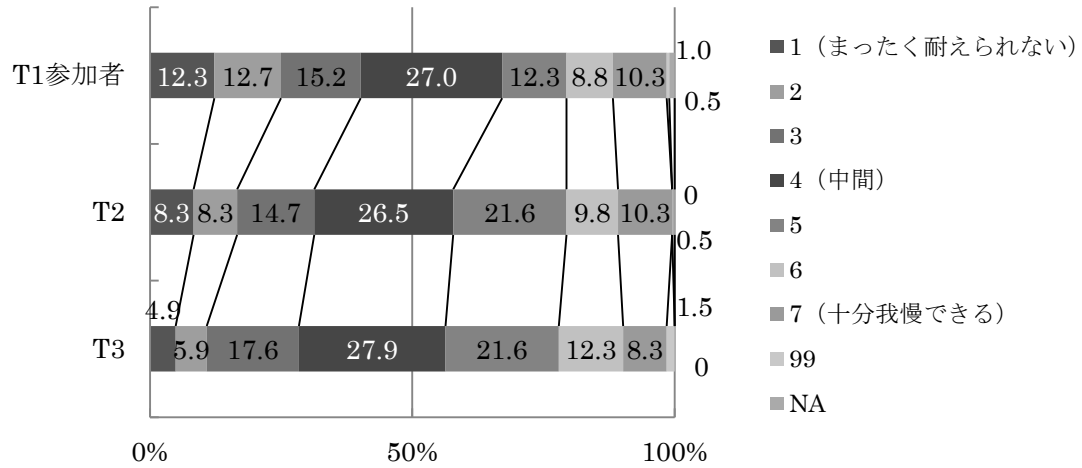
【図8 通勤・通学時間に車道の除雪が間に合わないことを

我慢できるかに関する意見（Q3s4）の変化】



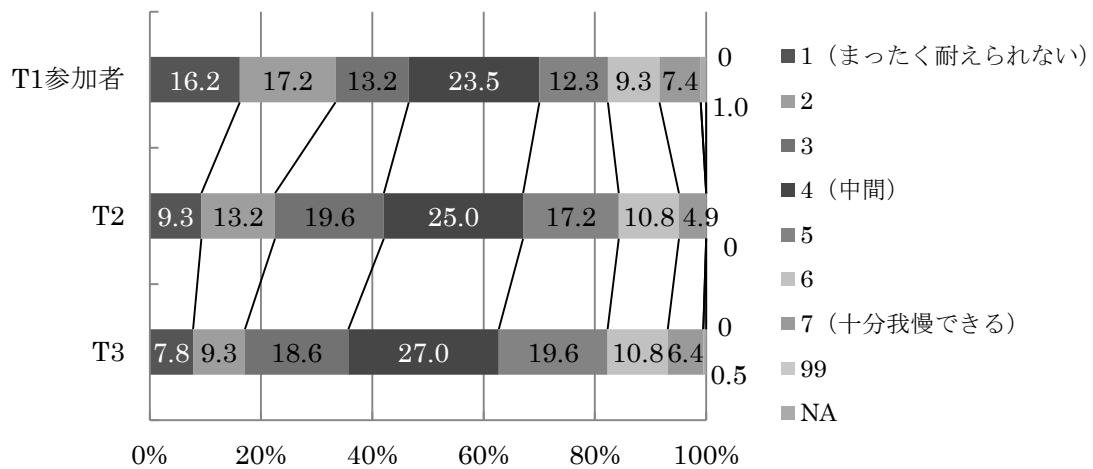
【図9 車道が凍結しアイスバーンになってしまうことを

我慢できるかに関する意見（Q3s5）の変化】

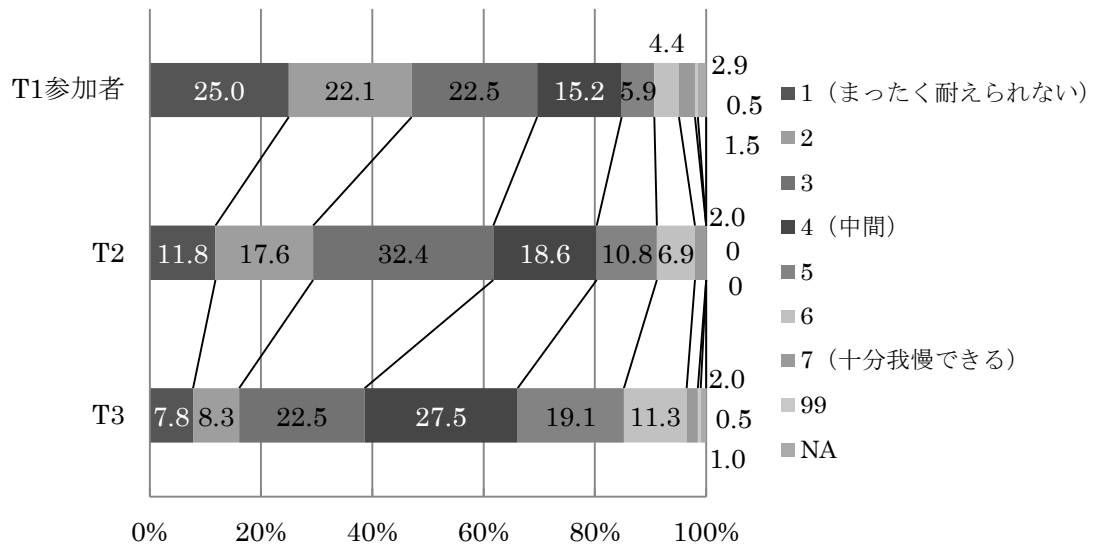


【図10 歩道が凍結して転倒の危険が増すことを

我慢できるかに関する意見（Q3s6）の変化】



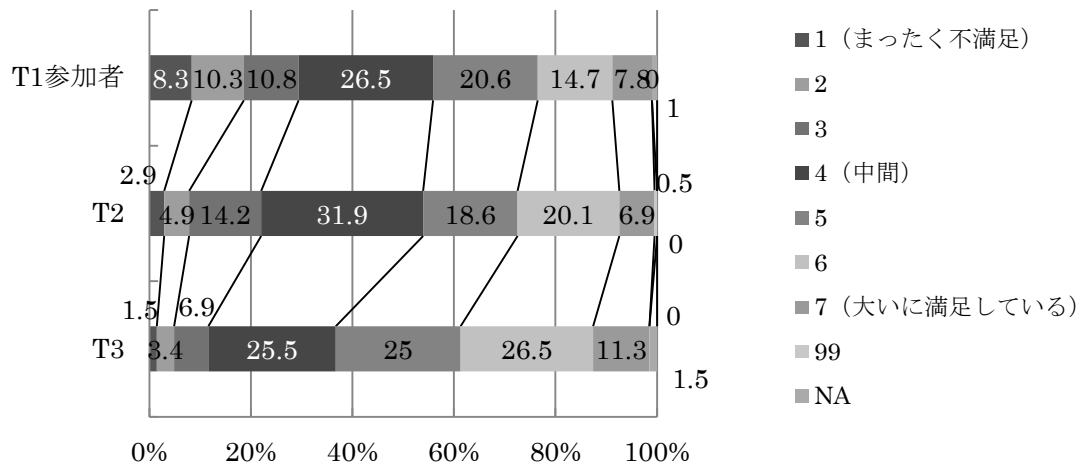
【図 11 必要な車線が確保されないことを我慢できるかに関する意見（Q3s7）の変化】



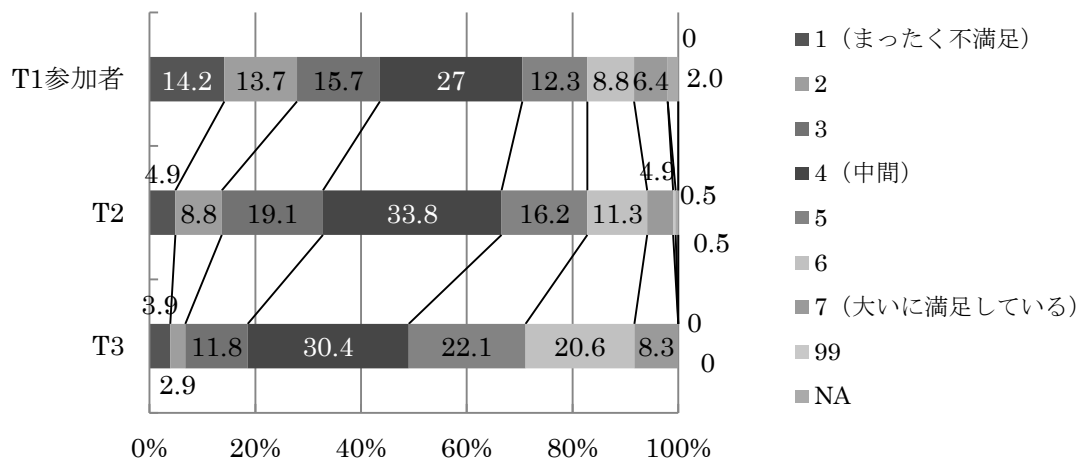
【表 2 冬の暮らしについて我慢できることに関する態度の平均値】

Q3 (1:まったく耐えられない、7:十分に我慢できる)	T1 参加者	T2	T3
⑤ 車道が凍結しアイスバーンになってしまうこと	3.8	4.2	4.3
① 行政による除雪作業で自宅の間口に雪が置かれること	3.2	3.9	4.2
③ 道路や家ごとに均等に除雪が行われないこと	3.6	3.9	4.2
④ 通勤・通学時間に車道の除雪が間に合わないこと	3.7	3.9	4.2
② 車道にワダチや凸凹ができること	3.5	3.7	4.1
⑥ 歩道が凍結して、転倒の危険が増すこと	3.6	3.8	4.0
⑦ 車道や歩道の路側に除雪された雪が堆積され、必要な車線が確保されないこと	2.8	3.3	3.8

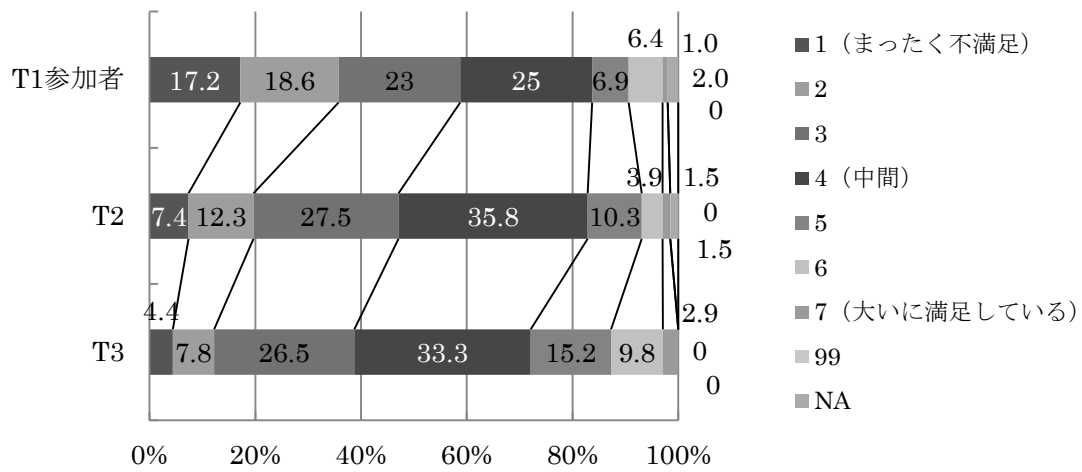
【図 12 幹線道路の除雪の満足度に関する意見（Q1s1）の変化】



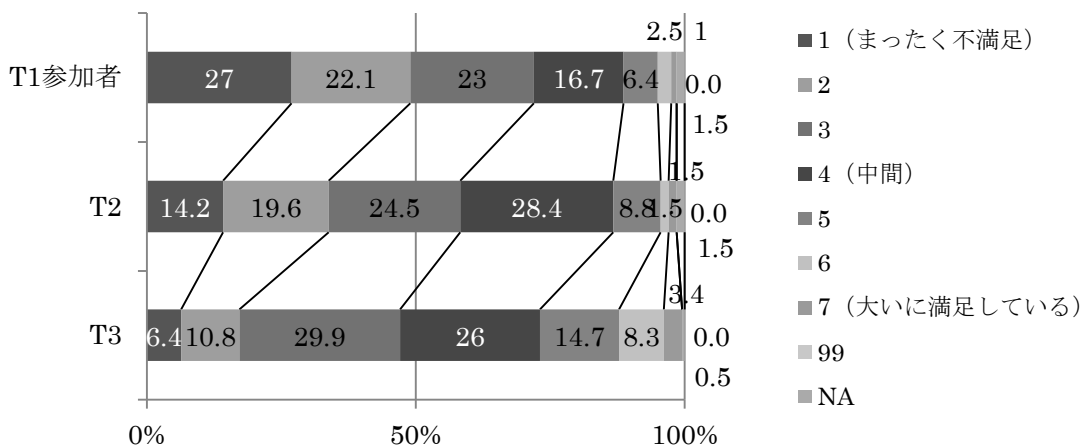
【図 13 幹線道路の排雪の満足度に関する意見（Q1s2）の変化】



【図 14 生活道路の除雪の満足度に関する意見（Q1s3）の変化】



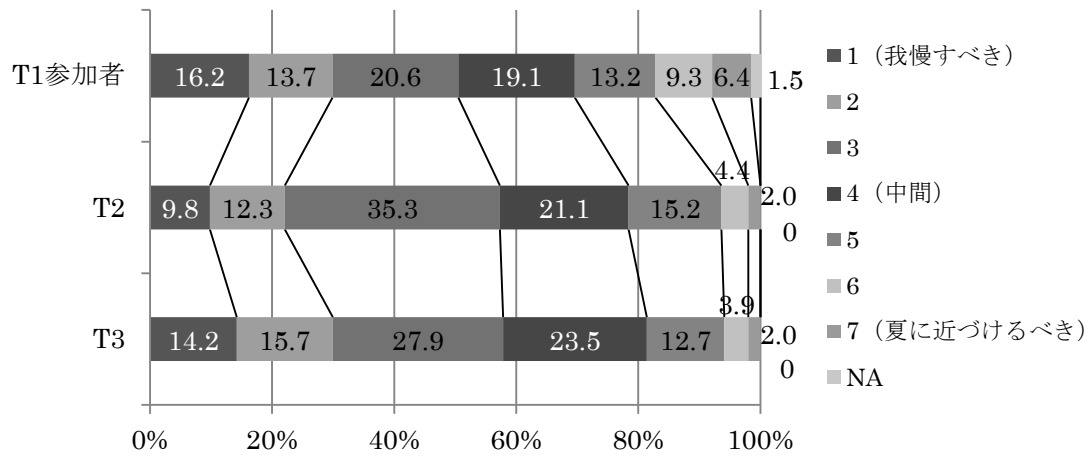
【図 15 生活道路の排雪の満足度に関する意見（Q1s4）の変化】



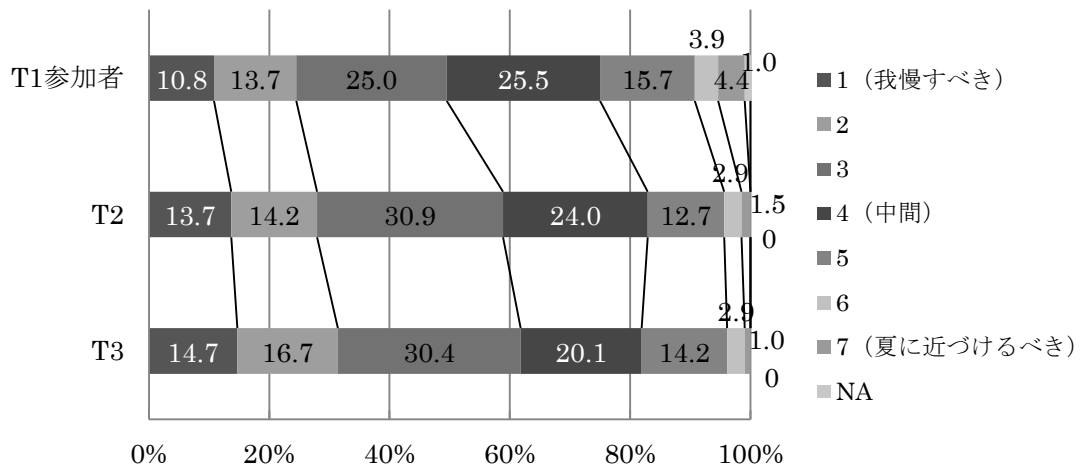
【表 3 札幌市の除雪・排雪の満足度に関する態度の平均値】

Q1 (1: まったく不満足、7: 大いに満足している)	T1 参加者	T2	T3
① 幹線道路の除雪	4.2	4.5	4.9
② 幹線道路の排雪	3.6	4.0	4.6
③ 生活道路の除雪	3.1	3.5	3.9
④ 生活道路の排雪	2.6	3.1	3.7

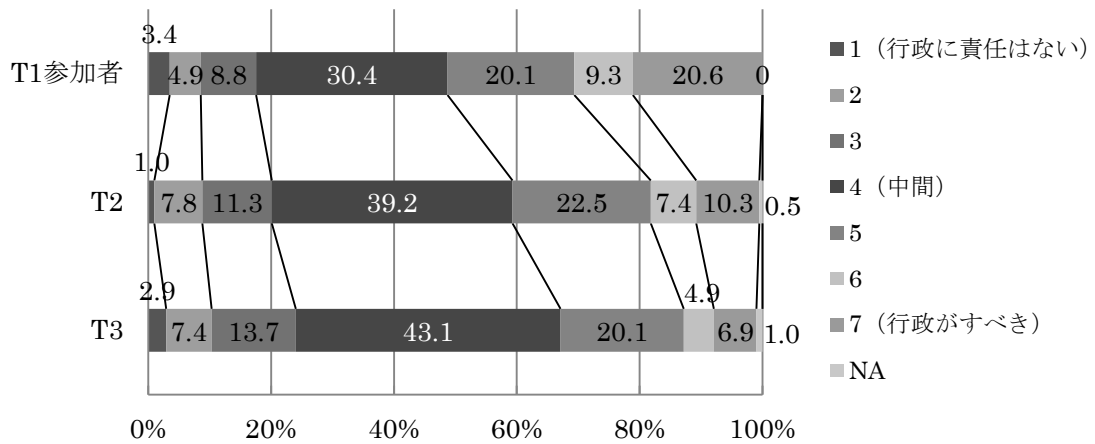
【図 16 望ましい幹線道路の排雪水準に関する意見（Q2s1）の変化】



【図 17 望ましい生活道路の排雪水準に関する意見（Q2s2）の変化】



【図 18 生活道路の排雪の責任に関する意見（Q2s3）の変化】



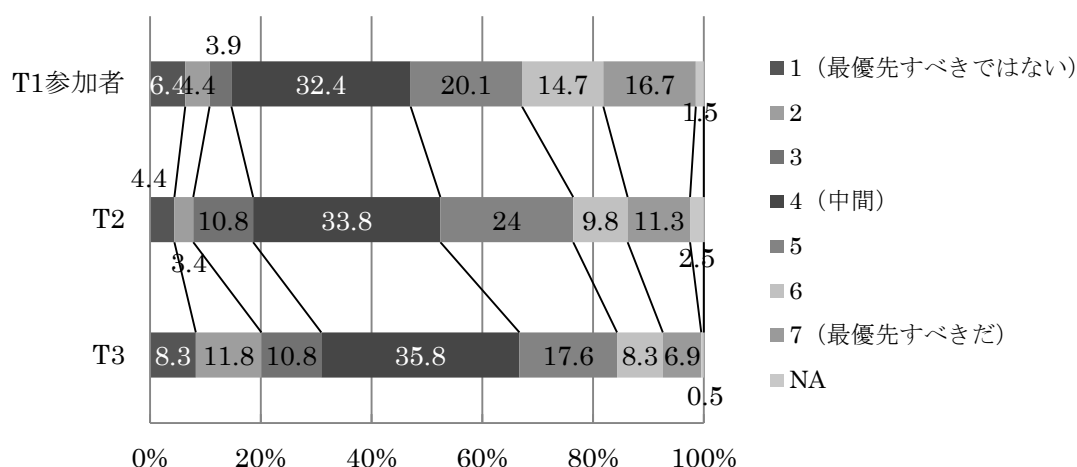
(2) 雪堆積場について

除雪と排雪は一連の雪対策の過程において不可分なものである。排雪を強化するならば、その雪を捨てる場所である雪堆積場を増設する必要がある。しかし、雪堆積場の増設は用地確保の問題や新たな財政支出を必要とするため、重要な論点である。

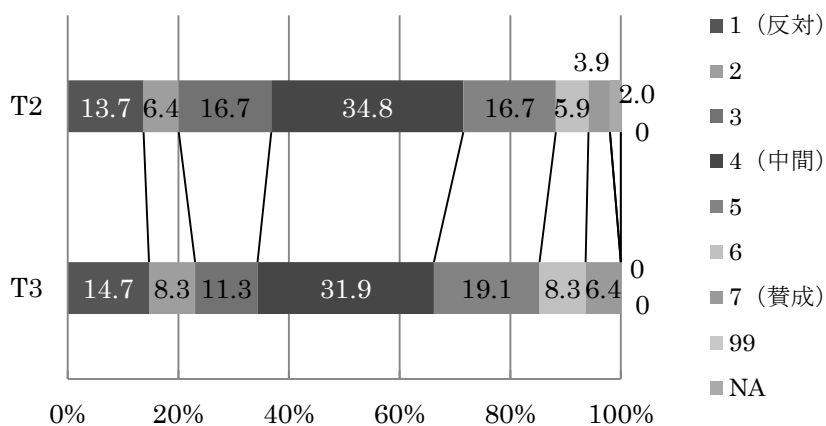
雪堆積場の増設に関する設問（図 19）においては、T1 と比べて T2、T3 では「最優先すべきではない」という意見が増加し、「最優先すべき」という意見は減少している。平均値も 4.6 から 3.9 に減少しており、全体として雪堆積場の増設について否定的な意見が増えた。

また雪堆積場利用の有料化に関する設問（図 20）においては、T2、T3 にかけてあまり意見の変化が見られなかった。平均値も 3.6 から 3.8 に増加しているものの、ほとんど変化しておらず雪堆積場の有料化について賛否は拮抗していると見たほうがよいだろう。

【図 19 雪堆積場の増設に関する意見（Q8）の変化】



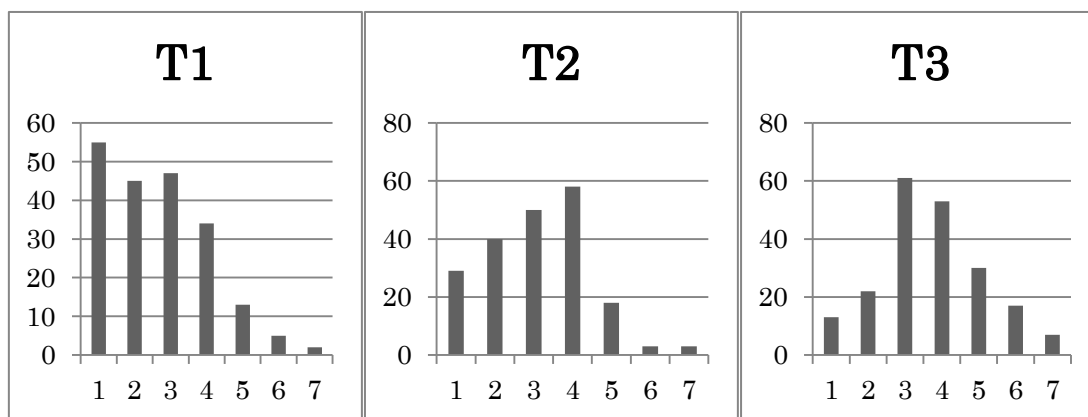
【図 20 雪堆積場利用の有料化に関する意見（Q9）の変化】



ここまでの参加者の意見をまとめると、次のとおりである。すなわち、幹線道路・生活道路の除排雪の満足度は上昇したが、冬の暮らしの中で生活道路の排雪が最も問題だと参加者は考えている。また、生活道路の排雪の状態は「夏に近づけるべき」という意見が減少し、「我慢すべき」という意見が増加している。生活道路の排雪の責任は行政にあるかどうかについては中間の意見が増え、中間が最も多い。さらに、参加者は雪堆積場の増設を最優先することには抑制的な方向に意見が変化した。では、このような意見を持つ参加者はそれぞれ、どのような人々なのだろうか。

例えば、図 21 は、雪の対策への満足度の推移である。「あなたは、現在の札幌市による除雪や排雪についてどのように考えますか」という設問に対して、7 段階尺度（「まったく不満足」を 1、「大いに満足している」を 7、「ちょうど中間」を 4 とする）で尋ねたものを再度ここで表してみる。T1、T2、T3 と時間経過とともに、平均値はそれぞれ、T1 では 2.6、T2 では 3.1、T3 では 3.7 と上昇しているが、依然として中間の 4.0 を割っている。この図は、生活道路の排雪の満足・不満足 of 分布の形状が、T1、T2、T3 の時点でどのように変わっているのかを示したものである。たしかに平均値は上昇しているとしても、T3 においても、依然として、不満足 of 者が相当数いて、最頻値は 3 であるということがわかる。

【図 21 生活道路の排雪の満足・不満足 of T1、T2、T3 での推移】



(3) 札幌市の今後の雪対策について

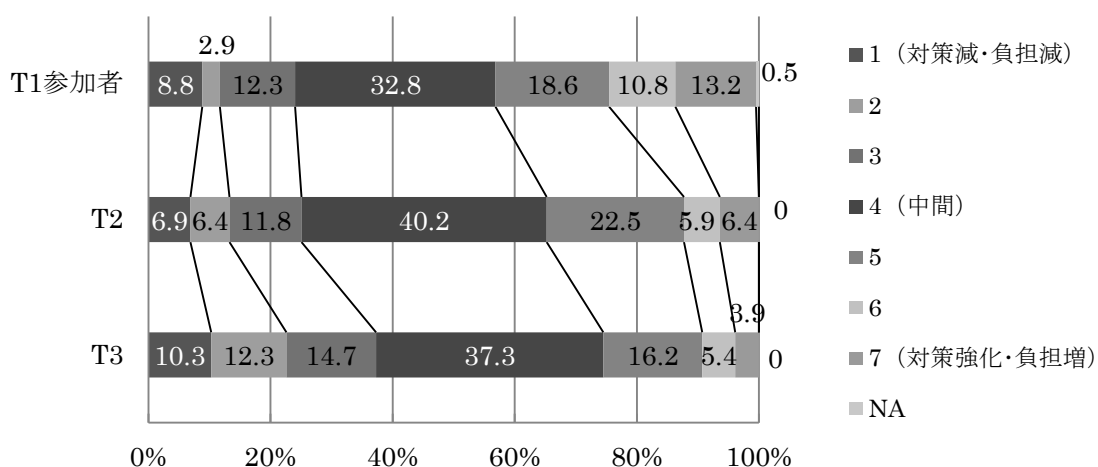
これまでは、今まで札幌市が行ってきた雪対策等について参加者に聴取した調査結果をまとめた。ここでは参加者がそのような評価を踏まえて、今後の雪対策のあり方についてどのように考えたのかを検証する。

札幌市の今後の雪対策に関する設問（図 22）において、T1 と比べて T2、T3 では「ほどの雪対策にとどめ、かける費用を軽減すればいい」という意見が増加した。また、「税

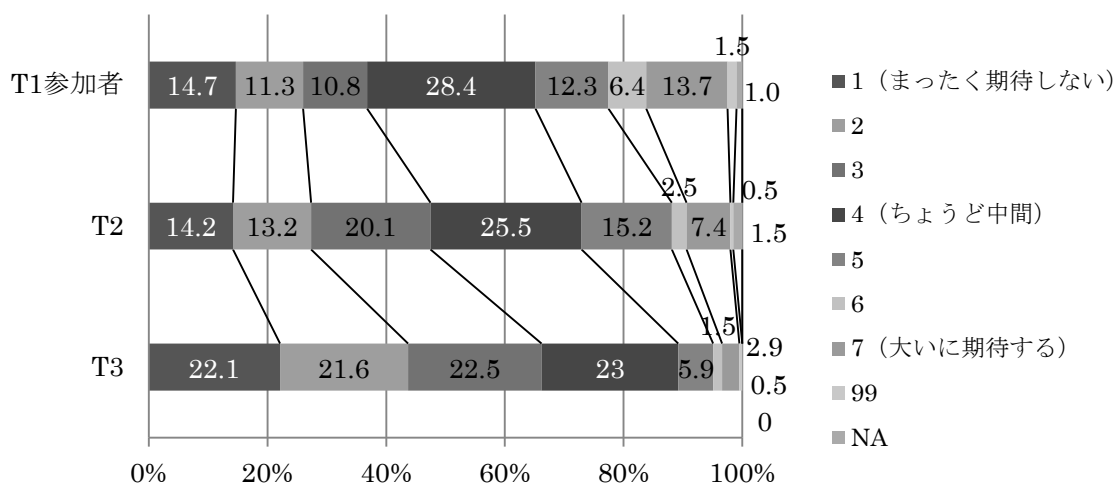
など住民の負担が増えても、現在の雪対策をもっと強化すべき」という意見が減少している。

新たな雪処理施設の整備に関する設問（図 23～25）においては、T1 と比べて T2、T3 では「期待しない」という意見が増加し、「期待する」という意見が減少しており、新たな施設による雪対策の解決への期待度は低いといえる。

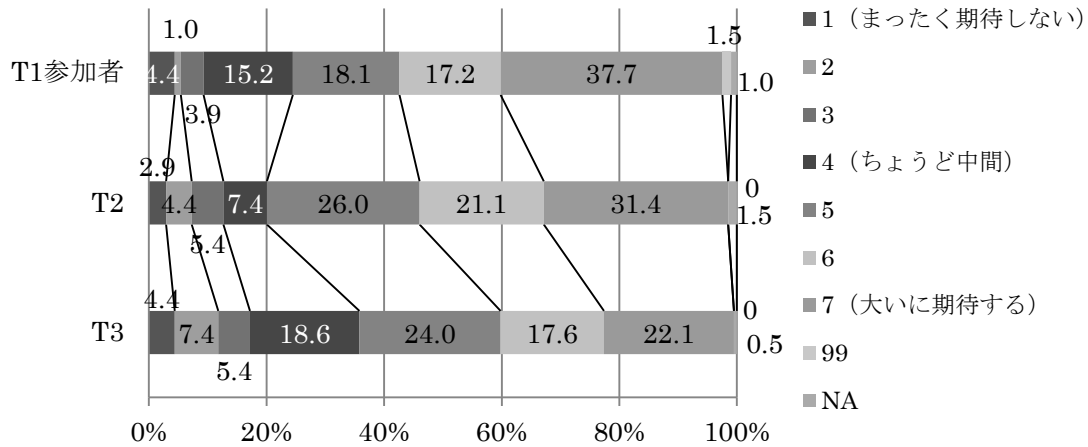
【図 22 札幌市の今後の雪対策に関する意見（Q4）の変化】



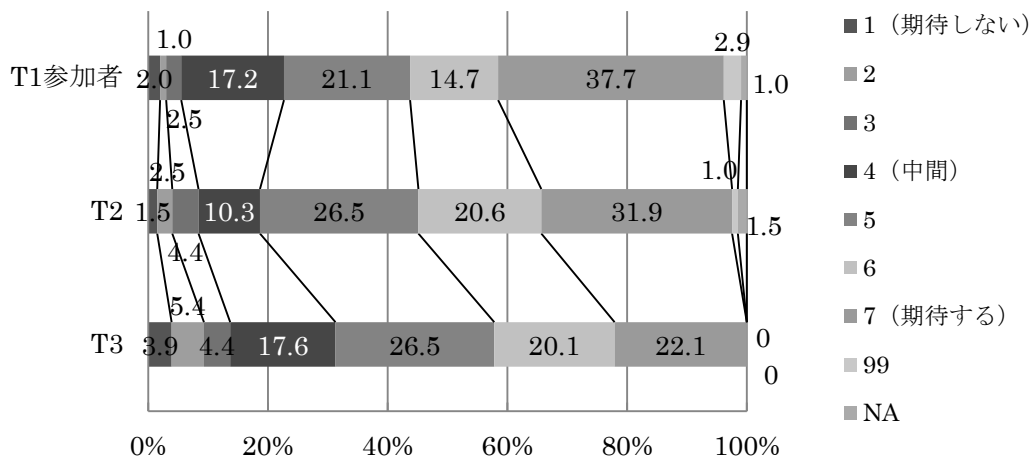
【図 23 ロードヒーティングの整備に関する意見（Q11s1）の変化】



【図 24 流雪溝の整備に関する意見（Q11s2）の変化】



【図 25 融雪槽の整備に関する意見（Q11s3）の変化】



(4) 市民ができることについて

今後の札幌市の雪対策に対する予算を抑制するとすれば、雪対策を行う上で市民の役割が大きくなると考えられる。それでは、どの程度のことまでを参加者は市民の役割と考えているのだろうか。

ライフスタイルの転換に関する設問（図 26）において、T2、T3 にかけて「中間」の意見が減少し「賛成」という意見が増加している。平均値も 4.6 から 4.9 にやや増加しており、今後の雪対策については、参加者は冬のライフスタイルを変えて雪との共存をするという意見がやや増加していることがわかる。

また、歩道の除雪の義務化に関する設問（図 27）において、T2、T3 にかけて「中間」の意見が増加しており、それ以外は減少している。平均値は 4.1 と変わらず、参加者は歩道の除雪の義務化について賛否を明確にしていけないといえる。

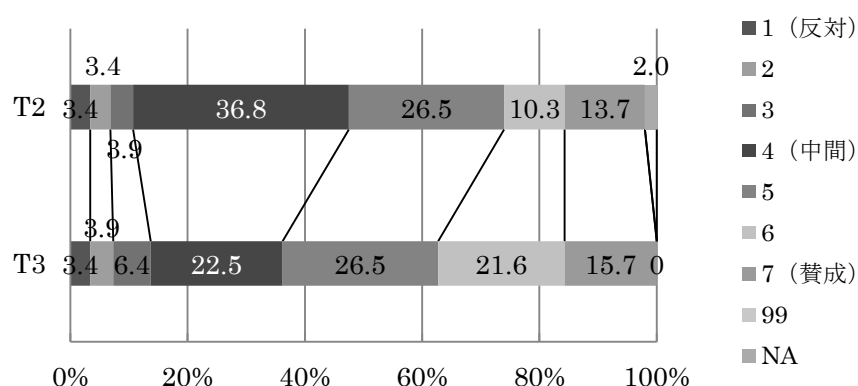
さらに、札幌市の今後の雪対策について参加者自身ができることに関する設問において、T2、T3 にかけて全体として「できる」という意見が増加した。できることの内訳は表 4 に示されているが、ここには積極的参加と消極的参加の 2 つに大きく分かれる回答があるといえる。

すなわち、それぞれの人ではできることで差があり、同じ参加でも、積極的な参加にあたる雪かきボランティアへの参加や福祉除雪の地域協力員になるなど、労力がかかるものに関してはできないという回答が多かった。

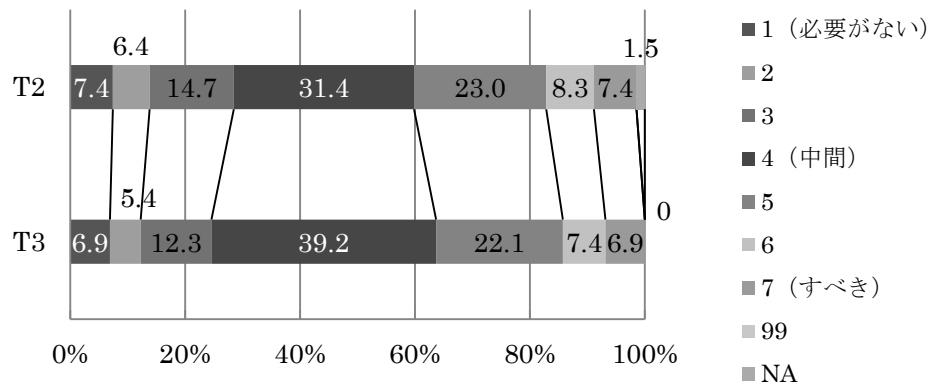
ここまでで、参加者は札幌市の今後の雪対策は市民のできる範囲内で協力しつつ、また、市の雪対策にかける予算を抑制するという意見が増加していることがわかる。参加者自身もライフスタイルを変えて雪との共存を考え、自分ができることを増やしていこうとしていることがわかる。では、このような意見を持つ参加者がどのような人なのかは次章で明らかにする。

しかしながら、いずれの設問に肯定的に答えた人でも、福祉除雪の地域協力員としての参加には積極的ではない。

【図 26 ライフスタイルの転換に関する意見（Q10）の変化】



【図 27 歩道の除雪の義務化に関する意見（Q7）の変化】

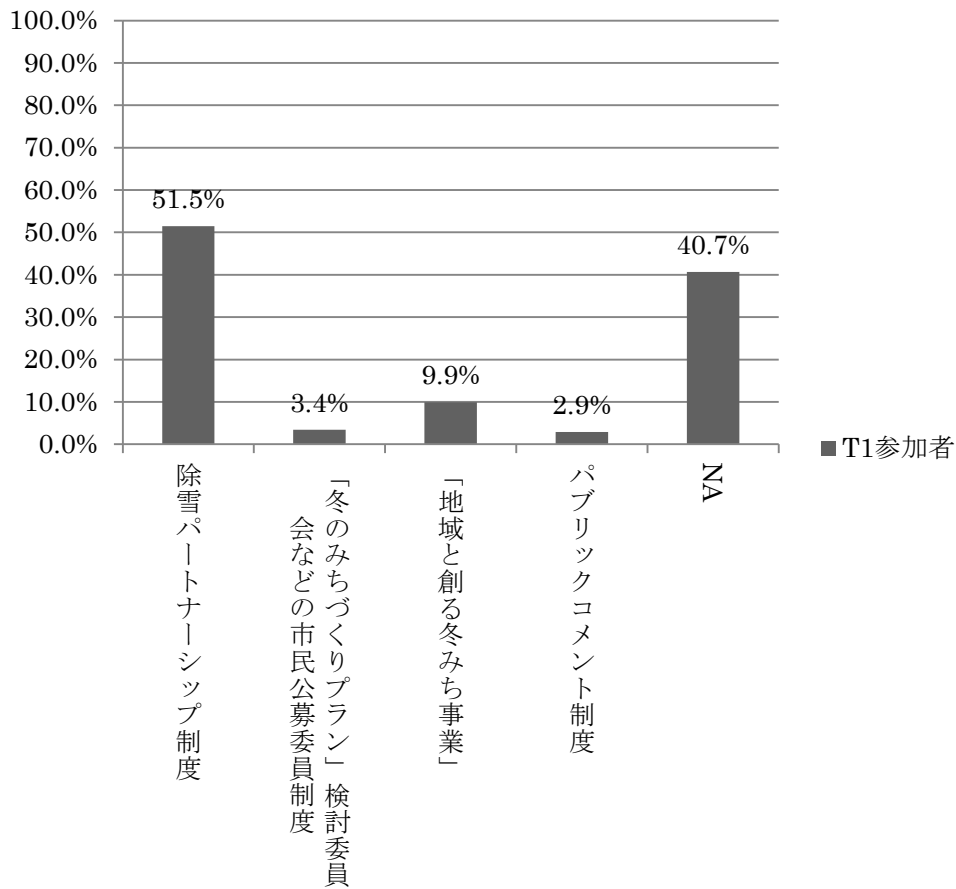


【表 4 今後の雪対策についてできることに関する設問の意見の平均値とその順位】

Q6 (1：できない、7：できる)	T1 参加者	T2	T3
⑨ 路上に駐車しない	6.6	6.6	6.5
⑧ ルール・マナーを守る	6.3	6.1	6.2
⑦ ツルツル路面对策	5.3	5.5	5.4
⑤ 公共交通機関を利用する	5.6	5.5	5.4
④ 自宅前の除雪	4.8	5.0	5.2
⑥ ピーク時間帯を避ける	4.7	4.7	4.9
⑪ 除雪パートナーシップ	4.5	4.7	4.9
③ 地域の人と協力して雪かき	4.4	4.7	4.8
⑫ 市民助成トラック	3.9	4.3	4.3
⑬ 民間除雪サービス	3.7	4.1	4.1
② 合同パトロール	3.2	3.6	3.9
① 雪かきボランティア	3.3	3.5	3.8
⑩ 福祉除雪の地域協力員になる	3.3	3.4	3.8

次に、札幌市の行っている雪対策についての認知を聴取した。その結果、除雪パートナーシップ制度を知っている人は半分以上いる一方、それ以外の雪対策については10%に達していない。また、すべての雪対策を知らない人は約40%いることがわかった。

【図 28 雪対策について知っていること (T1Q14) (複数回答)】

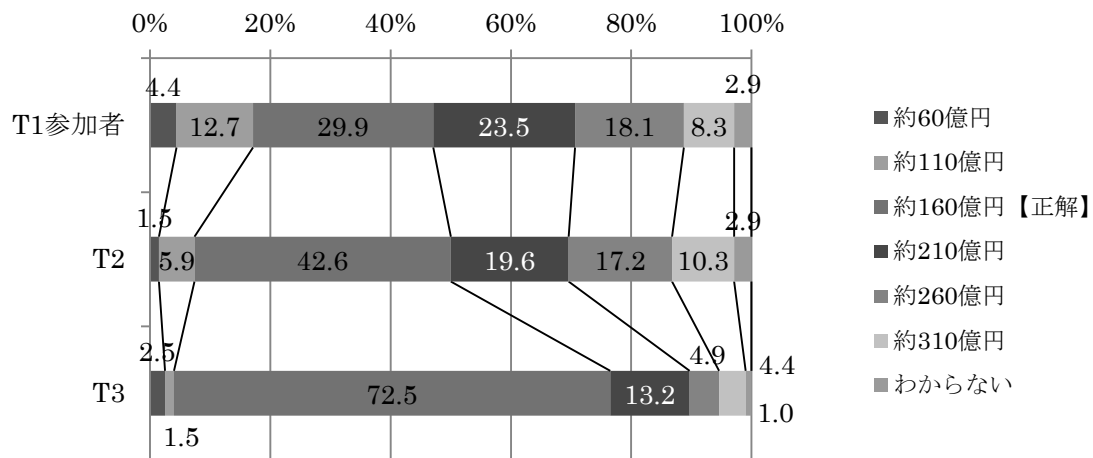


(5) 知識質問の正答率の変化

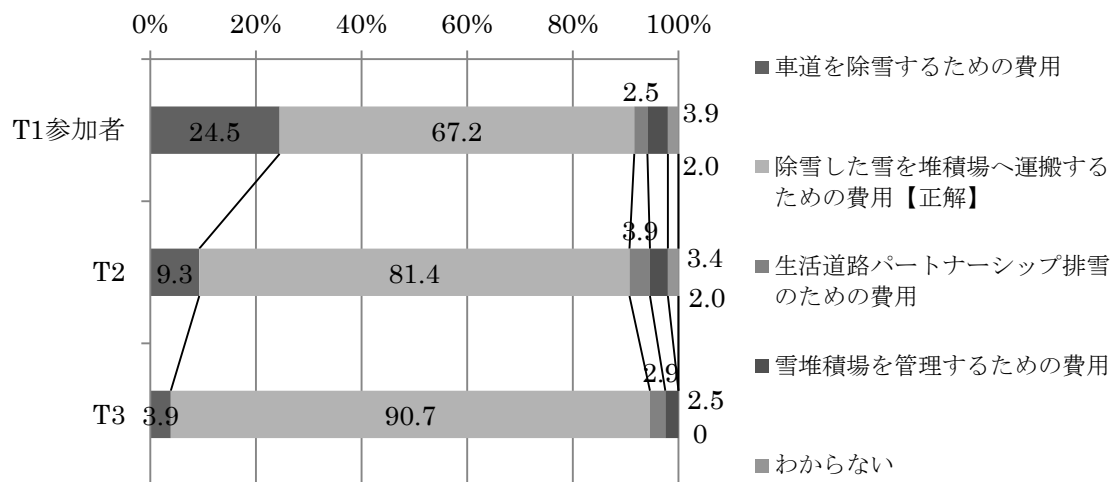
通常の世論調査とは異なり、討論型世論調査では、討論のテーマに関連する知識に対する参加者の認知度を聴取する質問（知識質問）が含まれている。もちろん、その正答率の高さを競うわけではないが、回答の意見分布を見るだけではなく、回答がどの程度、情報を正確に認識した上でなされたものであるかどうかの確認のために使われる。

今回の調査では、いずれの設問でも顕著に知識質問の正答率は上昇している。ということは、学ぶ効果はきわめて高く、今回の調査における回答はそれに基づき話しあい考えた上での回答であるとみることができる。

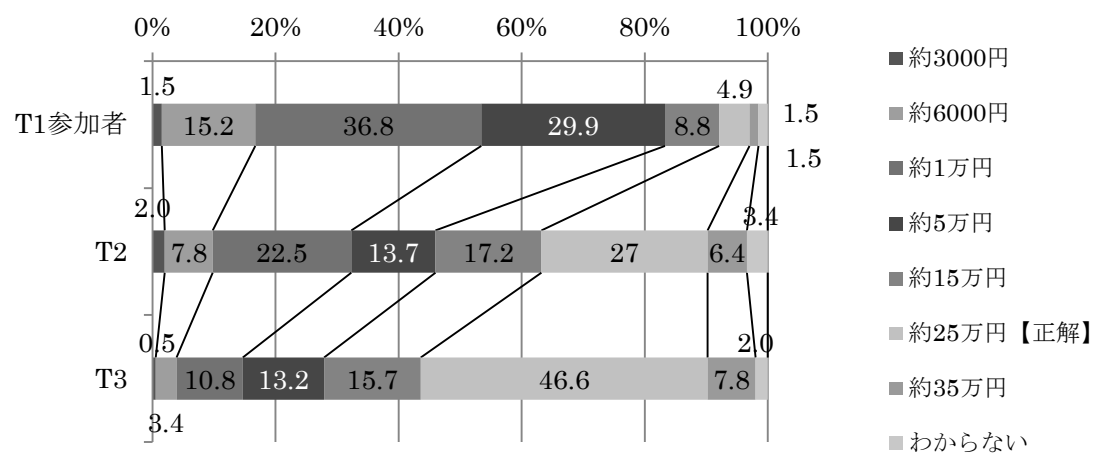
【図 29 札幌市の雪対策の予算額（Q15）の正答率の変化】



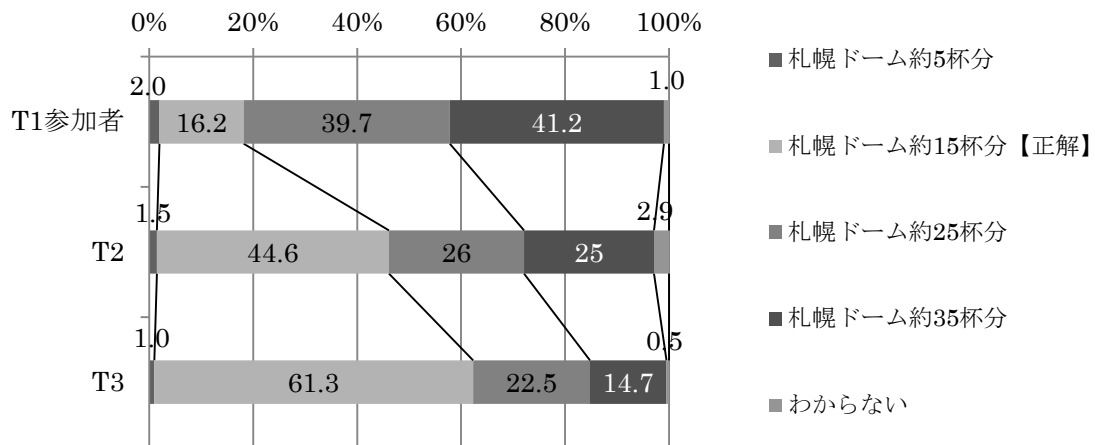
【図 30 雪対策のうち最も費用の高いもの（Q16）の正答率の変化】



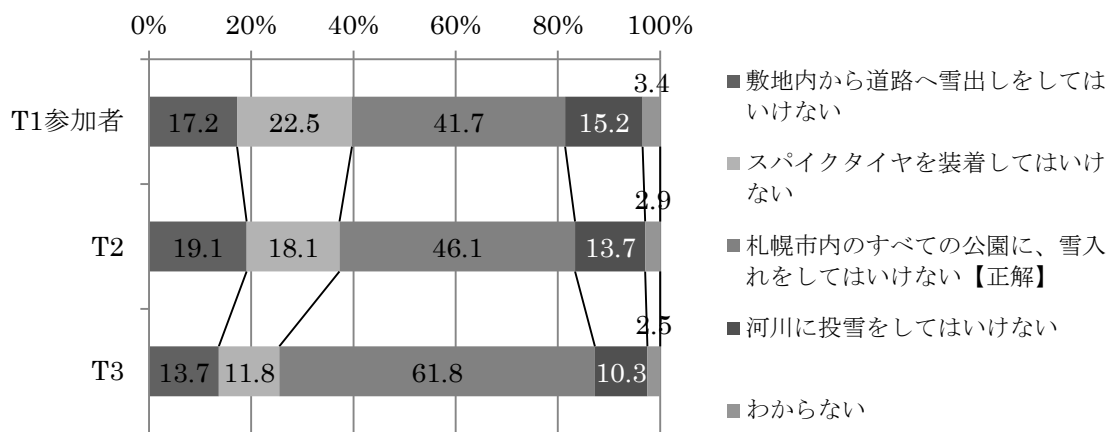
【図 31 1回あたりの排雪費用（Q17）の正答率の変化】



【図 32 毎年運ばれる雪堆積場の雪の量（Q18）の正答率の変化】



【図 33 雪の除排雪に関するルールで誤っているもの（Q19）の正答率の変化】



2.2 政策設問に関する相関分析

本調査では、札幌市の雪の現状のほかに多数の設問がなされているが、同時に、札幌市民が判断をくだすべき質問をいくつか設けた。具体的には、次の6つである。

- ・ 夏に近い道路状況を目指すべきか、ある程度の不便を受け入れるべきか
- ・ 現在の札幌市の雪対策でいいのか、これ以上予算をかけてもっと行うべきか
- ・ 雪堆積場を増設すべきか
- ・ 新たな雪処理施設に期待をかけるか
- ・ 雪対策は行政主体で行うべきか、住民が協力すべきか
- ・ 市民が行うとしたら、何ができるのか

その前提として、現状認識を聞いている設問は、次のとおりである。

- ・ 排雪と除雪の現状に満足しているか
- ・ 現状で我慢できないことは何か
- ・ 冬が好きか
- ・ 雪のくらしはつらいか
- ・ 冬のくらしで大変なことは何か

その他にも、雪についての認識の差は、次のようなものが影響している可能性がある。

- ・ 一戸建てやマンションなどの居住形態
- ・ 車を使っているかどうかなどの通勤の形態
- ・ その他、年齢、所得、職業などの社会的属性
- ・ 基本的な価値観

一般的に、特定の設問で特定の回答をした人が、別の設問である選択をする傾向にあるという関係を探るときに相関分析を用いることが多い。

その意味では、現状の認識の違いによってどのような政策的な選択をすべき、と答える傾向があるのかを探ってみる。

例えば、すでに見てきたように、冬が好きな人とそうでない人や、冬のくらしは苦にならない人とそうでない人では、異なる政策判断が下されると予想される。つまり、冬のくらしが楽しいと思う人は、道路の除雪や排雪はある程度の水準でよいとするのではないかという関係である。

表 5 で示されるように、冬が好きな人や冬のくらしを楽しんでいる人は、雪かきボランティアに参加の意向は強く、ライフスタイルを変えて雪との共存をはかる意向は強い。

【表 5 冬が好きか・冬のくらしが楽しいかと、

雪かきボランティアへの参加意思等との相関】

	雪かきボランティアに参加する (T3)	福祉除雪の地域協力員に参加する (T3)	ライフスタイルを変えて雪との共存する (T3)
冬が好き (T2)	.204**	.099	.251**
冬のくらしが楽しい (T2)	.202**	.076	.186**

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）である。

*．相関係数は 5% 水準で有意（両側）である。

このような冬の好き嫌いの意識に対して、冬のくらしで大変なこと、現状で我慢できないこと、除雪・排雪での満足度などの評価を含む回答と政策的な選択との関係は、また別の側面をもってくる。

ここでは、3 種類の意識と政策判断の関係を見ている。①大変さ（苦にならない）、②我慢、③満足度についてそれぞれ尋ねているが、一般的な傾向を見ることができる。

【表 6 大変さ・我慢・満足度と政策判断との相関】

		T3							
		夏並みに生活道路を 排雪は行政が	生活道路の 排雪は行政が	負担増でも 雪対策強化を	雪堆積場の 増設を	雪対策プランは 市民中心で	雪かきボラン ティアに参加	福祉除雪地域 協力員に参加	ライフスタイル を変える
T2	雪かきが 苦にならない	-.289**	-.272**	-.104	-.054	-.112	.203**	.220**	.308**
	車移動が 苦にならない	-.215**	-.184*	-.059	-.038	-.107	.071	.197**	.204**
	徒歩が 苦にならない	-.128	-.191**	-.018	.056	.076	.193**	.199**	.238**
	公共交通機関が 苦にならない	-.198**	-.088	.047	-.087	-.059	.192**	.167*	.185**
	間口処理を 我慢できる	-.330**	-.289**	-.146*	-.236**	.081	.211**	.113	.208**
	路側堆積を 我慢できる	-.303**	-.315**	-.145*	-.243**	-.097	.066	.149*	.227**
	幹線道路の 除雪満足度	-.315**	-.241**	-.204**	-.173*	-0.083	.172*	.208**	.229**
	幹線道路の 排雪満足度	-.295**	-.203**	-.232**	-.155*	-.042	.137	.212**	.236**
	生活道路の 除雪満足度	-.479**	-.382**	-.262**	-.228**	-.042	.174*	.158*	.188**
	生活道路の 排雪満足度	-.405**	-.349**	-.274**	-.286**	-.015	.172*	.172*	.178*

**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）である。

*. 相関係数は 5% 水準で有意（両側）である。

すなわち、T2 で「苦にならない」人ほど、生活道路の夏並を要求しないし、ボランティアにも参加の意思がある。また、「我慢できる」人も、同様の傾向がある。

また、「満足度」が高い人ほど、生活道路の排雪では夏並を考えないし、それが行政の責任とも思わない。また、雪対策の強化も考えない。さらに、雪かきボランティアや福祉除雪の地域協力員に参加の意欲がある。また、ここにあげられた人達は、ライフスタイルを変えて、雪との共存を考える傾向にある。

しばしば、「車を通勤に使っている」人や、マンションや一戸建てなどの居住形態で、政策判断は異なってくるのではないかとされている。

この点に関しては、表 7 で示されるように、両者には相関関係がないことがわかった。

【表 7 居住形態・交通手段と政策判断との相関】

	生活道路を 夏並みに	生活道路の 排雪は行政が	負担増でも 雪対策強化を	雪堆積場の 増設を	雪対策プランは 市民中心で	雪かきボラン ティアに参加	福祉除雪地域 協力員に参加	ライフスタイ ルを変える
居住形態	.002	-.017	.044	-.058	.033	.017	-.132	.033
交通手段	-.063	-.118	.001	-.035	.028	.142	.104	.083

**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）である。

*. 相関係数は 5% 水準で有意（両側）である。

このほかに、ある価値観をもった者は、ある特定の政策選好があるのではないかということも考えられる。

ここで用いた 4 つの尺度（T3）では、環境より成長を好む者が、負担増があっても雪対策を強化し、雪堆積場の増設に賛成している。しかし、歴史や伝統重視の立場の者は、負担増の雪対策強化には賛成しない。また、政治的有効性感覚の尺度はライフスタイルやボランティアには反応しているが、雪対策の強化にも生活道路の排雪には反応していない。

【表 8 価値観と政策判断との相関】

	生活道路を 夏並みに	生活道路の 排雪は行政が	負担増でも 雪対策強化を	雪堆積場の 増設を	雪対策プランは 市民中心で	雪かきボラン ティアに参加	福祉除雪地域 協力員に参加
競争／平等	-.003	.037	-.035	.052	-.164*	-.051	.029
環境／成長	.192**	.082	.325**	.194**	-.073	-.082	-.024
伝統／改革	-.118	-.030	-.204**	-.117	.013	-.001	-.102
政治的 有効性感覚	-.092	.026	-.030	-.023	.066	.154*	.108

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

*．相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

2.3 態度や意見の変化の分析

ここまで T1、T2、T3 へと意見や態度が変化してきたのをみてきた。では、なぜ変化したのかを探ることが次に必要となる。

通常の統計分析では、社会的属性と政策に対する態度や意見との関係を見ることで、傾向を読み解くことはできるが、ここでの、T1、T2、T3 での態度の変化の間に、社会的属性は変化していないので、その理由として挙げることは難しくなる。それゆえ、この間の変化した項目を探り出すことがまず求められる。T1 から T2 までのように時間の経過とともに自然に変化することもあるが、T2 と T3 のような短い間での変化は、とくに、理由を見つける必要がある。

もともとの、討論型世論調査の過程を振り返ってみると、①討論資料や討論過程を経ると知識や情報が増え、意見や態度が変わる可能性がある、②小グループ討論を経て、意見や態度が変わる可能性がある、③全体会議で専門家との質疑を経て、意見や態度が変わる可能性がある。具体的には、①知識質問の正答率の上昇が態度変化と関係しているかどうかをみること、②他者の意見の尊重と態度変化の関係、③全体会議の評価と態度変化の関係をみることにする。

【表 9 知識質問の正答率の上昇・他者の意見の尊重・全体会議の評価と態度変化との相関】

	T3							
	夏並みに 生活道路を	生活道路の 排雪は行政が	負担増でも 雪対策強化を	雪堆積場の 増設を	雪対策プランは 市民中心で	雪かきボラン ティアに参加	福祉除雪地域 協力員に参加	ライフスタイ ルを変える
知識質問の 正解数 (T3)	-.091	.000	.077	-.033	-.008	.242**	.119	.053
全体会議を 参考 (T3)	-.181*	-.039	-.206**	-.050	.189**	.151*	.225**	.151*
他から学ぶ (T3)	-.235**	-.093	-.230**	-.153*	.119	.156*	.163*	.234**

小グループの討論と全体会議の質疑によって、意見や態度の変化に影響を及ぼしていることがわかる。その点、知識量の変化は話しあいと比べて、政策的な判断を下すときに、それほど大きく影響を及ぼしているとはいえない。

3. 調査と討論フォーラムの参加者の評価

本討論型世論調査では、調査プロセスや討論フォーラムについての評価を最後のアンケート調査（T3）で討論フォーラムの参加者に尋ねている。

討論型世論調査に関する質問では、調査全体や討論資料、小グループ討論に対する評価や運営に関して7段階の尺度で聞いている。それぞれの数字は回答者の割合であり、平均値は7段階尺度での参加者評価の平均を示している。

全体の回答傾向としては、討論型世論調査の仕組みそのものに対する評価は、平均点が5.3点となっており、高評価といえる。同様にグループ討論への参加への評価が5.7点、全体討論での専門家との質疑応答への評価が4.5点、討論資料からの情報への評価が5.2点となっている。

【表 10 討論型世論調査の仕組みについての評価（T3）】

	1 役に 立た ない	2	3	4 中間	5	6	7 役に 立つ た	NA	平均値
① この討論フォーラム全体	2.5	2.5	4.4	15.7	27.5	23.0	24.5	0.0	5.3
② 小グループ討論への参加	1.5	0.5	3.4	11.3	23.5	26.5	32.8	0.5	5.7
③ 小グループ討論外での、他の参加者との意見交換	1.5	2.0	5.9	25.5	14.7	23.0	21.6	5.9	5.2
④ 全体討論での専門家との質疑応答	4.9	7.4	8.8	24.5	26.5	19.6	8.3	0.0	4.5
⑤ 討論資料からの情報	2.5	2.0	4.9	21.6	19.6	32.4	17.2	0.0	5.2

また、討論資料を事前に読んだか否かという設問に対して、6割以上の人が全部読んだと答えている。そして、この討論フォーラムに参加した理由としては、「雪対策に関心があったから」という理由が4割以上で、最も多かった。

【表 11 討論資料を読んだか (T3)】

読んでいない	半分以下しか読んでいない、目を通した程度	半分程度は読んだ	半分以上は読んだ	全部読んだ	全部読んだ上、さらに興味を持った項目などについて自身で調べた	NA
4.9	13.7	8.3	10.3	52.5	10.3	0.0

【表 12 討論フォーラムに参加した理由 (T3)】

テーマ「雪とわたしたちのくらし」に関心があったから	札幌市の雪対策に関心があったから	討論型世論調査という手法に関心があったから	自分の意見を述べることや、他人の意見を聞くことに興味があったから	札幌市の政策や事業に活かされることを期待するから	謝金や昼食が提供されるから	その他	NA
17.2	48.5	27.5	30.9	30.4	24.0	5.4	1.0

4. まとめ

このたびの T1・T2・T3 における変化の全体的な傾向は次の通りである。

- ・札幌市の雪対策に対する満足度が上がった。
- ・予算を増加させても雪対策を強化すべきという意見は減少した。
- ・雪かきボランティアなど市民自ら雪対策に協力できるという意見が増加した。
- ・雪堆積場の増設は「最優先する必要はない」という意見が増加した。
- ・ロードヒーティングや流雪溝など雪処理施設の新設に対する期待は減少した。

また、ここまでの分析からわかったことは、具体的に次のとおりである。すなわち、道路の排雪に関して、「夏に近い道路の水準を目指す」という意見は T1、T2、T3 と段階を進むにつれ減少してきた。しかし、依然として生活道路の排雪には参加者の不満が残っている。

札幌市の今後の雪対策については、「ほどほどの雪対策にとどめ、かける費用を軽減すればいい」と「税など住民の負担が増えても、現在の雪対策をもっと強化すべき」という選択肢のうち、後者の「強化すべき」という意見は減少している。

雪堆積場の増設については、平均値でも 4.6 から 3.9 に減少し、全体として雪堆積場の増設を最優先する必要はないという否定的な意見が増えた。

また、新たな雪処理施設の整備に関しては、「期待しない」という意見が増加し、「期待する」という意見が減少しており、新たな施設による雪対策の解決への期待度は低い。

雪の問題は札幌市が担う部分と札幌市民が役割を果たす部分とがある。札幌市民が今後の雪対策についてできることに関する設問において、できることには大きく 2 つの領域に分かれる回答であった。

1 つは、雪かきボランティアへの参加や福祉除雪の地域協力員になるなど、労力がかかる協力である。これに関しては「できない」という回答が多かった。

一方で、身近でできることやルールやマナーを守ることなどは、「できる」という回答が多く、違いが見られた。

また、市が行っている市民への施策は認知されていないものが多い。しかし、雪についての札幌市役所の情報の信頼度は、研究者・専門家並みであるので、その信頼に応える方法の模索が重要だろう。

このように回答をまとめてきたが、これら回答の全体を俯瞰した結果、雪対策にはいくつかの空白部分が残っていることがわかる。

今後、負担を抑制して、札幌市の雪対策を強化しないということは、生活道路の排雪へ

の不満は依然として残ることになる。また、雪堆積場の増設がないと、当然ながら排雪には限界が生じる。しかし、このような空白部分をすべて、市民が担うわけではない。また、新しい雪処理施設が決め手ではないとすると、現状を当分受け入れる必要があるということでもある。ということで、札幌市の雪問題は依然として残ることになる。

ライフスタイルを変えて雪との共存を図ることも 1 つの方法ではあるが、札幌が大都市であり、車社会であるということは逃れられない。すなわち、幹線道路や生活道路の除雪・排雪も自動車での移動の問題と関わっている。

しかしながら、このような複雑に絡み合った問題を、今回の討論型世論調査を通じて、学び、考え、話しあった結果、ここに 1 つの調査結果が出たということは、政策的判断をするときに大いに役立つことになるだろう。

5. 討論フォーラムの参加者の特徴と検定

本章では、討論型世論調査における事前の世論調査 T1 調査の回答者（以下、T1 全体）と、討論フォーラムの参加者（以下、T1 参加者）の属性を比較し、両者の間に明確な差があるかどうか検証する。

5.1 討論フォーラム参加者の特徴

フォーラム参加者の性別・年代別の内訳は表 13 のとおりである。ここから読み取れることは、次のような特徴である。

- ・ 男性が女性よりも多く参加している。
- ・ 参加者全体に占める 30 代と 60 代の比率が高い。
- ・ 20 代後半から 50 代前半までは男性に比べて女性の参加者割合が高い。

【表 13 フォーラム参加者の性別・年代別の内訳】（単位：人）

	男性	女性	NA	合計
18～19 歳	3	1	0	4
20～24 歳	7	2	1	10
25～29 歳	4	5	0	9
30～34 歳	11	7	0	18
35～39 歳	8	12	0	20
40～44 歳	7	10	0	17
45～49 歳	7	8	0	15
50～54 歳	6	8	0	14
55～59 歳	12	7	1	20
60～64 歳	13	9	0	22
65～69 歳	16	6	0	22
70～74 歳	9	9	0	18
75～79 歳	6	0	0	6
80 歳以上	1	5	0	6
NA	1	1	1	3
合計	111	90	3	204

図 34 は、T1 全体（n=1368）と T1 参加者（n=204）の年代構成を比較したものである。80 歳以上では、T1 全体に比べて T1 参加者の比率が低くなっている。それに対して、20 代前半と 30 代前半では、T1 全体に比べて T1 参加者の比率が高くなっているが、年齢構成はほぼ同一であるといえる。

【図 34 年代構成の回答比較】

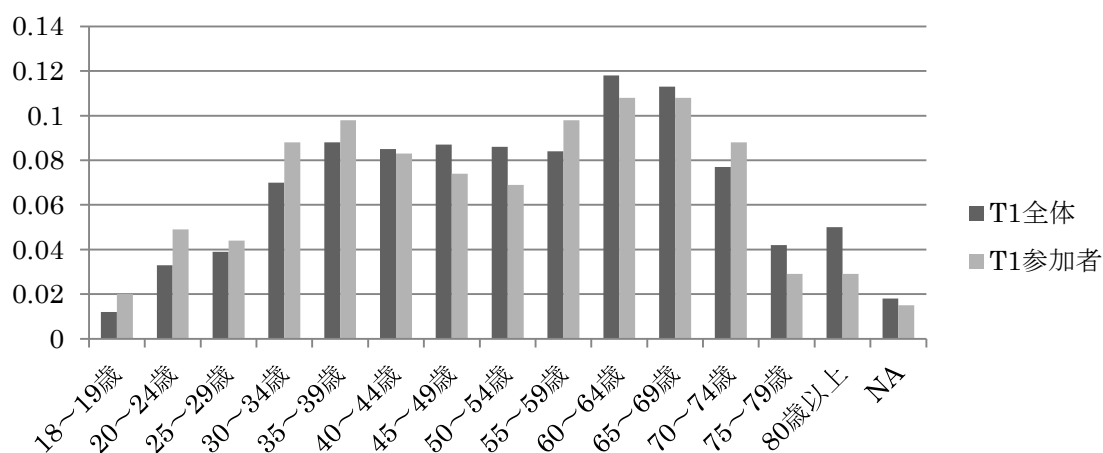


図 35 は、T1 全体と T1 参加者の居住地構成を比較したものである。東区は、T1 参加者が T1 全体を上回っているのに対して、豊平区は、T1 参加者が T1 全体を下回っているが、全体的には同じ傾向である。

【図 35 居住地構成の回答比較】

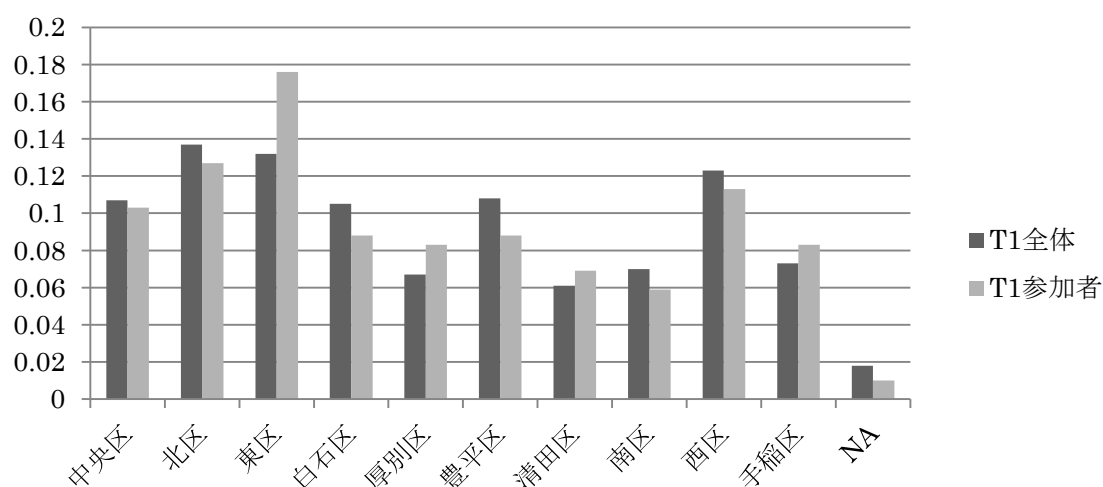
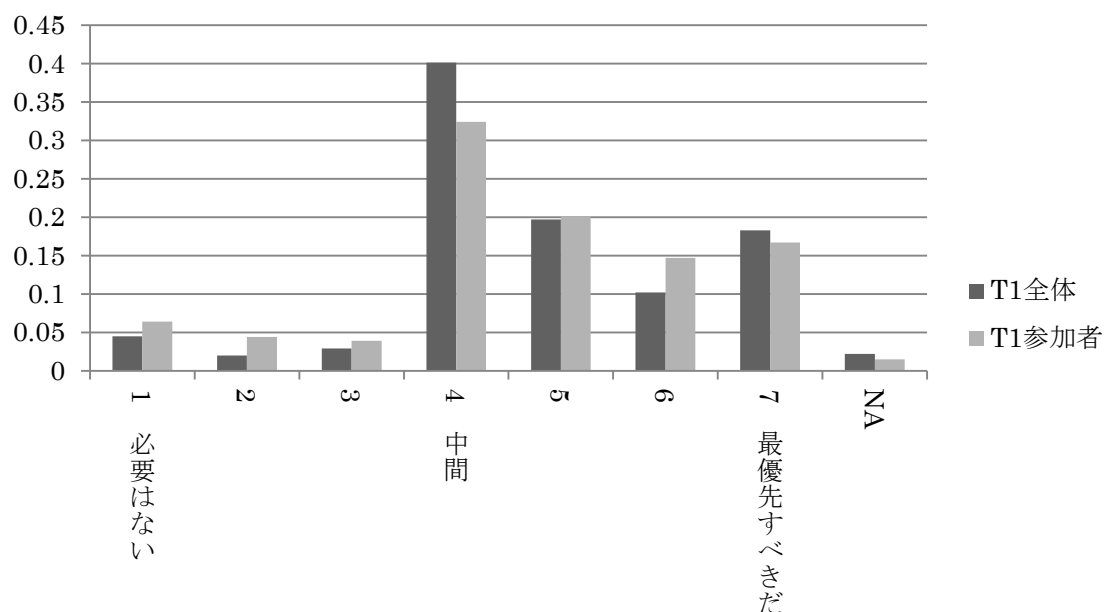


図 36 は、T1 全体と T1 参加者の雪堆積場の増設に関する設問の回答を比較したものである。「中間」という意見の比率が、T1 参加者より T1 全体の方が高いが両者に大きな差はない。

【図 36 雪堆積場の増設に関する設問の回答比較】



5.2 討論フォーラム参加者の有意差に関する検定

表 14 と表 15 は、本調査の討論フォーラムに参加した人と参加しなかった人に有意な差がないかどうかを検証し、討論フォーラムの参加者と事前の世論調査の回答者を同じに扱っていいかどうかを示したものである。設問の右の t-検定の欄に*や**のある設問は、討論フォーラムに参加した人と参加しなかった人で有意な差があるものである。

性別、年齢、住所などの社会的属性を問う設問では性別には有意差があるが、表に見るように、雪に関する政策判断の設問に一般的な質問では両者に有意差はないといえる。また、この他でも雪に対する一般的な設問、雪に関する知識を問う設問（札幌市の雪対策の予算や、雪対策で最も予算がかかるもの、排雪の費用、雪堆積場に運ばれる雪の量、国や札幌市が定めるルールなど）で、情報源に対する信頼度の設問などでも、T1 全体と T1 参加者を比較すると、有意差はないといえる。

参加者の社会的属性を問う設問では、性別、年齢、住所などの他に、職業、家族形態、住居形態などについても尋ねたが、これらについても有意差はなかった。

【表 14 フェイスシート T1 参加者と T1 非参加者の有意差】

t-検定 (*p<0.05 **p<0.01)

		参加者	非参加者	t-検定
性別**	男性	54.4	38.8	**
	女性	44.1	58.0	
	NA	1.5	3.2	
年齢	18～19 歳	2.0	1.0	
	20～24 歳	4.9	3.0	
	25～29 歳	4.4	3.8	
	30～34 歳	8.8	6.7	
	35～39 歳	9.8	8.6	
	40～44 歳	8.3	8.5	
	45～49 歳	7.4	8.9	
	50～54 歳	6.9	8.8	
	55～59 歳	9.8	8.2	
	60～64 歳	10.8	11.9	
	65～69 歳	10.8	11.3	
	70～74 歳	8.8	7.5	
	75～79 歳	2.9	4.4	
	80 歳以上	2.9	5.4	
	NA	1.5	1.9	
住所	中央区	10.3	10.7	
	北区	12.7	13.9	
	東区	17.6	12.4	
	白石区	8.8	10.7	
	厚別区	8.3	6.4	
	豊平区	8.8	11.2	
	清田区	6.9	5.9	
	南区	5.9	7.2	
	西区	11.3	12.5	
	手稲区	8.3	7.1	
	NA	1.0	1.9	

【表 15 意見・態度 T1 参加者と T1 非参加者の有意差】

	参加者	非参加者	t-検定
幹線道路の排雪レベル			
1～3	50.5	43.7	
4	19.1	27.3	
5～7	28.9	26.6	
NA	1.5	2.4	
生活道路の排雪レベル			
1～3	49.5	39.0	
4	25.5	27.2	
5～7	24.0	31.0	
NA	1.0	2.2	
生活道路の排雪の責任			
1～3	17.1	10.1	
4	30.4	33.1	
5～7	50.0	53.9	
NA	0,0	2.9	
札幌市の今後の雪対策			
1～3	24.0	17.0	
4	32.8	36.9	
5～7	42.6	44.5	
NA	0.5	1.5	
雪堆積場の増設			
1～3	14.7	8.4	
4	32.4	41.5	
5～7	51.5	47.7	
NA	1.5	2.3	

これらのことから、討論フォーラム参加者と非参加者にはそれほど大きな違いはないと言える。

6. 討論型世論調査の運営について

6.1 調査の概要

札幌市と慶應義塾大学 DP 研究センターは、討論型世論調査「雪とわたしたちの暮らし」を共同で実施した。

これは、「雪とわたしたちの暮らし」をテーマに、札幌市における現状の除雪水準に対する考え方や費用負担の問題、今後の方向性・将来像等の論点を通じ、雪に対する考え方・関わり方について、札幌市民に今一度考えてもらおう契機となるよう熟議・熟慮を促し、今後の市民議論に繋げていくことを目的とするものである。

討論型世論調査は、(1) 世論調査と (2) 討論フォーラムの 2 つから構成される。今回の討論型世論調査の実施概要は、次のとおりである。

(1) 世論調査 (T1 調査) は、平成 26 (2014) 年 1 月 22 日 (水) から 2 月 10 日 (月) までの期間、無作為抽出した 18 歳以上の札幌市民 3,000 人に対して、郵送法で実施した (1,368 件の回答を得た)。この調査には、討論フォーラムの参加意向調査票を同封し、回答者全員に対して討論フォーラムへの参加を促した。

(2) 討論フォーラムは、3 月 15 日 (土) 9 時 00 分から 18 時 30 分まで、札幌市男女共同参画センター (札幌市北区北 8 条西 3 丁目) で開催し、205 名が参加した (有効回答数は 204 件であった)。

通常の世界論調査が 1 回で意見を調べるのに対して、討論型世論調査 (Deliberative Poll :DP) は、世論調査に加えて、資料や全体会議での質疑応答を通じた専門家から十分な情報の提供や、小グループ討論での議論などを通じてじっくりと課題について考えた後に、再度、調査を実施して、意見や態度の変化を調査するという手法である。

この方法は、スタンフォード大学のフィッシュキン (James S. Fishkin) 教授とテキサス大学のラスキン (Robert C. Luskin) 准教授が考案したもので、1994 年に英国で初めて行われて以降、世界中で実践されてきた。通常の世界論調査に比べて、熟慮された意見を調べることができ、また無作為抽出によって代表性・公平性が確保される手法といえる。

一般的に、人々は、公共的な政策課題に対して、十分な情報がない状況になりがちである。課題に対して意見や態度を決めかねることも多い。このような問題点を克服するために企図されたものが討論型世論調査である。

さらに、討論型世論調査で実施される対象を無作為抽出で参加者を選出するため、いわば「社会の縮図 (microcosm)」が形成される。そのような代表性を有する人々が十分な情報

に基づき行った議論は、公共政策を考えるうえで、非常に参考になるものといえる。

（討論型世論調査の構造）

討論型世論調査は、事前の世論調査（郵送調査や電話調査）と討論フォーラムの 2 つから構成される。

まず議題に関して、無作為抽出（今回は、札幌市内の 18 歳以上の男女 3,000 人）を対象に世論調査（T1 調査）を行う。ここまでは、通常の世界調査と同じであるが、討論型世論調査が通常の世界調査と異なる点は、これ以降の過程である。

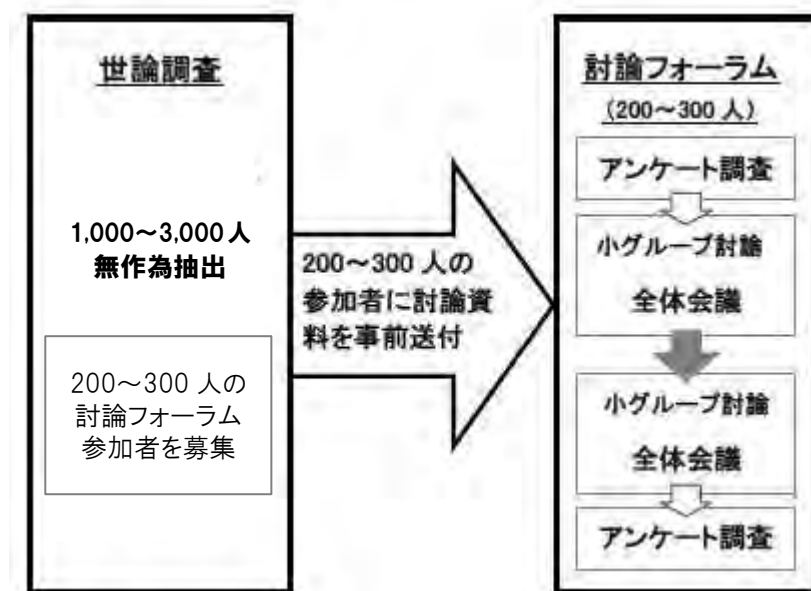
事前の世界調査に回答した方に、討論フォー

ラムへの参加を募る。通常は 200～300 人が討論フォーラムに参加することになる（今回は、約 200 人を予定した）。

討論フォーラムへの参加者には、議論すべきテーマについての情報を必要かつ簡潔にまとめた討論資料を事前に送付し、討論フォーラムまでに読むように依頼する。この討論資料は、争点をめぐる対立する複数の見解を簡潔に要約し、それぞれの論拠や基礎的資料等を示したうえで、テーマがバランスよく公平に紹介されるように、複数の専門家からのアドバイスを受ける。

そのうえで、参加者を一堂に集めた討論フォーラムを開催する。討論フォーラムでは、最初に、課題についてのアンケート調査（T2 調査）を行う。続いて、調査の趣旨を理解し十分に訓練されたモデレータの司会の下で、15 人程度の小グループに分かれて議論を行う（小グループ討論）。その後、参加者全員で集まり、議題に詳しい専門家に質疑する場を設ける。

この小グループ討論と全体会議を複数回繰り返す（今回は、2 回繰り返した）。最後に、最初に行ったものとほぼ同内容のアンケート調査（T3 調査）を行う。3 つの調査（最初の世界調査、討論フォーラム前のアンケート調査、討論フォーラム後のアンケート調査）の回答内容の変化から、情報獲得や討論の過程の前後で参加者の意見がいかに変化したのか（あるいは変化しなかったのか）を調査する。



討論型世論調査の特徴は、大きく以下の3つが挙げられる。

第1に、母集団を統計学的に代表するように参加者を無作為にサンプリングして選定するので、積極的な参加希望者だけでなく、若年層やその他の層も含まれることで、社会の縮図が再現され、これにより代表性・公平性が担保される。

第2に、普段、公共政策に関心の低い層や、関心があってもなかなか意見を言い出せないサイレントマジョリティの声を聞くことができる。また、いたずらに激しく対立するような議論に陥らず、立場が異なるさまざまな方が、相互に尊重しながら対話を通じて形成された意見の聴取が可能となる。

第3に、議論すべき政策課題について、専門家の知見などの情報が整理されて示されたうえで、討論を行う場が形成されるので、参加者は、表面的な理解ではなく、長期的な視点に立った十分に熟慮された意見を示すことができるようになる。

6.2 調査の実施体制

札幌市・慶應義塾大学 DP 研究センター共同プロジェクト討論型世論調査「雪とわたしたちのくらし」の実施体制は、次のとおりである。

(1) 事業の実行責任者として、全体統括を行うプロジェクト代表は、慶應義塾大学 DP 研究センター研究代表の曾根泰教（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）が務めた。

(2) 討論型世論調査の企画・運営は、曾根教授が研究代表を務め柳瀬昇（日本大学法学部准教授）が事務局長を務める慶應義塾大学 DP 研究センターが担当した。

(3) 調査票及び討論資料に関して、手法についての専門的見地から意見を提供するとともに、小グループ討論のモデレータを研修し、併せて、今回の事業全体を通じて、公式の討論型世論調査の手法に従って実行されているかどうかについて、スタンフォード大学センター・フォー・デリバラティブ・デモクラシー（以下、「DD 研究センター」という）所長のジェームズ・S・フィッシュキン（スタンフォード大学コミュニケーション学部教授）と同センター副所長のアリス・シューが監修した。

(4) 調査票及び討論資料に関して、テーマについての専門的見地から意見や助言を提供するアドバイザー委員については、表16に挙げる7氏に委嘱した。また、内田氏を除く6名の委員は、討論フォーラム当日の全体会議のパネリストも兼務した。

そして、(5) 事業運営上の諸事務については、札幌市市長政策室広報部及び柳瀬准教授が担当した。

(1) 運営事務局の構成

運営事務局は事業主体である札幌市市長政策室広報部におき、事務局長を三井一敏広報部長とした。運営事務局では、主に下記の業務を行った。

- ・ T1 の回収及び単純集計
- ・ 討論フォーラムの会場選定
- ・ 調査及びフォーラムに関わる市民向け案内文の作成・印刷や備品の用意
- ・ 討論フォーラムへの参加意向確認
- ・ 討論フォーラムの会場設営・受付・会場誘導など
- ・ 市民からの問い合わせ対応全般

(2) アドバイザー委員の構成

討論型世論調査では、討論資料、調査票及び論点について、事実誤認を防ぎ、見解に偏りがないよう専門家から意見や助言を受ける。今回の実施については、「雪とわたしたちの暮らし」というテーマの性質が札幌市民の生活と密接であり、あらゆる分野と関連することが想定されたため、複数分野の専門家にアドバイザー委員として委嘱することとした。

各アドバイザー委員には調査の概要を説明のうえ、電子メール等で討論資料、調査票について意見をもらった。

【表 16 アドバイザー委員の構成】

氏名	所属	専門分野
赤城 由紀	札幌国際大学人文学部准教授	消費者心理、ライフスタイル
内田 和男	北海道武蔵女子短期大学学長	経済学
小山 茂	札幌大学地域共創学群教授	物流・交通計画、まちづくり
杉岡 直人	北星学園大学社会福祉学部教授	地域福祉学、福祉社会学、農村社会学
乳井 文夫	札幌市除雪事業協会会長	除排雪作業主体
萩原 亨	北海道大学大学院工学研究院教授	交通工学、交通計画学
原 文宏	北海道開発技術センター理事	積雪寒冷地域の交通計画、地域づくり

(五十音順)

(3) 監修者について

公式の討論型世論調査（Deliberative Polling®）は、スタンフォード大学 DD センターの登録商標とされており、公式の討論型世論調査というためには、スタンフォード大学 DD センターの承認が必要である（なお、慶應義塾大学 DP 研究センターは、スタンフォード大学 DD 研究センターのわが国における公式の研究パートナーである）。

わが国におけるこれまでの討論型世論調査では、毎回、公式の討論型世論調査と認定されるために、スタンフォード大学 DD 研究センターのスタッフを招聘し、調査の監修を受けてきた。

今回の討論型世論調査も、これまでの調査と同様に、スタンフォード大学 DD 研究センターの所長であり討論型世論調査の主唱者であるフィッシュキン教授と同センターの副所長のアリス博士を招聘し、3月14日のモデレータ講習会での解説及びシミュレーションの指導を依頼するとともに、15日の討論フォーラムの監修を依頼した。

そして、15日の全体説明会②における討論型世論調査の認証式において、フィッシュキン教授は、ホール壇上に上がり、参加者や関係者の前で、今回の札幌市の「雪とわたしたちの暮らし」が公式の討論型世論調査として認証する旨を宣言した。

なお、フィッシュキン教授らは、15日の記者説明会にも同席し、今回の調査について解説をした。

6.3 世論調査・アンケート調査の設計

討論型世論調査では、前述のとおり、最初の世論調査（T1 調査）、討論フォーラム開始時に行う討論前アンケート調査（T2 調査）、フォーラム終了時に行う討論後アンケート調査（T3 調査）の3つの調査を行う。

世論調査及びアンケート調査の内容は、討論資料と同様に、札幌市の全面的な協力の下、慶應義塾大学 DP 研究センターが原案を作成し、監修委員（英訳版に基づく）及びアドバイザー委員に対して助言を求め、両委員による意見を踏まえて、最終的には DP 研究センターの責任で制作した。

討論型世論調査では、複数回行われる小グループ討論と全体会議の前後で、事前に行った世論調査（T1 調査）と同内容のアンケート調査を実施する点が特徴である。

T2 調査の回答結果と T3 調査の回答結果との比較からは、討論フォーラムにおける小グ

ループ討論と全体会議を通じた参加者の意見の変化（すなわち、討論過程の影響）を読み取ることができるが、それ以外にも、次のようなデータを得ることができる。

まず、通常の世論調査である T1 調査の結果そのものからは、議題となる政策課題について、一般の国民の直感的な意見を確認することができる。これは、一般的な世論調査の利用方法である。

次に、T1 調査の全回答者の回答結果と、T1 調査段階での討論フォーラム参加者の回答結果との比較からは、討論フォーラム参加者の特徴を読み取ることができる。また、属性を比較することによって、参加者が母集団を人口動態学的に代表するものといえるか否かを判断しうるし、意見分布を比較することによって、参加者が母集団を意見・態度の面で代表するものといえるか否かを判断しうる。

さらに、討論フォーラムの参加者の T1 調査における回答結果と T2 調査の回答結果との比較にも注目したい。T1 調査の段階では、参加者は議題について意識的に学習しておらず、そこでは参加者の直感的な意見が示される。一方、T2 調査の実施までの間に討論資料が送付され、それを事前に読むことによって議題について学習し、改めて意見を形成することになるため、T2 調査では、参加者の熟慮の影響を確認することができる。さらに、討論フォーラムに参加することになり、議題となる政策課題について、新聞等の報道を意識的に認識するようになったり、与えられた討論資料を読むだけでなく、参加予定者が能動的に情報を収集したりすることもある。

T2 調査と T3 調査の質問紙は、T3 調査で討論フォーラムの運営に関する参加者の評価に関する設問を設けているほかは、議題に関する内容については、まったく同じである。また、今回の討論型世論調査では、回答者の便宜のため、T1 調査と T2・T3 調査とでは、設問の順序を入れ替えたりしたが、質問の内容は、基本的には共通のものである。

(1) 世論調査 (T1 調査)

T1 調査の調査票は、全 8 頁で、全 78 問であり、そのうち、雪の暮らしに関する問いが 11 問、雪対策に関する問いが 34 問、雪についての情報の信頼性に関する問いが 5 問、回答者の知識を尋ねる問いが 5 問、回答者の一般的なものの考え方に関する問いが 4 問、回答者の属性等に関する問い（フェイスシート質問）が 19 問から構成される。

調査期間は、1 月 22 日（水）から 2 月 10 日（月）までである（1 月 22 日に札幌市内から発送し、2 月 10 日までをめぐりに返送を求めたが、実際には、2 月 14 日（金）に到着分までを集計対象とした）。

有効回答数は 1,368 件であり、回答率は 45.6%である。

なお、2月5日に、回答者に対する謝意と未回答者に対する督促を兼ねたはがきを、世論調査対象者へ発送した。

【表 17 世論調査（T1）回収日計表】

回収・集計日	回収数（件）	累積回収数（件）	回収率（％）	累積回収率（％）
1月27日（月）	267	267	8.9	8.9
1月28日（火）	133	400	4.4	13.3
1月29日（水）	87	487	2.9	16.2
1月30日（木）	64	551	2.1	18.4
1月31日（金）	58	609	1.9	20.3
2月1日（土）				0.0
2月2日（日）				0.0
2月3日（月）	103	712	3.4	23.7
2月4日（火）	58	770	1.9	25.7
2月5日（水）	49	819	1.6	27.3
2月6日（木）	34	853	1.1	28.4
2月7日（金）	35	888	1.2	29.6
2月8日（土）				0.0
2月9日（日）				0.0
2月10日（月）	187	1075	6.2	35.8
2月11日（火）				0.0
2月12日（水）	237	1312	7.9	43.7
2月13日（木）	46	1358	1.5	45.3
2月14日（金）	10	1368	0.3	45.6
2月15日（土）				0.0
2月16日（日）				0.0
合 計	1368	1368	45.6	45.6

（2）参加意向調査


T1 調査と同時に、討論フォーラムへの参加意向調査を実施した。具体的には、T1 調査の調査票の発送時に参加意向調査の調査票を同封し、世論調査対象者に回答を求めた（T1 調査の調査票（桃色）は桃色の返信用封筒で、参加意向調査の調査票（黄色）は黄色の返信用封筒で、別々に返送を求めた）。この際、これらの調査票の回答方法の説明と、討論フォーラムの内容についての説明も同封した。

参加意向調査は、討論フォーラムへ、「参加したい」（選択肢 1）、「参加したいが、まだ予定を確定できない」（選択肢 2）、「参加するかどうか迷っている」（選択肢 3）、「参加したくない」（選択肢 4）のいずれかを選択するという回答形式であり、選択肢 4 については、さらにその理由について「用事がある」、「興味がない」、「その他」（自由解答欄あり）のいずれかを選択する追加質問を設けた。

そして、参加者の氏名、住所、性別、年齢、電話番号、電子メール、その他討論フォーラムに関する質問や要望等を尋ねることとした。世論調査の時点では、対象者の電話番号や電子メールなどは把握していないが、これらは、討論フォーラムへの参加案内を行うために必要な情報であるので、参加意向調査で獲得した（なお、参加意向調査の回答者から得た個人情報は、札幌市個人情報保護条例 8 条に基づき、慎重に取り扱った）。

【表 18 参加意向調査票 回収日計表】

回収・集計日	回収数 (件)	回答の内訳（選択肢別）						
		1	2	3	参加意向計 (件)	割合 (%)	4	無回答
		参加したい	参加したいが 予定を確定 できない	参加するか 迷っている どうか			参加したくない	
1月27日(月)	223	32	20	13	65	29.1	158	
1月28日(火)	114	19	13	7	39	34.2	74	1
1月29日(水)	72	15	6	10	31	43.1	41	
1月30日(木)	52	12	4	1	17	32.7	35	
1月31日(金)	42	11	2	3	16	38.1	26	
2月1日(土)								
2月2日(日)								
2月3日(月)	89	13	17	11	41	46.1	47	1
2月4日(火)	47	8	4	3	15	31.9	32	
2月5日(水)	38	9	3	3	15	39.5	23	
2月6日(木)	33	5	2	5	12	36.4	21	
2月7日(金)	28	3	2	5	10	35.7	18	
2月8日(土)								
2月9日(日)								
2月10日(月)	172	21	14	11	46	26.7	124	2
2月11日(火)								
2月12日(水)	220	16	21	17	54	24.5	166	
2月13日(木)	43	6	7	8	21	48.8	22	
2月14日(金)	9	3	1	0	4	44.4	5	
2月15日(土)								
2月16日(日)								
合計	1182	173	116	97	386	32.7	792	4

 投函期限

(3) 討論前アンケート調査 (T2 調査)・討論後アンケート調査 (T3 調査)

討論型世論調査では、複数回行われる小グループ討論と全体会議の前後で、事前に行った世論調査 (T1 調査) とほぼ同内容のアンケート調査を実施する点が特徴である。討論フォーラムの参加者の T1 調査における回答結果と T2 調査の回答結果との比較からは、討論フォーラム参加までの期間中の、討論資料をはじめとする議題についての参加者の情報接触が意見形成に与える影響を確認することができる。また、T2 調査の回答結果と T3 調査の回答結果との比較からは、討論フォーラムにおける小グループ討論と全体会議という討論過程が参加者の意見形成に与える影響を読み取ることができる。

T2 調査の調査票は全 7 頁で 60 の設問を設けており、また、T3 調査の調査票は、全 9 頁で 82 問の設問を設けていた。このうち、T2 調査と T3 調査とで共通の問題は 56 問あり、具体的には、雪の暮らしに関する問いが 6 問、雪対策に関する問いが 36 問、雪についての情報の信頼性に関する問いが 5 問、回答者の知識を尋ねる問いが 5 問、回答者の一般的なものの考え方に関する問いが 4 問である。このほかに、T2 調査では、回答者の属性等に関する問い (フェイスシート質問) を 2 問、T3 調査では、参加者による討論型世論調査についての評価に関する質問を 26 問、それぞれ設けた。今回の討論型世論調査では、新たに T3 調査において自由記述形式の設問 (討論フォーラム全体についての感想や意見を尋ねる) を 1 つ設けたが、回答時間が足りなくなるなどといった支障は生じなかった。

6.4 討論フォーラムの設計

(1) 討論フォーラムの参加意向確認

討論フォーラム参加者の参加意向確認は、T1 調査に同封した「参加したい」(選択肢 1)、「参加したいが、まだ予定を確定できない」(選択肢 2)、「参加するかどうか迷っている」(選択肢 3)、「参加したくない」(選択肢 4) のいずれかを選択してもらう参加意向調査の回答をもとに 2 月 17 日から 2 月 21 日まで行った。

まず、住民基本台帳に基づき、札幌市内 18 歳以上の居住区・年齢・男女別の割合を算出し、理想とする討論フォーラム参加者枠を設定した。そこに「参加したい」(選択肢 1) と回答した調査対象者を優先的に割り振り、足りない属性を「参加したいが、まだ予定を確定できない」(選択肢 2)、「参加するかどうか迷っている」(選択肢 3) と回答した対象者で補うこととし、歩留まりを考慮して架電したのは 380 名である。

小グループ討論が討議として成立しうる 250 名の参加者獲得を目標に「参加したい」（選択肢 1）と回答した対象者をはじめとして、参加意向調査に記載されている電話番号に架電し、討論フォーラムへの参加のお願いと確認（食物アレルギー（運営側が昼食を用意）、託児所利用、車いす利用の有無について）を行った。不在であった対象者については、留守番電話及び家族へ伝言を残すようにし、参加を促した。

「参加したいが、まだ予定を確定できない」（選択肢 2）、「参加するかどうか迷っている」（選択肢 3）と回答したが、選考に漏れた方には 2 月 28 日付で落選通知を発送し、参加意図が確認できた対象者には 3 月 5 日に討論資料と参加要領を発送した。

（2） 討論資料の作成

討論型世論調査では、討論フォーラムの参加者に対して、討論資料を送付し、それを読んだうえで参加に臨むことを求めている。この討論資料とは、議題に関して問題の所在を明らかにしたうえで、基礎的な資料等を添え、主要な論点をめぐる対立する複数の代表的な主張とその論拠を解説するものである。取り上げる議題に関して、どのような論点を討論フォーラムで扱い、それらについてどのような主張がなされているのかを、一般の参加者に、正確に、かつ簡潔に説明する資料でなければならないため、討論資料は、既存の図書等で代用することはできず、調査主体が独自に作成しなければならない。

討論資料は、札幌市の全面的な協力の下、慶應義塾大学 DP 研究センターが原案を作成し、監修委員（英訳版に基づく）及びアドバイザー委員に対して助言を求め、両委員による意見を踏まえて、最終的には DP 研究センターの責任で制作した。資料の作成にあたり必要な情報については、札幌市の公表資料や DP 研究センターが独自で収集した資料のほか、札幌市から提供を受けた。

討論資料の体裁は、表紙を除き 28 頁で構成され、表紙を含めてコート紙に全頁カラー印刷をし、中綴じ製本を施したものである。

参加者には、3 月 5 日に札幌市内内から郵送した。討論フォーラムの参加にあたり、参加者に事前に読むために、一定の時間を要すると考えたためである。

なお、討論フォーラム終了後に、討論資料を札幌市のウェブサイトで公表した。

6.5 討論フォーラムの概要

討論フォーラムは、全体説明会、討論前アンケート調査（T2 調査）、モデレータの進行の

下で、15 人程度の小グループに分かれて参加者が議論する小グループ討論、小グループ討論で参加者が作成した質問を専門家が回答する全体会議、討論後アンケート調査(T3 調査)によって構成される。これは、標準的な討論型世論調査の構造である。

今回の討論フォーラムでは、小グループ討論と全体会議を2セット行うこととした。

(1) 日時・会場

討論フォーラムは、3月15日(土)の9時00分から18時30分まで行った。会場は、落ち着いた静かな環境で小グループ討論を実施するため、複数の小教室が用意されていること、また、全体会議を実施するため、約250名程度収容できるホールが用意されていることが必要条件であった。そこで、参加者の来場に便利な「札幌駅から徒歩5分」という立地であり、必要条件を満たしていた札幌市男女共同参画センター(札幌市北区北8条西3丁目)にて実施することとした。

(2) 費用・謝金

討論型世論調査では、一般に、利害関係者ないし議題に強い関心を有する者のみの参加、あるいは無償で利他的な活動を積極的に行おうという意思のある特定層のみの参加としないため、討論フォーラムでは参加者に対し経済的負担を求めず、謝金を支払う。

今回の討論型世論調査では、札幌市内限定で参加者を招聘することから、自宅から会場までの交通費については各自負担でお願いし、当日参加していただいた謝礼として8,000円を支払うこととした。

支払いは参加者に事前に送付してあった討論資料・参加要領の中に口座振替申出書を同封し、当日持参してもらったうえ、フォーラム終了後に各自希望の口座に振込を行った。

(3) 討論フォーラムのスケジュール

15日当日の参加者のスケジュールは、表19のとおりである。

【表 19 討論フォーラムのスケジュール】

9 : 00 ~ 9 : 30	受付	3 階の受付で、参加証・口座振込申出書を提出し、当日の資料を受け取る。
9 : 30 ~ 10 : 00	全体説明会① (討論前アンケート)	3 階のホールで、今回の討論型世論調査についての説明を受ける。その後、討論前アンケートに回答する。
10 : 10 ~ 11 : 40	小グループ討論① 「雪対策のいま」	15 人程度の小グループに分かれて、モデレータの進行の下で、参加者同士で話し合いをし、専門家へ尋ねたい質問をまとめる。
11 : 40 ~ 12 : 40	昼食	小グループ討論の会場で、昼食（弁当）を取る。
12 : 50 ~ 14 : 20	全体会議① 「雪対策のいま」	3 階のホールで、小グループ討論①で出てきた質問について、専門家が回答する。
14 : 30 ~ 16 : 00	小グループ討論② 「雪対策のこれから」	小グループ討論①と同様に、話し合いを行い、質問をまとめる。
16:20 ~ 17 : 50	全体会議② 「雪対策のこれから」	3 階のホールで、小グループ討論②で出てきた質問について、専門家が回答する。
18 : 00 ~ 18 : 30	全体説明会② (討論後アンケート)	3 階のホールで、討論後アンケートに回答する。最後に、実施主体側からの閉会の挨拶を受け、討論型世論調査の認証式に臨席する。
18 : 30	解散	

(4) 小グループ討論の参加者グループ分け

小グループ討論の構成は、属性のみに注目し、参加予定者 273 名の①年代、②性別、③居住区に偏りが出ないように分散させ、A から O までの 15 グループに分けた。

参加意向確認を終えた後、フォーラム開催日前日までに連絡のあった欠席者は 36 名であったため、前日時点での参加予定者は 237 名である。

(5) 全体会議

全体会議は、小グループ討論において各グループが作成した質問 1 問を、小グループの

代表者（質問者）が、議題についての専門家であるパネリストに対して質疑し、パネリストが回答するものである。討論型世論調査において、パネリストの役割は、あくまで参加者からの質問に答えることのみであって、自ら積極的に講演をしたり、パネリスト同士での討論を行ったりするものではない。

今回の討論フォーラムの全体会議は、インターネットの動画共有サービスである Ustream によって、同時中継された。

全体会議は①・②ともに、曾根泰教授（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）が司会を務めた。

全体会議①は、12 時 50 分から 14 時 20 分まで、「雪対策のいま」をテーマとして行った。全体会議①のパネリストは、小山茂（札幌大学地域共創学群教授）、乳井文夫（札幌市除雪事業協会会長）、萩原亨（北海道大学大学院工学研究院教授）の 3 氏である（五十音順）。

また、全体会議②は、16 時 20 分から 17 時 50 分まで、「雪対策のこれから」をテーマとして行った。全体会議②のパネリストは、赤城由紀（札幌国際大学人文学部准教授）、杉岡直人（北星学園大学社会福祉学部教授）、原文宏（北海道開発技術センター理事）の 3 氏である（五十音順）。

（6）モデレータの養成と小グループ討論の進行方法

今回の討論フォーラムの参加者は、約 200 人を予定しており、小グループは 15 個を作る予定であった。したがって、モデレータは 15 名を選任した。

今回の討論型世論調査のモデレータは、全員、日本ファシリテーション協会に所属し、さまざまな会議等のファシリテーションに従事してきた方々である。このうち、5 名は、これまでのわが国の討論型世論調査において、小グループ討論のモデレータを 4 回ないし 6 回務めたことのある経験者であり、北海道外から参加した。また、10 名は、日本ファシリテーション協会北海道支部に所属し、うち数名は BSE 問題に関する討論型世論調査「みんなで話そう、食の安全・安心」の討論フォーラム（2011 年 11 月 5 日、北海道札幌市）でモデレータを務めた経験者である。なお、この BSE 問題に関する討論型世論調査とは、平成 22-24 年度科学研究費補助金（基盤研究（B）、22300301）の助成により、BSE 問題に関する討論型世論調査実行委員会と北海道大学科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）によって行われたものであり、今回の調査の事務局を務めた柳瀬准教授は、この補助事業の研究分担者であり、かつこの調査の実行委員を務めた。

今回の調査では、15 名のモデレータのほかに、体調不良等不測の事態に対応するため、加えて 2 名の日本ファシリテーション協会会員が、前日の講習会に参加するとともに、当

日は小グループ討論を傍聴した。

モデレータに対しては、事前に今回の調査に関する資料及び討論資料等を送付したうえで、討論フォーラム前日（3月14日）の13時から18時まで、実際の会場となる札幌市男女共同参画センターで実施した。まず、慶應義塾大学 DP 研究センターの曾根研究代表が討論型世論調査の意義等について講義を行い、スタンフォード DD 研究センターのフィッシュキン所長とアリス副所長が実際の小グループ討論の意義等について解説した。その後、休憩をはさみ、フィッシュキン・アリス両氏の指導の下、モデレータが2つのグループに分かれてシミュレーションを行った。当日モデレータを務める方々が、実際にモデレータと参加者の役割を模倣的に経験することにより、モデレータ等の役割に慣れるとともに、実際の小グループ討論で起こりうる問題点等を予見することができる。このようなシミュレーションを2回実施し、両氏による講評や質疑応答の時間を設けた。

討論型世論調査における小グループ討論は、他の参加者を言い負かすことや、グループ全体で合意を形成することが目的ではない。さまざまな意見を聞く機会を設け、熟慮し討議することに意味がある。小グループ討論の役割は、参加者の議題についての学習と、全体会議でパネリストに尋ねる質問の形成の2つであるとされる。

討論型世論調査において、モデレータが果たす役割は重要である。小グループ討論のモデレータは、議論が順調に進み、できるだけ多くの参加者が議論に貢献し、各論点について、多様な考え方が出るように導く重要な役割を担う。参加者が異なる見解を尊重し、各自が自分の意見を形成できる、安心できる環境を作ることが求められる。一方で、モデレータが自分の見解を披露することは、厳しく禁止されている。また、議論の進行や参加者への応答に、自分の考え方が表れないように注意が求められる。

モデレータは、小グループ討論を開始する前に、参加者に対して、(1) 参加者全員の意見が尊重されること、(2) 全員が議題の専門家ではないということ、(3) 全員が互いの意見を聞かなければならないこと、(4) 立場が大きく異なる人がいる場合であっても、互いに敬意を持って話し合うことが重要であることを伝える。

発言しやすい環境ができ次第、モデレータは、各回の論点を意識して、参加者による討論を進行する。参加者が議論に慣れないうちは、参加者は各々モデレータに対して発言しようとするが、意識的に参加者同士で話し合うように促すことが求められる。政策の方向性について参加者に意見を尋ね、その方向性に賛成する（または反対する）根拠や考える結果について熟考を促す。

実質的な討論が軌道に乗ってきたら、モデレータは、討論資料をマニュアルのように取り上げるのではなく、むしろ資料に言及するのは最低限に留め、なるべく言葉を挟まず、

討論が自然な会話のように展開するようにする。モデレータの介入は、少なければ少ないほど望ましいというのが、スタンフォード大学 DD 研究センターの見解である。また、モデレータは、討論資料に記載された政策の選択肢などを確認し、まだ論じられていない論点があれば、それを検討するよう促さなければならない。多様な立場に対する賛否両論の主張のすべてを検討したうえで、参加者の意見形成に資するようにする。T3 のアンケート結果から、小グループ討論については、上記ルールに沿って適切に行われたものとする。

7. 単純集計表

調査結果及び単純集計は、無作為抽出による 18 歳以上の札幌市民 3000 人に対する世論調査結果と、その回答者 1368 名の全体（T1 全体）と、その後の討論フォーラムの参加者 204 名（T1 参加者）、討論フォーラム開始後の最初の段階での調査（T2）、討論後の調査（T3）から構成されている。設問の番号が T1、T2、T3 で異なっているため、報告書では T2 を基準に設問の番号を記した。T2 で聴取していない設問は、設問の番号の前に T1、または T3 を記した。

（1）全体的な傾向

全体的な傾向に関して、T1 全体と T1 参加者の比較と T1・T2・T3 における変化の 3 時点の考察を行う。

T1・T2・T3 における変化とは、討論フォーラム参加者の意見が討論資料を読み込むことや、参加者同士での討論、パネリストへの質疑を経て、どのように変化したのかしなかったのかを意味する。

（2）討論フォーラムの参加者と非参加者

T1 全体と T1 参加者を比較すると、全体的傾向としては、類似した傾向が見て取れる。質問全体は雪に関する一般的な質問、参加者の社会的属性を問う質問、意見・態度などを問う質問、雪に関する知識を問う質問、情報源に対する信頼度を問う質問に大別されるが、討論フォーラム参加者と非参加者にはそれほど大きな違いはないといえる。

（3）討論フォーラムを経た意見の変化

T1・T2・T3 における変化の全体的な傾向は次のとおりである。

- ・札幌市の雪対策に対する満足度が上がった。
- ・予算を増加させても雪対策を強化すべきという意見は減少した。
- ・雪かきボランティアなど市民自ら雪対策に協力できるという意見が増加した。
- ・雪堆積場の増設は「最優先する必要はない」という意見が増加した。
- ・ロードヒーティングや流雪溝など雪処理施設の新設に対する期待は減少した。

(4) 討論型世論調査の評価

討論型世論調査全体、討論資料、小グループ討論、運営に関する評価を尋ねた。全体的傾向としては、討論型世論調査の仕組みそのものに対する評価は高く、また、運営に関しても高い評価であった。討論型世論調査に参加した理由としては、「雪対策に関心があったから」という理由が一番多かった。

(5) 設問ごとの回答の変化

Q1. 札幌市の除雪・排雪満足度（T1ではQ9）

幹線道路と生活道路の除雪については、T2、T3にかけて、満足度が上昇した。幹線道路は7段階尺度の平均（7が最も満足度が高い）で4.2から4.9まで上昇した。ただ生活道路に関しては3.1から3.9まで上昇したものの、満足度は高いとはいえない。

幹線道路と生活道路の排雪についても、それぞれT2、T3にかけて、満足度が上昇した。幹線道路は7段階尺度の平均（7が最も満足度が高い）で3.6から4.6まで上昇した。ただ生活道路に関してはやはり、2.6から3.7まで上昇したものの、満足度は低い水準に留まった。

Q2. 冬の道路の排雪（T1ではQ10）

幹線道路については、T2、T3にかけて、「我慢すべき」という意見が増加した。7段階尺度の平均（7が望む排雪の水準が高い）で、3.5から3.2に低下した。

生活道路に関しては、不便を「我慢すべき」という意見が増加した。7段階尺度の平均は、3.5から3.2まで低下した。

加えて生活道路の排雪の主体についての質問では、行政が排雪をする責任はないという考えが増加した。7段階尺度の平均（1. 行政が排雪をする責任はない 7. 税などの住民の負担が増えても、行政が排雪すべき）で、4.7から4.1まで低下した。

Q3. 冬の暮らしで我慢できること（T1ではQ11）

行政による除雪作業で自宅の間口に雪が置かれることについては、T2、T3にかけて、「我慢できる」という意見が増加した。7段階尺度の平均（1. まったく耐えられない 7. 十分に我慢出来る）で、3.2から4.2まで上昇した。

車道にワダチや凸凹ができることについては、T2、T3にかけて、「我慢できる」という意見が増加した。7段階尺度の平均で、3.5から4.1まで上昇した。

道路や家ごとに均等に除雪が行われないことについては、T2、T3 にかけて、「我慢できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、3.6 から 4.2 まで上昇した。

通勤・通学時間に車道の除雪が間に合わないことについては、T2、T3 にかけて、「我慢できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、3.7 から 4.2 まで上昇した。

車道が凍結しアイスバーンになってしまうことについては、T2、T3 にかけて、「我慢できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均（同上）で、3.8 から 4.3 まで上昇した。

歩道が凍結して、転倒の危険が増すことについては、T2、T3 にかけて、「我慢できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、3.6 から 4.0 まで上昇した。

車道や歩道の路側に除雪された雪が堆積され、必要な車線が確保されないことについては、T2、T3 にかけて、「我慢できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、2.8 から 3.8 まで上昇したものの、低い水準に留まった。

Q4. 札幌市の今後の雪対策の強化（T1 では Q12）

今後の予算については、T2、T3 にかけて、雪対策については強化よりも、ほどほどの方がよいという意見が増えた。7 段階尺度の平均（1. ほどほどの雪対策にとどめ、かける費用を軽減すればいい 7. 税などの住民の負担がふえても、現在の雪対策をもっと強化すべき）で、4.4 から 3.7 まで低下した。

Q5. 雪対策プランの作り方（T1 では Q13）

雪対策プランの作成主体については、T2、T3 にかけて、市民を中心として雪対策プランを作るという意見が増えた。7 段階尺度の平均（1. 市（行政）が雪対策のプランを作るべきだ 7. 市民が中心で雪対策プランを作るべきだ）で、3.9 から 4.1 であまり変化は見られなかった。

Q6. 札幌市の今後の雪対策についてあなたができること（T1 では Q15）

札幌市の今後の雪対策について市民のできる事に関して、以下についてそれぞれ尋ねた。

雪かきボランティアについては、T2、T3 にかけて「できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均（1. まったくできない 7. 大いにできる）で、3.3 から 3.8 に上昇した。

合同パトロールについては、T2、T3 にかけて「できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、3.2 から 3.9 に上昇した。

地域の人々と協力して雪かきについては、T2、T3 にかけて「できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、4.4 から 4.8 に上昇した。

自宅前の除雪については、T2、T3 にかけて「できる」という意見が増加した。7 段階尺

度の平均で、4.8 から 5.2 に上昇した。

公共交通機関を利用については、T2、T3 にかけて意見の変化は見られなかった。7 段階尺度の平均で、5.6 から 5.4 であまり変化は見られなかった。

車での通勤・通学時にピーク時間を避けることについては、T2、T3 にかけて「できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、4.7 から 4.9 であまり変化は見られなかった。

砂まきなどのツルツル路面对策については、T2、T3 にかけて「できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、5.3 から 5.4 であまり変化は見られなかった。

ルール・マナーを守ることについては、T2、T3 にかけて「できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、6.3 から 6.2 と、あまり変化は見られなかった。

路上に駐車しないことについては、T2、T3 にかけて意見の変化はあまり見られなかった。7 段階尺度の平均で、6.6 から 6.5 と、あまり変化は見られなかった。

福祉除雪の地域協力員になることについては、T2、T3 にかけて「できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、3.3 から 3.8 に上昇した。

除雪パートナーシップの利用については、T2、T3 にかけて「できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、4.5 から 4.9 に上昇した。

市民助成トラックの利用については、T2、T3 にかけて「できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、3.9 から 4.3 に上昇した。

民間除雪サービス会社と契約することについては、T2、T3 にかけて「できる」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、3.7 から 4.1 に上昇した。

Q7. 歩道の除雪隣接地主や住居者の義務にすべきか

T3 にかけて意見の変化はあまり見られなかった。7 段階尺度の平均（1. 義務の必要はまったくない 7. 大いにすべきと思う）で、同じ 4.1 で変化は見られなかった。

Q8. 雪堆積場の増設（T1 では Q16）

T2、T3 にかけて「増設を優先する必要はない」という意見が増加した。7 段階尺度の平均（1. 堆積場の増設を最優先する必要はない 7. 堆積場の増設を最優先すべきだ）で、4.7 から 4.0 に低下した。

Q9. 雪堆積場の利用を有料化すべきか

T3 にかけて意見の変化はあまり見られなかった。7 段階尺度の平均（1. 大いに反対 7. 大いに賛成）で、3.7 から 3.8 で変化はあまり見られなかった。

Q10. 今後の雪対策の基本的な考え方

今後の雪対策について、強化路線を考えるよりも冬の暮らし方のライフスタイルを変えて雪との共存を考えるべきかについて、T3 にかけて、「賛成」という意見が増加した。7 段階尺度の平均（1. 大いに反対 7. 大いに賛成）で、4.7 から 4.9 に上昇した。

Q11. 新たな雪処理施設の整（T1 では Q17）

ロードヒーティングについては、T2、T3 にかけて「期待しない」という意見が増加した。7 段階尺度の平均（1. まったく期待しない 7. 大いに期待する）で、3.9 から 2.9 に低下した。

流雪溝については、T2、T3 にかけて「期待しない」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、5.5 から 4.9 に低下した。

融雪槽・融雪管については、T2、T3 にかけて「期待しない」という意見が増加した。7 段階尺度の平均で、5.6 から 5.1 に低下した。

Q12. 冬が好きか（T1 では Q1）

T1 では 3 段階尺度、T2、T3 では 7 段階尺度（1. 大嫌い 7. 大好き）で調査されたため、T2・T3 の 7 段階尺度を 1～3（嫌い）、4（どちらともいえない）、5～7（好き）と集約して分析した。その結果、T2、T3 にかけて意見の変化はあまり見られなかった。

また、そのままの尺度で見た場合でも、T2・T3 にかけて意見の変化はあまり見られなかった。7 段階尺度の平均で、4.3 から 4.4 で変化はあまり見られなかった。

Q13. 札幌市の冬の暮らしが好きか（T1 では Q2）

T2、T3 にかけて「楽しいことが多い」という意見が増加した。7 段階尺度の平均（1. 楽しいことが多い 7. 楽しいことが多い）で、3.6 から 4.1 に上昇した。

Q14. 冬の暮らしで大変だと感じる事（T1 では Q3）

T1 では、すべての設問で平均値が低く、すべての事柄について大変だと考える人が多かった。

T1-Q4. 主に雪かきを行うのは誰か

8 つの選択肢から 1 つ選んで（1. あなた自身 2. あなたの配偶者 3. あなたの親 4. あなたの子ども 5. ボランティア 6. 契約業者 7. 福祉除雪利用 8. その他）で、自分自身である人が最も多く半数以上を占め、配偶者が続いた。一方、福祉除雪やボランティア

で雪かきを行うのは少なかった。

T1-Q5. 雪かきにかかる時間

5つの選択肢から1つ選んで(1. ほとんどしていない 2. 約15分 3. 約30分 4. 約1時間 5. 2時間以上)、約30分かける人が最も多く、約1時間かける人が続いた。一方、2時間以上かける人は最も少なかった。

T1-Q6. 雪が降った日に余分にかかった時間

5つの選択肢から1つ選んで(1. ほとんど変わらない 2. 約15分多くかかる 3. 約30分おおくかかる 4. 約1時間多くかかる 5. 2時間以上多くかかる)、約15分かかる人が最も多く、ほとんど変わらない人が続いた。一方、2時間以上かかる人は最も少なかった。

T1-Q7. 雪により所定の時間に着けなかったこと

回数を自由に記述するという形式で回答を求めた。その結果、1〜3回という人が多く、5回が続いた。一方、7回以降はあまりいなかった。

T1-Q8. 雪により外出をあきらめたこと

回数を自由に記述するという形式で回答を求めた。その結果、1〜3回という人が多く、5回と10回が続いた。一方、12回以降はあまりいなかった。

T1-Q14. あなたが知っている雪対策

4つの選択肢から知っている雪対策を選択肢(1. 除雪パートナーシップ 2. 「冬のみちづくりプラン」検討委員会などの市民公募制度 3. 「地域と創る冬みち事業」 4. パブリックコメント制度)から選ぶという形式で回答を求めた。複数回答を認めた。その結果、「除雪パートナーシップ制度」が最も回答が多かった。

T1-Q25. 性別

T1全体では、男性が41.2%、女性が55.9%だった。参加者では、男性が54.4%、女性が44.1%だった。

T1-Q26. 年齢

T1全体とT1参加者では、さほど違いは見られなかった。

T1-Q27. 住所

T1 全体と T1 参加者では、さほど違いは見られなかったものの、東区に居住する人は T1 全体が 13.2%、T1 参加者が 17.6%とやや違いが見られた。

T1-Q28. 職業

T1 全体と T1 参加者では、さほど違いは見られなかったものの、職業を主婦と回答した人は、T1 全体が 22.0%、T1 参加者が 15.7%とやや違いが見られた。

T1-Q29. 市内居住年数

T1 全体と T1 参加者では、さほど違いは見られなかった。

T1-Q30. 家族形態

T1 全体と T1 参加者では、さほど違いは見られなかった。

T1-Q31. 最終学歴

最終学歴について、大卒者が、T1 全体は 20.8%、T1 参加者は 32.4%と違いが見られた。

T1-Q32. 居住形態

T1 全体と T1 参加者では、さほど違いは見られなかった。

T1-Q33. 生活水準

T1 全体と T1 参加者では、さほど違いは見られなかった。

T1-Q34. 就業・就学の場所

T1 全体と T1 参加者では、さほど違いは見られなかった。

T1-Q35. 固定電話の有無

T1 全体と T1 参加者では、さほど違いは見られなかった。

T1-Q36. 携帯電話の利用度

T1 全体と T1 参加者では、T1 参加者のほうがやや携帯電話の利用が活発であった。

T1-Q37. インターネットの利用度

T1 全体と T1 参加者では、T1 参加者のほうがややインターネットの利用が活発であった。

T1-Q38. 自家用車の所有台数

T1 全体と T1 参加者では、さほど違いは見られなかった。

Q15～Q19. 知識質問 (T1 では Q18～Q22)

知識質問では札幌市の雪対策についての知識を正しい選択肢を選ばせる形で調査した。すべての知識質問について正答率が増加したことが見受けられる。

Q15 では、T1 時点で正しい選択肢を選んだ人は 3 割以下だったが、T3 時点では 7 割以上の参加者が正しい選択肢を選んだ。

Q16 では、T1 時点で 6 割ほどの参加者が正しい選択肢を選んでしたが、最終的には 9 割以上が正しい選択肢を選ぶようになった。

Q17 では、T1 時点で 1 割ほどしか正しい選択肢を選んでいなかったが、正しい選択肢を選んだ参加者は T3 時点では 5 割近くまで増加した。

Q18 では、最終的には 6 割以上の参加者が正しい選択肢を選び、T1 時点に比べて 4 割以上正しい選択肢を選ぶ参加者が増加した。

Q19 も同様に、T3 時点では T1 時点に比べ正解者が 2 割以上増加し、6 割以上の参加者が正しい選択肢を選んだ。

また、全体を通して、T1 全体に比べて、T1 参加者が正しい選択肢を選んでいる割合が多かった。

Q20. 価値観に関する質問 (T1 では Q23)

全体を通して、平均値が大きく変化した箇所は見られない。

経済の自由度へについては、T2、T3 にかけて、7 段階尺度（1. 所得や資産の格差を減らすべきだ 7. 経済活動は自由に競争すべきだ）の平均値で目立った変化は見られない。

経済活動と環境保護のバランスについては、T2、T3 にかけて、環境保護の重視度が上がった。7 段階尺度（1. 環境重視 7. 経済重視）の平均値で、3.7 から 3.5 であまり変化は見られなかった。

社会の改革と歴史・伝統の秩序維持については、T2、T3 にかけて、目立った変化は見られない。無回答は 1.5 から 0.5 に低下した。

政治的有効性感覚については、T2、T3 にかけて、7 段階尺度（1. 自分一票では、政治や社会を変えることはできない 7. 政治や社会を変えるには、まず自分一票からだ）の

平均値で目立った変化は見られない。

Q21. 情報源に対する信頼度（T1 では Q24）

次の 5 つの情報の信頼度について、7 段階尺度（1. まったく信頼できない 7. 大いに信頼できる）で尋ねた。全体を通して、T2、T3 にかけて、平均値が大きく変化した箇所は見られなかった。

Q22. 冬の間に最も頻繁に利用する交通手段

T2 にかけて意見の変化はあまりみられなかった。7 つの選択肢のうち（1. 自家用車（バイクも含む） 2. 公共交通機関（バス） 3. 公共交通機関（JR） 4. 公共交通機関（地下鉄） 5. タクシー 6. 徒歩、自転車 7. その他）で、自家用車を利用する人が最も多く、地下鉄が続いた。一方、タクシーを利用する人は最も少なかった。

Q23. 融雪設備や機械の所有

家庭用小型除雪機については、4 つの選択肢のうち（1. 所有している 2. 所有していないが、購入する予定がある 3. 所有していないし、購入予定もない 4. その他）で「所有していないし、購入予定もない」という意見が最も多く、T2 にかけて減少した。

自宅敷地内のロードヒーティングについては、4 つの選択肢のうち（1. ロードヒーティングがあり、使用している 2. ロードヒーティングはあるが、使用していない 3. 設置していないが、検討、または設置予定がある 4. 設置していないし、今後設置する予定もない）で、「ロードヒーティングはあるが、使用していない」という意見が増加した。一方、「設置していないし、今後設置する予定もない」という意見は減少した。

小型融雪槽・融雪機については、4 つの選択肢のうち（1. 融雪槽・融雪機があり、使用している 2. 融雪槽・融雪機はあるが、使用していない 3. 設置していないが、検討、または設置予定がある 4. 設置していないし、今後設置する予定もない）で、「融雪槽・融雪機はあるが、使用していない」という意見と「設置していないが、検討、または設置予定がある」という意見が増加した。一方、「設置していないし、今後設置する予定もない」という意見が減少した。

T3-Q22. 討論型世論調査の評価

討論フォーラム全体については、役に立ったと答えた人が 7 割を超えており、多くの参加者が討論フォーラム全体を評価していることがわかる。

小グループ討論については、8 割以上の人が役に立ったと答えており、小グループ討論へ

の評価が非常に高いことがわかる。

小グループ討論外での他の参加者との意見交換については、5割ほどの人が役に立ったと答えている。

全体討論での専門家との質疑応答については、5割以上の人が役に立ったと答えている。討論資料からの情報に関しては7割以上の人が役に立ったと答えており、非常に評価が高いといえる。

T3-Q23. 討論資料を読んだか

討論資料について、7割以上の人が半分以上読んでおり、多くの参加者が討論資料に目を通してから、討論フォーラムに参加しているといえる。

T3-Q24. 討論資料の中立性

討論資料で異なる意見がバランスよく扱われていたと思うかという設問に対しては、4割の人がそう思うと答えている。この設問では中間と答えた人が3割で、最も多い。

T3-Q25. 小グループ討論の運営

モデレータの進行については7割以上の人が適切に機会をモデレータが作っていたと答えており、問題なく進行が行われていたといえる。

グループ内の参加者の討論への参加については、5割の人が等しく参加していたと答えている。

モデレータが反対意見の考慮を促したかについては、中間と答えた人が最も多く、3割となっている。

争点の重要な側面を話し合うことができたと答えた人は5割以上いる。

約8割の人が、自分とは違う立場の人から多くを学んだと答えており、討論フォーラムで立場の違う人とコミュニケーションをとる機会が提供されたといえる。

グループの議論を独占した人がいたという設問には、半分以上の人がそうではないと答えており、適切なグループ討論がなされたといえる。

8割以上の人が、グループ討論においてお互いの意見を尊重していたと答えており、適切なグループ討論がなされたといえる。

見学者が自身の意見を示したかについては、そのようなことがあったと答えた人は1割未満であり、見学者は自分の意見を示すことはなかったといえる。

T3-Q26. 全体会議の運営

全体会議の評価については、すべての質問について概ね高い評価がなされていた。とりわけ、全体として自分が理解するのに役立ったと答えた人は 7 割以上おり、全体会議が雪対策などに対して市民の理解をさらに促進したといえる。一方で、専門家の回答に対する評価では、平均値が 4.1 に留まった。

T3-Q27. 討論フォーラムに参加した理由

討論フォーラムへの参加理由として最も多いのは、「雪対策に関心があったから」の 48.5% であり、次が「自分の意見を述べることや、他人の意見を聞くことに興味があったから」の 30.9% である。

T3-Q28. 当日の討論フォーラム全体への評価

謝金の額については、7 段階尺度（8 は謝金が不要）で、中間の 4 と答える人が多く、多くも少なくもないと感じた人が多いといえる。

討論フォーラムの時間に関しては、どちらかといえば長く感じた人が多かったといえる。

討論フォーラムに参加して新たに気付かされたことがあったかという設問に関しては、8 割以上の人が新たな気付きがあったと答えたといえる。

今回のような討論フォーラムに参加する機会があれば参加したいかという設問に対し、7 割以上の人がまた参加したいと答えた。

以下、集計表内の各選択肢番号の下の数値の単位は、パーセントである。また、平均値とは、各選択肢の尺度の平均値のことである。

Q1. あなたは、現在の札幌市による除雪や排雪についてどのように考えますか。次の①～④について、「まったく不満足」を1、「大いに満足している」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

① 幹線道路の除雪

	1 不満足	2	3	4 中間	5	6	7 満足	99	NA	平均値
T1 全体	10.5	8.3	13.3	32.5	12.4	11.3	6.9	1.2	3.7	3.9
T1 参加者	8.3	10.3	10.8	26.5	20.6	14.7	7.8	0.0	1.0	4.2
T2	2.9	4.9	14.2	31.9	18.6	20.1	6.9	0.5	0.0	4.5
T3	1.5	3.4	6.9	25.5	25.0	26.5	11.3	0.0	1.5	4.9

② 幹線道路の排雪

	1 不満足	2	3	4 中間	5	6	7 満足	99	NA	平均値
T1 全体	15.4	13.5	16.7	27.7	10.2	6.1	4.5	1.2	4.5	3.4
T1 参加者	14.2	13.7	15.7	27.0	12.3	8.8	6.4	0.0	2.0	3.6
T2	4.9	8.8	19.1	33.8	16.2	11.3	4.9	0.5	0.5	4.0
T3	3.9	2.9	11.8	30.4	22.1	20.6	8.3	0.0	0.0	4.6

③ 生活道路の除雪

	1 不満足	2	3	4 中間	5	6	7 満足	99	NA	平均値
T1 全体	21.5	18.9	22.1	21.6	5.1	3.6	2.4	1.0	3.7	2.9
T1 参加者	17.2	18.6	23.0	25.0	6.9	6.4	1.0	0.0	2.0	3.1
T2	7.4	12.3	27.5	35.8	10.3	3.9	1.5	0.0	1.5	3.5
T3	4.4	7.8	26.5	33.3	15.2	9.8	2.9	0.0	0.0	3.9

④ 生活道路の排雪

	1 不満足	2	3	4 中間	5	6	7 満足	99	NA	平均値
T1 全体	30.3	21.9	18.1	17.0	4.2	2.1	1.8	0.9	3.7	2.5
T1 参加者	27.0	22.1	23.0	16.7	6.4	2.5	1.0	0.0	1.5	2.6
T2	14.2	19.6	24.5	28.4	8.8	1.5	1.5	0.0	1.5	3.1
T3	6.4	10.8	29.9	26.0	14.7	8.3	3.4	0.0	0.5	3.7

Q2. 冬の道路の排雪についてお尋ねします。ふたつの意見 1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を 4 としたときに、あなたの意見に最も近いものを 1 つ選んでマルをつけてください。

① 幹線道路について

1. 移動に多少の時間がかかっても、ある程度の不便は我慢すべき

7. 雪がほとんど排雪された夏に近い状況を目指すべき

	1	2	3	4	5	6	7	NA	平均値
T1 全体	14.8	9.5	20.4	26.1	15.5	7.1	4.4	2.3	3.6
T1 参加者	16.2	13.7	20.6	19.1	13.2	9.3	6.4	1.5	3.5
T2	9.8	12.3	35.3	21.1	15.2	4.4	2.0	0.0	3.4
T3	14.2	15.7	27.9	23.5	12.7	3.9	2.0	0.0	3.2

② 生活道路について

1. 車 1 台が通行できる状態が確保されれば、ある程度の不便は我慢すべき

7. 雪がほとんど排雪された夏に近い状況を目指すべき

	1	2	3	4	5	6	7	NA	平均値
T1 全体	11.5	9.6	19.9	27.0	20.5	5.0	4.4	2.0	3.7
T1 参加者	10.8	13.7	25.0	25.5	15.7	3.9	4.4	1.0	3.5
T2	13.7	14.2	30.9	24.0	12.7	2.9	1.5	0.0	3.2
T3	14.7	16.7	30.4	20.1	14.2	2.9	1.0	0.0	3.2

③ 生活道路について

1. 行政が排雪をする責任はない

7. 税など住民の負担が増えても、行政が排雪をすべき

	1	2	3	4	5	6	7	NA	平均値
T1 全体	3.0	2.6	5.6	32.7	22.1	10.3	20.9	2.9	4.9
T1 参加者	3.4	4.9	8.8	30.4	20.1	9.3	20.6	0.0	4.7
T2	1.0	7.8	11.3	39.2	22.5	7.4	10.3	0.5	4.4
T3	2.9	7.4	13.7	43.1	20.1	4.9	6.9	1.0	4.1

Q3. あなたが冬の暮らしについて我慢できることと、できないことは何ですか。次の①～⑦について、「まったく耐えられない」を1、「十分に我慢できる」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

① 行政による除雪作業で自宅の間口に雪が置かれること

	1 耐え られ ない	2	3	4 中間	5	6	7 我慢 でき る	99	NA	平均値
T1 全体	21.6	13.2	16.4	20.5	7.2	4.7	5.9	7.2	3.2	3.2
T1 参加者	22.1	15.7	14.2	18.1	7.8	7.8	4.9	8.8	0.5	3.2
T2	8.8	15.2	16.7	24.0	15.7	9.3	9.3	1.0	0.0	3.9
T3	6.4	9.8	13.2	25.0	20.1	12.7	8.8	3.9	0.0	4.2

② 車道にワダチや凸凹ができること

	1 耐え られ ない	2	3	4 中間	5	6	7 我慢 でき る	99	NA	平均値
T1 全体	13.7	14.2	23.2	25.8	9.1	4.5	4.8	1.4	3.4	3.4
T1 参加者	11.3	15.2	25.5	19.6	14.2	5.9	5.4	2.0	1.0	3.5
T2	6.9	11.8	27.9	25.0	16.2	7.4	4.9	0.0	0.0	3.7
T3	5.9	7.4	22.5	22.5	24.0	9.3	6.9	1.5	0.0	4.1

③ 道路や家ごとに均等に除雪が行われないこと

	1 耐え られ ない	2	3	4 中間	5	6	7 我慢 でき る	99	NA	平均値
T1 全体	14.5	12.6	17.0	33.4	6.6	3.9	4.7	3.1	4.0	3.4
T1 参加者	10.8	9.8	20.6	34.8	9.3	4.9	6.4	2.5	1.0	3.6
T2	8.3	8.3	22.5	29.9	14.7	9.3	5.4	1.0	0.5	3.9
T3	5.4	7.4	15.2	26.5	28.4	9.8	5.9	1.5	0.0	4.2

④ 通勤・通学時間に車道の除雪が間に合わないこと

	1 耐え られない	2	3	4 中間	5	6	7 我慢 できる	99	NA	平均値
T1 全体	10.5	11.5	19.4	31.3	9.0	4.2	4.9	4.1	5.0	3.5
T1 参加者	11.8	11.3	17.6	27.0	14.7	4.4	7.4	3.9	2.0	3.7
T2	7.4	8.8	22.5	28.9	16.2	8.8	5.4	0.5	1.5	3.9
T3	4.9	7.4	14.7	27.9	24.5	9.8	7.8	2.9	0.0	4.2

⑤ 車道が凍結しアイスバーンになってしまうこと

	1 耐え られない	2	3	4 中間	5	6	7 我慢 できる	99	NA	平均値
T1 全体	14.9	12.6	15.9	28.9	8.4	6.7	7.2	1.4	3.9	3.6
T1 参加者	12.3	12.7	15.2	27.0	12.3	8.8	10.3	0.5	1.0	3.8
T2	8.3	8.3	14.7	26.5	21.6	9.8	10.3	0.0	0.5	4.2
T3	4.9	5.9	17.6	27.9	21.6	12.3	8.3	1.5	0.0	4.3

⑥ 歩道が凍結して、転倒の危険が増すこと

	1 耐え られない	2	3	4 中間	5	6	7 我慢 できる	99	NA	平均値
T1 全体	21.1	15.9	17.5	23.3	8.3	5.1	5.3	0.2	3.3	3.2
T1 参加者	16.2	17.2	13.2	23.5	12.3	9.3	7.4	0.0	1.0	3.6
T2	9.3	13.2	19.6	25.0	17.2	10.8	4.9	0.0	0.0	3.8
T3	7.8	9.3	18.6	27.0	19.6	10.8	6.4	0.0	0.5	4.0

⑦ 車道や歩道の路側に除雪された雪が堆積され、必要な車線が確保されないこと

	1 耐え られない	2	3	4 中間	5	6	7 我慢 できる	99	NA	平均値
T1 全体	26.1	21.4	21.6	16.8	5.6	2.0	1.9	1.0	3.5	2.7
T1 参加者	25.0	22.1	22.5	15.2	5.9	4.4	2.9	0.5	1.5	2.8
T2	11.8	17.6	32.4	18.6	10.8	6.9	2.0	0.0	0.0	3.3
T3	7.8	8.3	22.5	27.5	19.1	11.3	2.0	0.5	1.0	3.8

Q4. 札幌市の今後の雪対策について、ふたつの意見 1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。「ほどほどの雪対策にとどめ、かける費用を軽減すればいい」を 1、「税など住民の負担が増えても、現在の雪対策をもっと強化すべき」を 7、「ちょうど中間」を 4 としたときに、あなたの意見に最も近いものを 1 つ選んでマルをつけてください。

	1 費用 軽減	2	3	4 中間	5	6	7 負担増 対策強化	NA	平均値
T1 全体	6.3	2.5	9.3	36.3	23.8	8.2	12.3	1.4	4.4
T1 参加者	8.8	2.9	12.3	32.8	18.6	10.8	13.2	0.5	4.4
T2	6.9	6.4	11.8	40.2	22.5	5.9	6.4	0.0	4.1
T3	10.3	12.3	14.7	37.3	16.2	5.4	3.9	0.0	3.7

Q5. 札幌市の雪対策プラン（市が取り組む除雪や排雪対策の計画）の作り方についてお聞きします。「市（行政）が雪対策のプランを作るべきだ」を 1、「市民が中心で雪対策のプランを作るべきだ」を 7、「ちょうど中間」を 4 としたときに、あなたの意見に最も近いものを 1 つ選んでマルをつけてください。

	1 行政 中心	2	3	4 中間	5	6	7 市民 中心	NA	平均値
T1 全体	14.3	6.7	14.1	38.5	13.0	6.3	5.6	1.5	3.7
T1 参加者	12.3	11.3	14.7	27.9	14.7	10.8	7.8	0.5	3.9
T2	10.8	11.8	19.1	35.8	14.7	4.4	3.4	0.0	3.6
T3	8.8	4.9	14.7	33.8	20.1	11.3	6.4	0.0	4.1

Q6. 札幌市の今後の雪対策について、あなたができると思うことはどれですか。次の①～⑬について、「まったくできない」を1、「大いにできる」を7とし、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

① 雪かきボランティアに参加する

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	39.2	13.0	8.9	22.6	6.9	2.1	2.5	1.8	3.0	2.6
T1 参加者	23.0	15.2	13.2	24.5	9.8	5.9	5.9	1.0	1.5	3.3
T2	19.6	12.3	12.7	24.5	18.6	7.4	4.4	0.5	0.0	3.5
T3	16.7	9.8	10.8	23.5	22.5	8.8	7.8	0.0	0.0	3.8

② 行政や除雪企業との合同パトロールに参加する

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	39.9	14.7	10.8	20.4	5.3	1.0	1.7	2.6	3.6	2.4
T1 参加者	20.1	17.6	11.8	26.0	13.2	2.9	3.9	2.5	2.0	3.2
T2	14.7	12.3	14.2	30.9	16.2	6.4	3.4	2.0	0.0	3.6
T3	12.7	8.8	12.7	30.9	19.1	10.8	4.4	0.5	0.0	3.9

③ 近所や地域の人々と協力して雪かきを行う

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	15.9	9.4	7.6	29.9	14.0	7.4	11.3	1.8	2.9	3.9
T1 参加者	8.3	10.3	5.4	25.0	22.1	8.8	17.6	0.5	2.0	4.4
T2	2.9	4.4	12.7	23.0	23.0	18.6	13.7	0.0	1.5	4.7
T3	4.4	3.4	8.3	21.1	28.4	18.1	15.7	0.5	0.0	4.8

④ 行政の除雪作業で発生した自宅前の雪を除雪する

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	9.0	6.4	6.7	27.8	14.2	9.2	18.9	4.6	3.1	4.5
T1 参加者	5.9	7.8	4.4	25.5	15.2	11.3	24.5	3.9	1.5	4.8
T2	2.9	3.4	7.4	20.1	25.5	19.6	20.1	0.5	0.5	5.0
T3	2.9	3.9	4.9	14.2	28.4	20.6	21.1	3.9	0.0	5.2

⑤ 通勤・通学時などに公共交通機関を利用する

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	12.1	3.6	3.4	16.5	6.1	7.2	39.3	6.9	4.9	5.0
T1 参加者	7.8	4.4	2.9	11.8	5.4	7.4	53.9	3.9	2.5	5.6
T2	7.8	3.9	3.9	10.3	8.8	14.2	49.0	2.0	0.0	5.5
T3	9.3	3.4	2.5	10.3	12.3	18.6	39.7	3.4	0.5	5.4

⑥ 車での通勤・通学時にピーク時間帯を避ける

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	12.1	4.0	4.3	21.1	7.8	9.9	23.2	12.2	5.3	4.6
T1 参加者	12.3	3.4	5.4	18.1	9.8	12.7	24.0	12.3	2.0	4.7
T2	9.8	5.4	5.4	23.0	13.2	15.7	21.6	5.4	0.5	4.7
T3	6.4	5.9	4.9	19.6	17.6	12.7	24.5	7.8	0.5	4.9

⑦ 砂まきなど、歩道のツルツル路面对策をする

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	4.4	2.8	4.0	30.8	13.6	11.8	26.7	2.3	3.7	5.0
T1 参加者	2.5	3.4	4.4	25.5	12.3	20.1	29.4	1.0	1.5	5.3
T2	1.5	1.0	2.0	21.1	25.5	15.7	31.9	0.5	1.0	5.5
T3	1.5	1.5	3.9	19.1	26.0	21.1	26.5	0.5	0.0	5.4

⑧ 道路に雪出しをしないなどルール・マナーを守る

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	1.4	0.5	1.2	10.0	7.3	11.3	61.9	3.7	2.7	6.2
T1 参加者	0.5	0.0	2.0	11.3	6.4	14.2	64.2	0.5	1.0	6.3
T2	1.0	0.5	3.4	10.8	10.3	16.2	56.9	0.5	0.5	6.1
T3	0.5	0.0	2.0	6.9	11.8	22.1	55.4	1.5	0.0	6.2

⑨ 除雪作業が行われる路上に車を駐車しない

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	1.0	0.1	0.4	4.6	3.0	7.4	72.7	7.3	3.4	6.6
T1 参加者	1.0	0.5	1.5	4.4	2.5	6.9	75.5	6.4	1.5	6.6
T2	0.5	0.5	0.0	5.4	4.9	10.8	72.5	3.4	2.0	6.6
T3	1.0	0.5	1.0	2.9	4.9	13.2	69.1	6.9	0.5	6.5

⑩ 福祉除雪の地域協力員になる

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	41.0	13.1	8.6	22.1	3.6	1.7	2.5	4.0	3.4	2.5
T1 参加者	24.0	12.7	10.8	29.4	9.3	3.4	6.9	2.0	1.5	3.3
T2	20.6	10.3	15.7	29.4	11.3	5.4	5.9	0.5	1.0	3.4
T3	15.2	10.8	8.8	27.0	20.6	7.8	7.4	1.5	1.0	3.8

⑪ 除雪パートナーシップ制度を利用する

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	11.6	3.4	3.1	32.8	3.7	3.9	17.1	19.3	5.1	4.2
T1 参加者	8.8	5.4	4.9	28.9	4.9	4.9	22.1	18.1	2.0	4.5
T2	7.4	2.5	7.4	33.8	15.2	5.4	23.5	4.9	0.0	4.7
T3	3.9	2.0	7.8	29.4	16.7	9.8	23.5	6.4	0.5	4.9

⑫ 市民助成トラック制度を利用する

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	15.0	4.0	4.1	34.9	3.1	2.0	7.5	23.2	6.1	3.6
T1 参加者	13.2	5.4	4.9	29.9	4.4	3.9	12.3	23.5	2.5	3.9
T2	7.4	3.9	10.3	37.3	13.7	3.9	14.7	7.8	1.0	4.3
T3	6.9	5.9	6.4	38.7	14.7	8.3	10.3	8.3	0.5	4.3

⑬ 民間除雪サービス会社と契約する

	1 できない	2	3	4 中間	5	6	7 できる	99	NA	平均値
T1 全体	20.8	5.8	4.3	27.0	4.5	3.4	14.5	14.9	4.7	3.7
T1 参加者	22.5	8.3	6.9	25.0	3.9	4.9	15.7	11.3	1.5	3.7
T2	12.7	10.8	6.4	29.9	7.8	6.9	18.1	5.9	1.5	4.1
T3	13.2	8.3	7.4	27.9	13.2	6.9	15.2	7.4	0.5	4.1

Q7. あなたは、歩道の除雪は隣接地主や住居者の義務にすべきだと思いますか。「義務の必要はまったくない」を1、「大いにすべきと思う」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

	1 必要 ない	2	3	4 中間	5	6	7 すべ き	99	NA	平均値
T2	7.4	6.4	14.7	31.4	23.0	8.3	7.4	0.0	1.5	4.1
T3	6.9	5.4	12.3	39.2	22.1	7.4	6.9	0.0	0.0	4.1

Q8. 雪堆積場の増設についてお尋ねします。「堆積場の増設を最優先する必要はない」を1、「堆積場の増設を最優先すべきだ」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

	1 必要 ない	2	3	4 中間	5	6	7 すべ き	NA	平均値
T1 全体	4.5	2.0	2.9	40.1	19.7	10.2	18.3	2.2	4.8
T1 参加者	6.4	4.4	3.9	32.4	20.1	14.7	16.7	1.5	4.7
T2	4.4	3.4	10.8	33.8	24.0	9.8	11.3	2.5	4.5
T3	8.3	11.8	10.8	35.8	17.6	8.3	6.9	0.5	4.0

Q9. 雪堆積場の利用について有料化すべきという意見があります。「大いに反対」を1、「大いに賛成」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

	1 反対	2	3	4 中間	5	6	7 賛成	99	NA	平均値
T2	13.7	6.4	16.7	34.8	16.7	5.9	3.9	0.0	2.0	3.7
T3	14.7	8.3	11.3	31.9	19.1	8.3	6.4	0.0	0.0	3.8

Q10. 今後の雪対策について、強化路線を考えるよりも、冬の暮らし方のライフスタイルを変えて、雪との共存を考えるべきだという意見があります。「大いに反対」を1、「大いに賛成」を7、「ちょうど中間」を4としたとき、あなたの意見に近いものを選んでください。

	1 反対	2	3	4 中間	5	6	7 賛成	99	NA	平均値
T2	3.4	3.4	3.9	36.8	26.5	10.3	13.7	0.0	2.0	4.7
T3	3.4	3.9	6.4	22.5	26.5	21.6	15.7	0.0	0.0	4.9

Q11. 新たな雪処理施設の整備についてお尋ねします。あなたは、次の①～③について、どの程度期待していますか。「まったく期待しない」を1、「大いに期待する」を7とし、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

① 電気やガスを使用して道路の凍結を防ぐロードヒーティングの整備をさらに進める

	1 期待 しない	2	3	4 中間	5	6	7 期待 する	NA	99	平均値
T1 全体	15.7	7.7	10.2	31.7	12.4	5.3	14.0	1.9	1.2	3.9
T1 参加者	14.7	11.3	10.8	28.4	12.3	6.4	13.7	1.5	1.0	3.9
T2	14.2	13.2	20.1	25.5	15.2	2.5	7.4	0.5	1.5	3.5
T3	22.1	21.6	22.5	23.0	5.9	1.5	2.9	0.5	0.0	2.9

② 河川水や下水処理水を利用し、雪を流す流雪溝の整備をさらに進める

	1 期待 しない	2	3	4 中間	5	6	7 期待 する	NA	99	平均値
T1 全体	2.8	1.8	3.3	20.1	20.2	13.2	35.4	1.9	1.4	5.4
T1 参加者	4.4	1.0	3.9	15.2	18.1	17.2	37.7	1.5	1.0	5.5
T2	2.9	4.4	5.4	7.4	26.0	21.1	31.4	0.0	1.5	5.4
T3	4.4	7.4	5.4	18.6	24.0	17.6	22.1	0.0	0.5	4.9

③ 水対策や水質保全を目的として建設する調整池や貯留管などを、冬期間に融雪施設として複合的に利用できるようにした融雪槽・融雪管の整備をさらに進める

	1 期待 しない	2	3	4 中間	5	6	7 期待 する	NA	99	平均値
T1 全体	2.9	1.2	2.6	21.6	19.9	13.4	33.6	3.2	1.7	5.4
T1 参加者	2.0	1.0	2.5	17.2	21.1	14.7	37.7	2.9	1.0	5.6
T2	1.5	2.5	4.4	10.3	26.5	20.6	31.9	1.0	1.5	5.5
T3	3.9	5.4	4.4	17.6	26.5	20.1	22.1	0.0	0.0	5.1

Q12. あなたは、冬が好きですか。

	嫌い	どちらでもない	好き	わからない	NA	平均値
T1 全体	35.5	40.3	21.9	0.3	2.0	1.9
T1 参加者	29.4	38.7	29.9	1.0	1.0	2.0
T2	32.3	22.5	43.2	0.0	2.0	2.1
T3	27.5	24.0	48.5	0.0	0.0	2.2

T1 と T2・T3 とでは尺度が異なるが、上図は T2・T3 の回答を集約して作成したものである。T2・T3 の回答そのものは、下図のとおりである。

	1 嫌い	2	3	4 中間	5	6	7 好き	99	NA	平均値
T2	7.8	7.8	16.7	22.5	16.2	15.2	11.8	0.0	2.0	4.3
T3	7.8	6.4	13.2	24.0	20.6	13.7	14.2	0.0	0.0	4.4

Q13. あなたは、札幌市の冬の暮らしについてどのように感じていますか。「つらいことが多い」を1、「楽しいことが多い」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

	1 つらい	2	3	4 中間	5	6	7 楽しい	99	NA	平均値
T1 全体	14.0	16.1	22.1	27.6	11.0	4.5	2.3	0.0	2.4	3.3
T1 参加者	10.3	11.8	23.5	26.0	15.7	7.8	3.4	0.0	1.5	3.6
T2	7.8	7.8	20.1	27.9	19.6	10.8	4.4	0.0	1.5	4.0
T3	7.4	6.4	18.1	27.9	20.6	14.7	4.9	0.0	0.0	4.1

Q14. あなたは、札幌市の冬のくらしのなかで、何が大変だと感じていますか。次の①～④について、「大変だ」を1、「苦にならない」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

① 自宅周辺の雪かき

	1 大変だ	2	3	4 中間	5	6	7 苦にならない	99	NA	平均値
T1 全体	34.9	11.5	10.9	12.9	4.8	3.1	9.3	7.9	4.8	2.9
T1 参加者	27.5	14.2	11.8	9.3	7.4	5.4	17.6	4.9	2.0	3.5
T2	18.6	10.8	13.7	15.2	11.3	12.7	10.3	5.9	1.5	3.8
T3	12.7	5.4	15.2	22.5	9.3	11.8	17.2	5.9	0.0	4.2

② 自家用車での移動（渋滞など）

	1 大変だ	2	3	4 中間	5	6	7 苦にならない	99	NA	平均値
T1 全体	25.1	15.1	16.2	14.6	3.9	2.0	5.1	9.2	8.8	2.8
T1 参加者	22.5	18.6	23.0	10.8	3.9	2.5	5.9	6.9	5.9	2.8
T2	14.2	17.2	18.6	17.2	10.3	4.4	5.9	8.3	3.9	3.3
T3	8.3	9.3	15.7	22.1	12.3	12.7	10.3	8.3	1.0	4.1

③ 徒歩での移動（路面の凍結など）

	1 大変だ	2	3	4 中間	5	6	7 苦にならない	99	NA	平均値
T1 全体	31.1	17.9	16.7	16.4	4.3	2.9	5.3	0.4	5	2.7
T1 参加者	26.5	21.6	15.7	15.2	7.4	2.9	8.3	0.0	2.5	3.0
T2	12.3	13.2	23.5	17.6	10.3	10.8	8.8	0.0	3.4	3.7
T3	7.8	8.3	19.1	23.5	12.7	13.2	15.2	0.0	0.0	4.3

④ 公共交通機関での移動（遅延など）

	1 大変だ	2	3	4 中間	5	6	7 苦にならない	99	NA	平均値
T1 全体	19.2	11.7	14.7	25.1	5.1	3.9	10.4	3.0	6.9	3.4
T1 参加者	19.1	10.8	12.3	22.1	10.3	3.9	15.2	2.5	3.9	3.7
T2	10.3	5.9	15.7	23.0	8.8	14.2	15.7	2.9	3.4	4.3
T3	5.4	6.4	10.8	23.0	15.7	19.1	18.1	1.0	1.0	4.7

○ 以下の設問は、T1 のみで尋ねたものである（T2・T3 では尋ねていない）。

T1-Q4. あなたのご家庭で、雪が降る期間に、主に雪かきを行うのはどなたですか。あてはまるものすべてにマルをつけてください。

	あなた自身	あなたの配偶者	あなたの親	あなたの子ども	ボランティア	契約業者	福祉除雪利用	その他	NA
T1 全体	62.5	36.3	10.5	11.5	0.5	15.6	0.8	14.6	1.5
T1 参加者	67.6	10.8	2.9	0.0	0.0	7.4	0.0	10.8	0.5

（複数回答）

T1-Q5. あなた自身が、雪が降った日に、雪かきにかかる時間はどのくらいですか。

	ほとんどしていない	約 15 分	約 30 分	約 1 時間	2 時間以上	99	NA
T1 全体	21.1	13.6	27.9	23.6	5.7	5.9	2.2
T1 参加者	17.2	17.6	33.3	20.6	5.4	5.4	0.5

T1-Q6. 雪が降った日には、雪が降っていない日と比べて、通勤・通学や買い物などで、余分にかかる時間は、あなたの場合、片道でどのくらいですか。

	ほとんど変わらない	約 15 分多くかかる	約 30 分多くかかる	約 1 時間多くかかる	2 時間以上多くかかる	99	NA
T1 全体	24.5	39.8	24.3	5.1	0.4	3.1	2.8
T1 参加者	25.5	46.6	22.5	2.9	0.5	1.0	1.0

T1-Q7. 降雪や路面凍結のために、会社や学校などに所定の時間に着けなかったことは、ひと冬の1年間で、何回くらいありましたか。

	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回
T1 全体	10.1	9.7	9.2	1.0	6.3	1.0	0.2	0.3
T1 参加者	8.3	13.7	8.8	0.0	7.4	1.5	0.5	0.5

	10 回	15 回	20 回	24 回	30 回	50 回	NA
T1 全体	2.9	0.4	0.9	0.1	0.4	0.2	57.3
T1 参加者	4.4	0.5	1.5	0.0	0.0	0.0	52.9

T1-Q8. 降雪や路面凍結を考えて、外出（買い物や通院など）をあきらめたことは、ひと冬の1年間で、何回くらいありましたか。

	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回
T1 全体	6.4	11.3	14.5	1.7	13.9	1.7	0.4	0.4
T1 参加者	6.4	13.2	15.7	1.5	9.8	1.0	0.0	1.0

	10 回	12 回	15 回	17 回	18 回	19 回	20 回	25 回
T1 全体	9.6	0.2	0.6	0.1	0.1	0.1	1.6	0.1
T1 参加者	10.8	0.5	1.5	0.0	0.0	0.5	1.0	0.5

	30 回	40 回	NA
T1 全体	1.0	0.1	36.4
T1 参加者	1.0	0.0	35.8

T1-Q14. 次の1～4について、あなたが知っているものはありますか。知っているものすべてにマルをつけてください。

	除雪パートナーシップ制度	「冬のみちづくりプラン」検討委員会などの市民公募委員制度	「地域と創る冬みち事業」	パブリックコメント制度	NA
T1 全体	55.6	4.4	3.6	5.1	39.1
T1 参加者	51.5	3.5	5.0	8.8	40.7

(複数回答)

○ 以下の設問は、フェイスシートである。

T1-Q25. あなたは、男性ですか。女性ですか。

	1.男性	2.女性	NA
T1 全体	41.2	55.9	2.9
T1 参加者	54.4	44.1	1.5

T1-Q26. あなたは、いま何歳ですか。

	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳
T1 全体	1.2	3.3	3.9	7.0	8.8	8.5	8.7	8.6
T1 参加者	2.0	4.9	4.4	8.8	9.8	8.3	7.4	6.9

	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	NA
T1 全体	8.4	11.8	11.3	7.7	4.2	5.0	1.8
T1 参加者	9.8	10.8	10.8	8.8	2.9	2.9	1.5

T1-Q27. あなたのお住まいの区を教えてください。

	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区
T1 全体	10.7	13.7	13.2	10.5	6.7	10.8	6.1	7.0
T1 参加者	10.3	12.7	17.6	8.8	8.3	8.8	6.9	5.9

	西区	手稲区	NA
T1 全体	12.3	7.3	1.8
T1 参加者	11.3	8.3	1.0

T1-Q28. あなたのご職業についてお聞きします。下表の左端にある 1～6 の番号の中から 1 つ選んでマルをつけてください。どれにあたるかわからない方は、「6」にマルをつけ、「その他」の欄にご職業をお書きください。

	事務職、専門・技術職・管理職	製造・販売・サービス	自営	農林漁業	主婦	無職・その他	NA
T1 全体	28.0	12.3	4.0	0.2	22.0	31.5	2.0
T1 参加者	30.4	10.8	6.9	0.5	15.7	35.3	0.5

T1-Q29. あなたは札幌市にどのぐらいの期間お住まいになっていますか（以前に札幌市に住んでおり、一旦転出した転入した場合は、合計の年数をお答えください）。

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	NA
T1 全体	1.4	3.1	2.0	5.8	6.9	8.4	70.6	1.7
T1 参加者	0.5	1.5	2.0	8.3	7.4	7.4	72.5	0.5

T1-Q30. あなたの同居の家族形態は、次のうちどれですか。

	単身	夫婦のみ	夫婦と子ども	父子または母子家庭	夫婦と親（配偶者の両親を含む）の2世代家庭	親（配偶者の両親を含む）と夫婦と子ども3世代家族	その他	NA
T1 全体	14.0	26.4	36.8	5.5	2.8	4.3	7.9	2.3
T1 参加者	13.2	26.5	41.7	4.9	2.5	3.9	6.4	1.0

T1-Q31. あなたの最終学歴は、次のうちどれですか（在学中の方は、いま通っている学校を選んでください）。

	小・中学校	高等学校	専門学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	その他	NA
T1 全体	9.1	38.7	13.2	13.3	20.8	1.9	0.4	2.5
T1 参加者	3.9	36.8	10.8	11.8	32.4	2.0	1.5	1.0

T1-Q32. あなたのお住まいは、次のうちどれですか。

	持ち家（一戸建て）	持ち家（マンションやアパートなどの集合住宅）	賃貸住宅・社宅（一戸建て）	賃貸住宅・社宅（マンションやアパートなどの集合住宅）	その他	NA
T1 全体	46.1	21.1	3.1	26.5	1.7	1.5
T1 参加者	50	22.1	2.0	23.5	2.0	0.5

T1-Q33. あなたの生活水準は、次のうちどれだと思いますか。

	1 下	2	3	4 中	5	6	7 上	NA
T1 全体	5.9	10.7	21.2	43.9	12.9	1.8	0.6	3.0
T1 参加者	3.4	10.8	21.6	39.7	17.6	2.9	1.0	2.9

T1-Q34. あなたの主な就業・就学の場所は、どこですか。

	札幌市内	北海道の他市町村	その他	NA
T1 全体	71.3	9.6	7.8	11.3
T1 参加者	78.4	8.8	6.4	6.4

T1-Q35. あなたのお宅には、家庭用の固定電話がありますか（携帯電話のみの方は、2 にマルをつけてください）。

	ある	ない	NA
T1 全体	84.3	14.0	1.8
T1 参加者	85.3	13.7	1.0

T1-Q36. ご自分の家の中で、あなたが電話で人と話すときには、「家庭の固定電話」と「携帯電話」のどちらを主に利用していますか。あなたの利用状況に最も近いものを1つだけ選んでください。

	携帯のみ	ほとんど携帯 たまたまに 固定	どちら かとい えは 携帯	どちら かとい えは 固定	ほとん ど固定 たまたまに 携帯	固定電 話のみ	その 他	NA
T1 全体	18.6	30.3	11.8	12.0	15.1	10.5	1.0	0.8
T1 参加者	18.6	38.2	15.2	7.4	12.7	5.9	2.0	0.0

T1-Q37. あなたは、インターネットを利用していますか。

	使っていない	月に数 回使う	週に数 回使う	毎日1時間 程度 使う	毎日2時間 程度 使う	毎日3時間 以上 使う	その 他	NA
T1 全体	36.5	9.8	16.5	19.5	6.6	9.0	1.3	0.8
T1 参加者	24.5	9.8	18.1	21.6	8.3	16.7	1.0	0.0

T1-Q38. あなたの世帯で所有する自家用車（バイクを含む）の数について教えてください。

	所有していない	1 台	2 台	3 台以上	NA
T1 全体	20.3	54.4	20.4	4.3	0.6
T1 参加者	19.1	57.8	19.6	3.4	0.0

○ 以下の設問は、回答者の知識を尋ねたものである。

Q15. 札幌市の平成 25（2013）年度の雪対策の予算は、次のうちどれだと思いますか。

	約60億円	約110億円	約160億円 【正解】	約210億円	約260億円	約310億円	NA
T1 全体	7.4	15.2	28.3	20.8	17.2	6.9	4.2
T1 参加者	4.4	12.7	29.9	23.5	18.1	8.3	2.9
T2	1.5	5.9	42.6	19.6	17.2	10.3	2.9
T3	2.5	1.5	72.5	13.2	4.9	4.4	1.0

Q16. 札幌市の雪対策において、最も費用がかかるものは、次のうちどれだと思いますか。

	車道を除雪するための費用	除雪した雪を堆積場へ運搬するための費用【正解】	生活道路パートナーシップ排雪（町内会と共同で負担し生活道路等の排雪をすること）のための費用	雪堆積場を管理するための費用	NA
T1 全体	26.5	62.1	3.9	4.5	3.1
T1 参加者	24.5	67.2	2.5	3.9	2.0
T2	9.3	81.4	3.9	3.4	2.0
T3	3.9	90.7	2.9	2.5	0.0

Q17. 幹線道路 100m を 1 回除雪するための費用は約 3,000 円ですが、同じ距離を 1 回排雪する（除雪した雪を堆積場等へ運ぶ）ために必要となる費用は、次のうちどれだと思いますか。

	約3千円	約6千円	約1万円	約5万円	約15万円	約25万円 【正解】	約35万円	NA
T1 全体	2.8	18.6	36.3	23.0	8.6	4.8	2.6	3.3
T1 参加者	1.5	15.2	36.8	29.9	8.8	4.9	1.5	1.5
T2	2.0	7.8	22.5	13.7	17.2	27.0	6.4	3.4
T3	0.5	3.4	10.8	13.2	15.7	46.6	7.8	2.0

Q18. 札幌市の雪堆積場に運ばれるひと冬あたりの雪の量は、次のうちどれだと思いますか。

	札幌ドーム約 5 杯分	札幌ドーム約 15 杯分 【正解】	札幌ドーム約 25 杯分	札幌ドーム約 35 杯分	NA
T1 全体	2.1	17.1	35.7	41.7	3.4
T1 参加者	2.0	16.2	39.7	41.2	1.0
T2	1.5	44.6	26.0	25.0	2.9
T3	1.0	61.3	22.5	14.7	0.5

Q19. 国や札幌市などが定めるルールとして誤っているものは、次のうちどれだと思いますか。

	敷地内から道路 へ雪出しをして はいけない	スパイクタイ ヤを装着して はいけない	札幌市内のすべ ての公園に、雪入 れをしてはいけ ない 【正解】	河川に投雪を してはいけな い	NA
T1 全体	18.8	20.5	38.5	17.1	5.2
T1 参加者	17.2	22.5	41.7	15.2	3.4
T2	19.1	18.1	46.1	13.7	2.9
T3	13.7	11.8	61.8	10.3	2.5

○ 以下の設問は、意見や態度を尋ねたものである。

Q20. あなた自身の考えについてお尋ねします。次の①～④について、それぞれ1と7のどちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

① 1. 所得や資産の格差を減らすべきだ

7. 経済活動は自由に競争すべきだ

	1	2	3	4	5	6	7	NA	平均値
T1 全体	9.3	5.5	12.2	38.7	13.0	6.6	11.6	3.1	4.1
T1 参加者	5.4	5.4	15.7	29.4	14.7	11.3	16.7	1.5	4.5
T2	4.9	4.9	11.8	35.8	19.6	9.3	12.3	1.5	4.4
T3	2.9	7.4	12.7	33.8	19.6	11.8	11.3	0.5	4.4

② 1. 経済活動に支障があっても環境保護を重視すべきだ

7. 環境保護を考えるよりも経済成長を重視すべきだ

	1	2	3	4	5	6	7	NA	平均値
T1 全体	14.2	9.6	18.3	41.7	6.9	2.6	3.7	3.1	3.4
T1 参加者	14.2	11.3	19.1	38.2	9.3	3.4	2.5	2.0	3.4
T2	8.3	8.8	25.5	33.8	10.8	7.4	4.4	1.0	3.7
T3	11.3	11.8	21.1	36.3	12.7	3.4	2.9	0.5	3.5

③ 1. 社会に活力をもたらすためには、改革を続けるべきだ

7. 歴史や伝統を守って、社会の秩序を維持すべきだ

	1	2	3	4	5	6	7	NA	平均値
T1 全体	7.2	6.0	14.9	42.8	14.7	5.2	6.1	3.1	3.9
T1 参加者	7.8	9.8	16.7	37.3	11.3	7.8	6.4	2.9	3.9
T2	6.9	7.4	21.6	37.7	15.2	6.4	3.4	1.5	3.8
T3	6.4	7.8	20.6	39.7	13.7	7.4	3.9	0.5	3.8

④ 1. 自分の一票では、政治や社会を変えることはできない

7. 政治や社会を変えるには、まず自分の一票からだ

	1	2	3	4	5	6	7	NA	平均値
T1 全体	14.3	5.6	7.9	20.5	17.9	11.8	19.4	2.6	4.4
T1 参加者	12.3	4.9	7.4	13.2	20.1	14.7	25.5	2.0	4.7
T2	7.8	5.9	5.9	17.6	27.9	13.7	19.6	1.5	4.7
T3	8.8	6.4	5.9	18.1	25.5	12.3	22.5	0.5	4.7

○ 以下の設問は、情報源の信頼度を尋ねたものである。

Q21. 雪に関する情報について、あなたは、次の①～⑤をどの程度信頼していますか。「まったく信頼できない」を1、「大いに信頼できる」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

① 札幌市役所の情報

	1	2	3	4	5	6	7	99	NA	平均値
T1 全体	3.2	2.3	5.6	39.6	17.0	13.2	10.3	4.8	3.9	4.6
T1 参加者	2.5	2.5	7.8	34.3	18.1	16.2	12.7	3.9	2.0	4.7
T2	2.5	2.5	7.8	34.8	26.0	14.2	9.3	2.0	1.0	4.6
T3	3.4	4.4	9.8	36.3	20.6	14.2	10.8	0.5	0.0	4.5

② マスコミの情報

	1	2	3	4	5	6	7	99	NA	平均値
T1 全体	5.0	6.1	11.1	38.3	18.3	10.3	5.4	1.3	4.1	4.2
T1 参加者	5.9	6.9	11.8	34.8	18.1	11.8	9.3	0.5	1.0	4.3
T2	7.4	5.4	18.1	27.0	24.0	10.8	4.9	0.5	2.0	4.1
T3	6.9	6.4	15.2	32.8	22.5	8.8	5.9	1.0	0.5	4.1

③ 研究者・専門家の情報

	1	2	3	4	5	6	7	99	NA	平均値
T1 全体	3.1	4.1	9.2	37.0	19.6	12.6	6.2	3.1	5.0	4.4
T1 参加者	2.9	7.4	8.3	32.8	24.0	14.7	6.4	1.0	2.5	4.4
T2	2.0	5.9	12.7	35.3	19.6	13.7	6.4	2.0	2.5	4.4
T3	3.9	7.4	13.2	33.8	22.1	13.7	4.4	1.0	0.5	4.2

④ 近所の人などの「口コミ」の情報

	1	2	3	4	5	6	7	99	NA	平均値
T1 全体	7.0	6.4	14.8	39.4	14.4	5.8	2.6	4.1	5.3	3.8
T1 参加者	8.8	8.8	13.2	34.3	15.7	10.3	4.4	2.5	2.0	3.9
T2	4.9	11.3	15.2	37.7	12.3	10.3	5.9	1.0	1.5	4.0
T3	5.9	7.4	15.7	35.8	18.6	9.8	4.9	2.0	0.0	4.1

⑤ インターネット上の情報

	1	2	3	4	5	6	7	99	NA	平均値
T1 全体	4.8	7.7	12.4	36.9	14.0	6.9	2.7	7.7	6.8	3.9
T1 参加者	3.4	9.8	17.6	32.4	17.6	10.8	2.0	4.4	2.0	4.0
T2	4.9	6.9	20.1	35.8	17.2	5.9	4.9	2.9	1.5	4.0
T3	4.4	7.8	19.1	36.3	18.1	6.4	3.4	3.4	1.0	3.9

○ 以下の設問は、T1・T2 のみで尋ねたものである（T3 では尋ねていない）。

Q22. 冬の間に最も頻繁に利用する交通手段は、次のうちどれですか。最も頻繁に利用するものを1つだけ選んでください。

	自家用車 (バイク を含む)	公共交通 機関 (バス)	公共交通 機関 (JR)	公共交通 機関 (地下鉄)	タクシー	徒歩・ 自動車	その他	NA
T1 全体	48.1	15.1	6.4	20.0	1.9	6.4	1.7	0.4
T1 参加者	42.6	16.7	11.3	24.5	1.5	3.4	0.0	0.0
T2	37.3	16.2	10.8	24.0	0.5	2.9	0.5	7.8

Q23. あなたの世帯で、次の設備や機械を所有していますか。

①家庭用小型除雪機

	所有している	所有していないが、購入する予定がある	所有していないし、購入予定もない	その他	NA
T1 全体	8.6	1.4	85.8	2.3	2.0
T1 参加者	7.4	2.5	85.8	3.9	0.5
T2	7.8	2.9	76.5	4.4	8.3

②自宅敷地内のロードヒーティング

	ロードヒーティングがあり、使用している	ロードヒーティングはあるが、使用していない	設置していないが、検討、または設置予定がある	設置していないし、今後設置する予定もない	NA
T1 全体	21.0	7.6	1.1	66.4	3.9
T1 参加者	20.1	8.8	1.5	68.6	1.0
T2	18.6	12.7	2.0	57.8	8.8

③小型融雪槽・融雪機

	融雪槽・融雪機があり、使用している	融雪槽・融雪機はあるが、使用していない	設置していないが、検討、または設置予定がある	設置していないし、今後設置する予定もない	NA
T1 全体	6.2	3.4	2.0	82.4	6.1
T1 参加者	5.4	3.4	1.0	87.3	2.9
T2	4.4	5.9	3.9	77.5	8.3

○ 以下の設問は、討論型世論調査に対する評価に関するものであり、T3 のみで尋ねたものである（T1・T2 では尋ねていない）。

Q22. 今回の企画（討論資料が郵送されてからこのアンケートに回答するまで）において、あなた自身の考えをまとめるにあたって、次の項目は役に立ちましたか。あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

① この討論フォーラム全体

	1 役に 立た ない	2	3	4 中間	5	6	7 役に 立っ た	99	NA	平均値
T3	2.5	2.5	4.4	15.7	27.5	23.0	24.5	0.0	0.0	5.3

② 小グループ討論への参加

	1 役に 立た ない	2	3	4 中間	5	6	7 役に 立っ た	99	NA	平均値
T3	1.5	0.5	3.4	11.3	23.5	26.5	32.8	0.5	0.0	5.7

③ 小グループ討論外での、他の参加者との意見交換

	1 役に 立た ない	2	3	4 中間	5	6	7 役に 立っ た	99	NA	平均値
T3	1.5	2.0	5.9	25.5	14.7	23.0	21.6	5.9	0.0	5.2

④ 全体討論での専門家との質疑応答

	1 役に 立た ない	2	3	4 中間	5	6	7 役に 立っ た	99	NA	平均値
T3	4.9	7.4	8.8	24.5	26.5	19.6	8.3	0.0	0.0	4.5

⑤ 討論資料からの情報

	1 役に 立た ない	2	3	4 中間	5	6	7 役に 立っ た	99	NA	平均値
T3	2.5	2.0	4.9	21.6	19.6	32.4	17.2	0.0	0.0	5.2

Q23. 本日の討論に参加するまでに、郵送で受け取った討論資料をご覧になりましたか。

	1. 読んでいない	2. 半分以下しか読んでいない、目を通した程度	3. 半分程度は読んだ	4. 半分以上は読んだ	5. 全部読んだ	6. 全部読んだ上、さらに興味を持った項目などについて自身で調べた	NA	平均値
T3	4.9	13.7	8.3	10.3	52.5	10.3	0.0	4.2

Q24. 討論資料では、異なる立場の意見がバランスよく扱われていたと思いますか。

	1 思わない	2	3	4 中間	5	6	7 思う	99	NA	平均値
T3	6.4	5.4	16.7	28.9	17.6	12.7	11.8	0.0	0.5	4.3

Q25. 小グループ討論についてお伺いします。グループ討論の内容や進行について、あなたはどのように感じましたか。あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

① 小グループ討論の進行役（モデレーター）は、全員が討論に参加できるような機会を適切に作っていた

	1 そう 思わない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	1.5	1.0	6.9	17.2	21.1	28.4	22.5	1.0	0.5	5.3

② 私のグループの参加者は、討論にほぼ等しく参加した

	1 そう 思わない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	4.4	5.9	14.2	20.1	21.6	21.1	11.3	0.5	1.0	4.6

③ 進行役（モデレーター）は反対の意見も考慮に入れるように促した

	1 そう 思わ ない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	4.4	8.3	6.9	32.8	16.7	18.6	8.3	2.5	1.5	4.4

④ 争点の重要な側面を話し合うことができた

	1 そう 思わ ない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	1.5	1.5	8.3	28.4	23.0	20.1	14.7	1.5	1.0	4.9

⑤ 私は、自分とは違う立場の人から多くを学んだ

	1 そう 思わ ない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	0.5	2.0	1.0	19.6	23.5	25.0	26.5	1.0	1.0	5.5

⑥ 私のグループでは、議論を独占した者がいた

	1 そう 思わ ない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	32.8	15.2	13.2	22.5	7.8	4.9	2.0	0.5	1.0	2.8

⑦ 私のグループでは、互いの意見を尊重していた

	1 そう 思わ ない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	1.5	1.5	2.0	12.7	26.0	23.5	31.4	0.5	1.0	5.6

⑧ 見学者が、表情や身振りなどで、自身の意見を示したことがあった

	1 そう 思わ ない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	62.7	7.8	2.5	12.7	4.4	1.5	1.0	5.4	2.0	1.9

Q26. 全体会議についてお伺いします。全体会議の内容や進行について、あなたはどのように感じましたか。あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

① 司会者が適切に議論を整理していた

	1 そう 思わ ない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	2.5	2.9	6.4	29.4	23.5	18.1	16.2	0.0	1.0	4.9

② 専門家の回答は、適切なものであった

	1 そう 思わ ない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	4.4	9.3	17.2	29.9	22.1	11.3	4.9	0.0	1.0	4.1

③ 他のグループの質問の論点に興味があった

	1 そう 思わ ない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	0.5	1.0	3.9	25.5	37.3	20.6	9.8	0.0	1.5	5.0

④ 全体として、自分が理解するのに役立った

	1 そう 思わ ない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	1.0	2.5	4.9	16.7	35.3	23.0	15.2	0.0	1.5	5.2

⑤ 全体会議の質疑応答は、小グループ討論の際に役立った

	1 そう 思わ ない	2	3	4 中間	5	6	7 そう 思う	99	NA	平均値
T3	2.0	4.4	8.3	24.0	27.9	18.1	13.7	0.0	1.5	4.8

Q27. 本日の討論フォーラムへ参加することを決めた理由はなんですか。当てはまるものに2つまでマルをつけてください。

	テーマ 「雪とわたしたちの暮らし」に関心があったから	札幌市の 雪対策に関心があったから	討論型 世論調査という手法に関心があったから	自分の 意見を述べる ことや、他人の 意見を聞くことに 興味があったから	札幌市の政策 や事業に活かされることを期待するから	謝金や 昼食が提供されるから	その他	NA
T3	17.2	48.5	27.5	30.9	30.4	24.0	5.4	1.0

Q28. 本日の討論フォーラム全体について、それぞれあなたはどのように考えますか。次の①～④について、お答えください。

① 謝金（8,000 円）について、どう感じましたか

	1 少ない	2	3	4 適切	5	6	7 多い	8 謝金は不要	NA	平均値
T3	2.9	1.0	7.4	57.8	8.8	6.4	11.3	3.9	0.5	4.5

② 本日の討論フォーラムの時間は長く感じましたか

	1 短かった	2	3	4 ちょうどよい	5	6	7 長かった	NA	平均値
T3	0.5	1.0	2.0	20.1	34.8	19.6	21.6	0.5	5.3

③ 討論フォーラムに参加して、「雪とわたしたちの暮らし」に関し、新たに気づかされたことがありましたか

	1 なかった	2	3	4 中間	5	6	7 あった	NA	平均値
T3	2.9	1.0	4.4	8.8	25.5	32.8	24.0	0.5	5.5

④ 今回のような討論フォーラムに参加する機会があれば、また参加したいと思いますか

	1 参加しない	2	3	4 中間	5	6	7 参加したい	NA	平均値
T3	2.0	1.5	2.0	17.2	18.1	20.6	36.8	2.0	5.6

巻末資料

(参加者への配布資料)

1. 世論調査 (T1 調査) の調査票	97
2. 討論フォーラム参加意向調査票	107
3. 討論フォーラム参加案内	
4. T1 調査への回答方法の解説	
5. 討論資料	115
6. 討論フォーラム参加のしおり	145
7. 全体会議のパネリスト等の紹介	161
8. 討論前アンケート調査 (T2 調査) の調査票	165
9. 討論後アンケート調査 (T3 調査) の調査票	

(討論フォーラム)

1. 全体会議①で出された質問	185
2. 全体会議②で出された質問	

世論調査（T1 調査）の調査票

世論調査ご協力をお願い

札幌市・慶應義塾大学 DP 研究センター共同プロジェクト（平成 26 年 1 月）

「雪とわたしたちの暮らし」

札幌市では、慶應義塾大学 DP 研究センターと共同して、雪に対する市民の皆さまのお考えを幅広くお聞きし、除雪水準や費用負担を含めた今後の雪対策を検討する上での参考にしたいと考えております。ぜひ、あなたの貴重なご意見をお聞かせください。

〈対象者の選び方〉

札幌市の住民基本台帳から、18 歳以上の方 3,000 人を無作為で選ばせていただきました。

〈プライバシーの保護について〉

ご回答いただいた内容は統計的に処理し、「〇〇に賛成△△%」というように、数値・表にまとめますので、個人のお名前や回答内容が公表されることは、決してありません。

また、ご記入いただいた調査票は、集計後に裁断し、情報管理を徹底いたします。

〈ご回答にあたって〉

- ・ この調査票には、必ず、お送りした封筒に記載されたご本人様にご回答ください。右上にある整理番号は、調査票が返送されたかどうかの確認や集計を匿名で行うために使用するものです。
- ・ この調査票には、お名前やご住所を書いていただく必要はありません。
- ・ ご自身のお考えでご回答ください。ほかの人に尋ねたり調べたりして答える必要はありません。
- ・ 一度答えた質問に戻ることなく、順番通りにご回答ください。

ご回答いただいたこの調査票は、お手数ですが、同封の「桃色」の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、平成 26(2014)年 2 月 10 日(月)までに、郵便ポストへ投函してください。

なお、この世論調査を受けて、札幌市と慶應義塾大学 DP 研究センターでは、さらに議論を深めるための討論フォーラムを開催します。詳しくは、同封のご案内をご覧ください。

討論フォーラムにご参加いただけない方も、この世論調査にはご回答ください。

〈お問い合わせ先〉

札幌市市長政策室広報部市民の声を聞く課

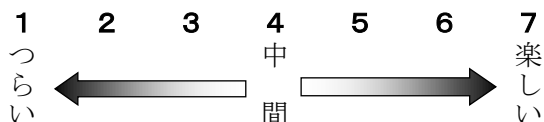
札幌市中央区北 1 条西 2 丁目 札幌市役所本庁舎 1 階

電話番号:011-211-2045(直通)(電話受付時間:平日 8:45~17:15)

Q 1. あなたは、冬が好きですか。

1. 嫌い 2. どちらでもない
3. 好き 99. 意見がない

Q 2. あなたは、札幌市の冬の暮らしについてどのように感じていますか。「つらいことが多い」を1、「楽しいことが多い」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。



Q 3. あなたは、札幌市の冬の暮らしのなかで、何が大変だと感じていますか。次の①～④について、「大変だ」を1、「苦にならない」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。

	大 変 だ			中 間			苦 に な ら な い	意 見 が な い
① 自宅周辺の雪かき	1	2	3	4	5	6	7	99
② 自家用車での移動 (渋滞など)	1	2	3	4	5	6	7	99
③ 徒歩での移動 (路面の凍結など)	1	2	3	4	5	6	7	99
④ 公共交通機関での移動 (遅延など)	1	2	3	4	5	6	7	99

Q 4. あなたのご家庭で、雪が降る期間に、主に雪かきを行うのはどなたですか。あてはまるものすべてにマルをつけてください。

1. あなた自身
2. あなたの配偶者
3. あなたの親
4. あなたの子ども
5. ボランティア
6. 契約業者
7. 福祉除雪利用
8. その他(記入欄→) _____

Q 5. あなた自身が、雪が降った日に、雪かきにかかる時間はどのくらいですか。

1. ほとんどしてない 2. 約 15 分
3. 約 30 分 4. 約 1 時間
5. 2 時間以上 99. 意見がない

Q 6. 雪が降った日には、雪が降っていない日と比べて、通勤・通学や買い物などで、余分にかかる時間は、あなたの場合、片道でどのくらいですか。

1. ほとんど変わらない
2. 約 15 分多くかかる
3. 約 30 分多くかかる
4. 約 1 時間多くかかる
5. 2 時間以上多くかかる
99. 意見がない

Q 7. 降雪や路面凍結のために、会社や学校などに所定の時間に着けなかったことは、ひと冬前の 1 年間で、何回くらいありましたか。

_____ 回くらい

Q 8. 降雪や路面凍結を考えて、外出（買い物や通院など）をあきらめたことは、ひと冬前の 1 年間で、何回くらいありましたか。

_____ 回くらい

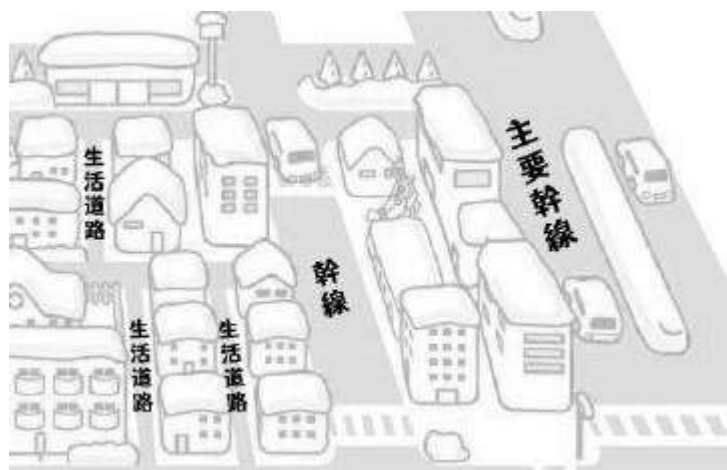
◆ これ以降の質問の中で、「除雪」と「排雪」、「幹線道路」と「生活道路」という言葉が登場します。それぞれの言葉の意味は、次のとおりです。

「除雪」とは、雪をかき分けること

「排雪」とは、道路の雪山を雪堆積場等^{たいせき}に運ぶこと

「幹線道路」とは、都市活動を支える道路

「生活道路」とは、地域に密着した住宅街に接した道路



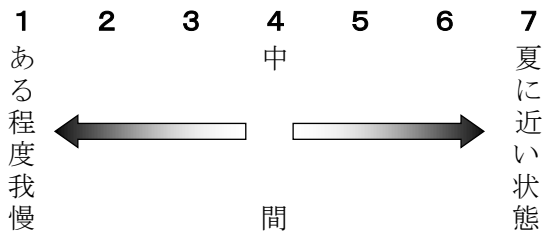
Q 9. あなたは、現在の札幌市による除雪や排雪についてどのように考えますか。次の①～④について、「まったく不満足」を1、「大いに満足している」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

	まったく不満足			中 間			大いに満足			意見がない
①幹線道路の除雪	1	2	3	4	5	6	7			99
②幹線道路の排雪	1	2	3	4	5	6	7			99
③生活道路の除雪	1	2	3	4	5	6	7			99
④生活道路の排雪	1	2	3	4	5	6	7			99

Q 10. 冬の道路の排雪についてお尋ねします。ふたつの意見1と7のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を4としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

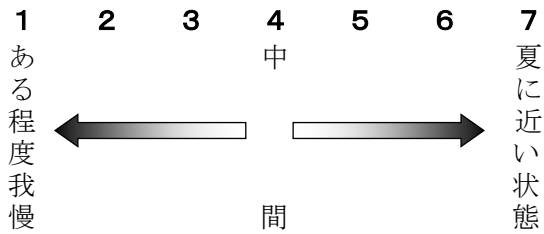
① 幹線道路について

- 移動に多少の時間がかかっても、ある程度の不便は我慢すべき
- 雪がほとんど排雪された夏に近い状況を目指すべき



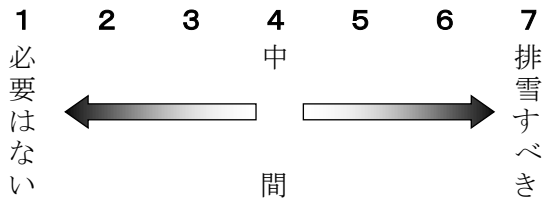
② 生活道路について

- 車1台が通行できる状態が確保されれば、ある程度の不便は我慢すべき
- 雪がほとんど排雪された夏に近い状況を目指すべき



③生活道路について

- 行政が排雪をする必要はない
- 税など住民の負担が増えても、行政が排雪をするべき

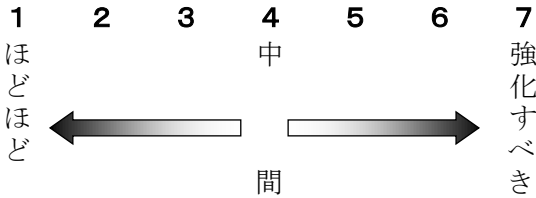


Q 11. あなたが冬の暮らしについて我慢できることと、できないことは何ですか。次の①～⑦について、「まったく耐えられない」を1、「十分に我慢できる」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

	まったく耐えられない			中 間			十分に我慢できる			意見がない
①行政による除雪作業で自宅の間口に雪が置かれること	1	2	3	4	5	6	7			99
②車道にワダチや凸凹ができること	1	2	3	4	5	6	7			99
③道路や家ごとに均等に除雪が行われないこと	1	2	3	4	5	6	7			99
④通勤・通学時間に車道の除雪が間に合わないこと	1	2	3	4	5	6	7			99
⑤車道が凍結しアイスバーンになってしまうこと	1	2	3	4	5	6	7			99
⑥歩道が凍結して、転倒の危険が増すこと	1	2	3	4	5	6	7			99
⑦車道や歩道の路側に除雪された雪が堆積され、必要な車線が確保されないこと	1	2	3	4	5	6	7			99

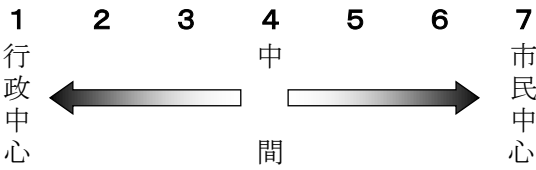
Q 1 2. 札幌市の今後の雪対策について、ふたつの意見1と7のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を4としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

- 1. ほどほどの雪対策にとどめ、かける費用を軽減すればいい
- 7. 税など住民の負担が増えても、現在の雪対策をもっと強化すべき



Q 1 3. 札幌市の雪対策プラン（市が取り組む除雪や排雪対策の計画）の作り方についてお聞きします。ふたつの意見1と7のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を4としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

- 1. 市（行政）が雪対策のプランを作るべきだ
- 7. 市民が中心で雪対策のプランを作るべきだ



Q 1 4. 次の1～4について、あなたが知っているものはありますか。知っているものすべてにマルをつけてください。

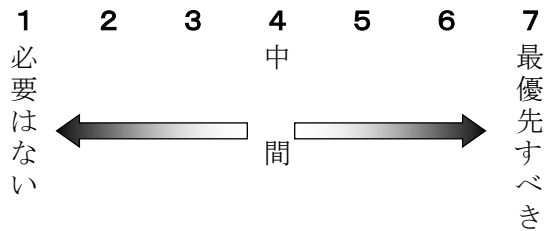
- 1. 除雪パートナーシップ制度
- 2. 「冬のみちづくりプラン」検討委員会などの市民公募委員制度
- 3. 「地域と創る冬みち事業」
- 4. パブリックコメント制度

Q 1 5. 札幌市の今後の雪対策について、あなたができると思うことはどれですか。次の①～⑬について、「まったくできない」を1、「大いにできる」を7とし、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

	まったくできない	1	2	3	4	5	6	7	大いにできる	意見がない
①雪かきボランティアに参加する	1	2	3	4	5	6	7	99		
②行政や除雪企業との合同パトロールに参加する	1	2	3	4	5	6	7	99		
③近所や地域の人々と協力して雪かきを行う	1	2	3	4	5	6	7	99		
④行政の除雪作業で発生した自宅前の雪を除雪する	1	2	3	4	5	6	7	99		
⑤通勤・通学時などに公共交通機関を利用する	1	2	3	4	5	6	7	99		
⑥車で通勤・通学時にピーク時間帯を避ける	1	2	3	4	5	6	7	99		
⑦砂まきなど、歩道のツルツル路面对策をする	1	2	3	4	5	6	7	99		
⑧道路に雪出しをしないなどルール・マナーを守る	1	2	3	4	5	6	7	99		
⑨除雪作業が行われる路上に車を駐車しない	1	2	3	4	5	6	7	99		
⑩福祉除雪の地域協力委員になる	1	2	3	4	5	6	7	99		
⑪除雪パートナーシップ制度を利用する	1	2	3	4	5	6	7	99		
⑫市民助成トラック制度を利用する	1	2	3	4	5	6	7	99		
⑬民間除雪サービス会社と契約する	1	2	3	4	5	6	7	99		

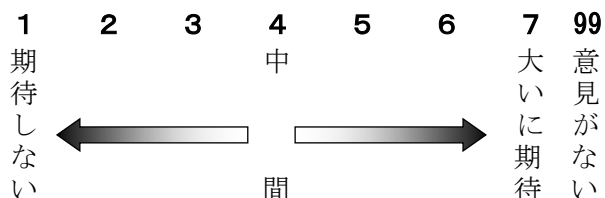
Q 1 6. 雪堆積場の増設についてお尋ねします。ふたつの意見1と7のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を4としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

- 1. 雪堆積場を増設する必要はない
- 7. 雪堆積場の増設を最優先すべきだ

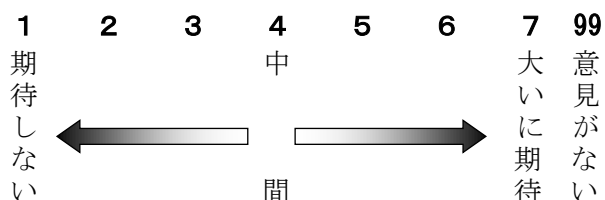


Q 17. 新たな雪処理施設の整備についてお尋ねします。あなたは、次の①～③について、どの程度期待していますか。「まったく期待しない」を1、「大いに期待する」を7とし、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

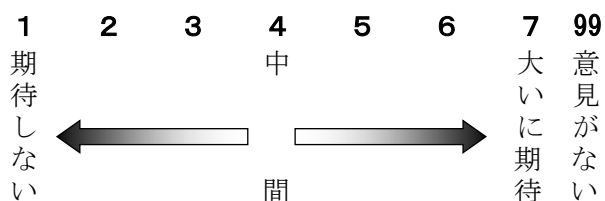
① 電気やガスを使用して道路の凍結を防ぐロードヒーティングの整備をさらに進める



② 河川水や下水処理水を利用し、雪を流す流雪溝の整備をさらに進める



③ 水対策や水質保全を目的として建設する調整池や貯留管などを、冬期間に融雪施設として複合的に利用できるようにした融雪槽・融雪管の整備をさらに進める



◆ Q 18～Q 22の質問はクイズ形式ですので、正解を調べずに、あなたが、正しいと思うものを1つ選んでください。

Q 18. 札幌市の平成 25（2013）年度の雪対策の予算は、次のうちどれだと思いますか。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 約 60 億円 | 2. 約 110 億円 |
| 3. 約 160 億円 | 4. 約 210 億円 |
| 5. 約 260 億円 | 6. 約 310 億円 |

Q 19. 札幌市の雪対策において、最も費用がかかるものは、次のうちどれだと思いますか。

1. 車道を除雪するための費用
2. 除雪した雪を堆積場へ運搬するための費用
3. 生活道路パートナーシップ排雪（町内会と共同で負担し生活道路等の排雪をすること）のための費用
4. 雪堆積場を管理するための費用

Q 20. 幹線道路 100m を 1 回除雪するための費用は約 3,000 円ですが、同じ距離を 1 回排雪する（除雪した雪を堆積場等へ運ぶ）ために必要となる費用は、次のうちどれだと思いますか。

1. 約 3,000 円
2. 約 6,000 円
3. 約 1 万円
4. 約 5 万円
5. 約 15 万円
6. 約 25 万円
7. 約 35 万円

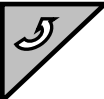
Q 21. 札幌市の雪堆積場に運ばれるひと冬あたりの雪の量は、次のうちどれだと思いますか。

1. 札幌ドーム約 5 杯分
2. 札幌ドーム約 15 杯分
3. 札幌ドーム約 25 杯分
4. 札幌ドーム約 35 杯分

Q 22. 国や札幌市などが定めるルールとして誤っているものは、次のうちどれだと思いますか。

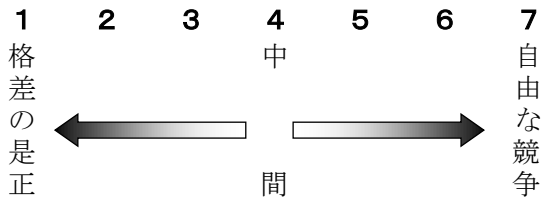
1. 敷地内から道路へ雪出しをしてはいけない
2. スパイクタイヤを装着してはいけない
3. 札幌市内のすべての公園に、雪入れをしてはいけない
4. 河川に投雪をしてはいけない

次のページの左上のQ23に進んでください

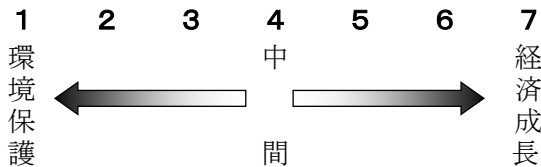


Q 2 3. あなた自身の考えについてお尋ねします。次の①～④について、それぞれ1と7のどちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を4としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

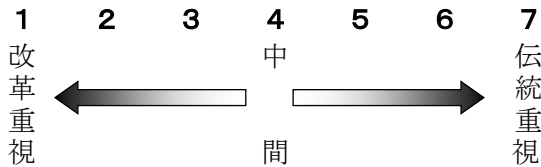
- ① 1. 所得や資産の格差を減らすべきだ
7. 経済活動は自由に競争すべきだ



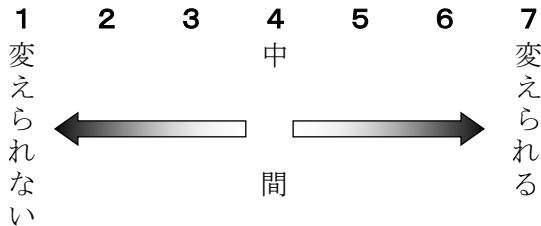
- ② 1. 経済活動に支障があっても環境保護を重視すべきだ
7. 環境保護を考えるよりも経済成長を重視すべきだ



- ③ 1. 社会に活力をもたらすためには、改革を続けるべきだ
7. 歴史や伝統を守って、社会の秩序を維持すべきだ



- ④ 1. 自分の一票では、政治や社会を変えることはできない
7. 政治や社会を変えるには、まず自分の一票からだ



Q 2 4. 雪に関する情報について、あなたは、次の①～⑤をどの程度信頼していますか。「まったく信頼できない」を1、「大いに信頼できる」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

	まったく信頼できない	1	2	3	4	5	6	7	大いに信頼できる	意見がない
①札幌市役所の情報	1	2	3	4	5	6	7	99		
②マスコミの情報	1	2	3	4	5	6	7	99		
③研究者・専門家の情報	1	2	3	4	5	6	7	99		
④近所の人などの「口コミ」の情報	1	2	3	4	5	6	7	99		
⑤インターネット上の情報	1	2	3	4	5	6	7	99		

◆ 最後に、今回の調査結果を統計的に処理するために、いくつかおうかがいします。

Q 2 5. あなたは、男性ですか。女性ですか。

1. 男性 2. 女性

Q 2 6. あなたは、いま何歳ですか。

1. 18～19 歳 2. 20～24 歳
3. 25～29 歳 4. 30～34 歳
5. 35～39 歳 6. 40～44 歳
7. 45～49 歳 8. 50～54 歳
9. 55～59 歳 10. 60～64 歳
11. 65～69 歳 12. 70～74 歳
13. 75～79 歳 14. 80 歳以上

Q 2 7. あなたのお住まいの区を教えてください。

1. 中央区 2. 北区
3. 東区 4. 白石区
5. 厚別区 6. 豊平区
7. 清田区 8. 南区
9. 西区 10. 手稲区

Q 2 8. あなたのご職業についてお聞きします。下表の左端にある 1～6 の番号の中から 1 つ選んでマルをつけてください。どれにあたるかわからない方は、「6」にマルをつけ、「その他」の欄にご職業をお書きください。

1	事務職	一般事務・営業・経理・総務・秘書など 公務員・教職員など
	専門・技術	お勤めの方で医師・弁護士・会計士などの有資格者 お勤めの方で専門職や技術職の方
	管理職	民間企業の課長職以上の方、管理的公務員 勤務医などの専門職で院長や部門長
2	製 造	衣服・食品・機械・家などのものづくり
	販 売	店員・保険などの外交員・不動産仲介など
	サービス	ホテル・飲食・理容・警備・清掃業など
3	自 営	経営者、医師・弁護士・会計士などのうち自営の方 美術・芸能・スポーツなどに関わる自由業の方
4	農林漁業	農業・酪農・林業・園芸・漁業など
5	主 婦	おもに専業主婦の方
6	無 職	おもに年金生活の方 学生の方 特定の職についていない方
	その他	(記入欄)

Q 2 9. あなたは札幌市にどのぐらいの期間お住まいになっていますか（以前に札幌市に住んでおり、一旦転出しました転入した場合は、合計の年数をお答えください）。

1. 1 年未満
2. 1 年以上 3 年未満
3. 3 年以上 5 年未満
4. 5 年以上 10 年未満
5. 10 年以上 15 年未満
6. 15 年以上 20 年未満
7. 20 年以上

Q 3 0. あなたの同居の家族形態は、次のうちどれですか。

1. 単身
2. 夫婦のみ
3. 夫婦と子ども
4. 父子または母子家庭
5. 夫婦と親（配偶者の両親含む）の 2 世代家族
6. 親（配偶者の両親含む）と夫婦と子どもの 3 世代家族
7. その他(記入欄→) _____

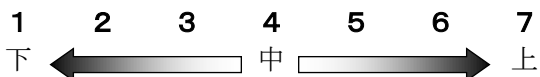
Q 3 1. あなたの最終学歴は、次のうちどれですか（在学中の方は、いま通っている学校を選んでください）。

1. 小・中学校（または旧制高等小学校）
2. 高等学校（または旧制中学、高等女学校など）
3. 専門学校
4. 短期大学・高等専門学校
5. 大学
6. 大学院
7. その他（記入欄→）_____

Q 3 2. あなたのお住まいは、次のうちどれですか。

1. 持ち家（一戸建て）
2. 持ち家（マンション・アパートなどの集合住宅）
3. 賃貸住宅・社宅（一戸建て）
4. 賃貸住宅・社宅（マンション・アパートなどの集合住宅）
5. その他（記入欄→）_____

Q 3 3. あなたの生活水準は、次のうちどれだと思いますか。



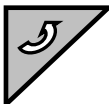
Q 3 4. あなたの主な就業・就学の場所は、どこですか。

1. 札幌市内
2. 北海道の他市町村
3. その他（記入欄→）_____

Q 3 5. あなたのお宅には、家庭用の固定電話がありますか（携帯電話のみの方は、2 にマルをつけてください）。

1. ある
2. ない

次のページの左上の Q 3 6 に進んでください



Q 3 6. ご自分の家の中で、あなたが電話で人と話すときには、「家庭の固定電話」と「携帯電話」のどちらを主に利用していますか。あなたの利用状況に最も近いものを1つだけ選んでください。

1. 携帯電話のみを利用する
2. ほとんど携帯電話を利用し、たまに固定電話を利用する
3. どちらかといえば携帯電話を利用することが多い
4. どちらかといえば固定電話を利用することが多い
5. ほとんど固定電話を利用し、たまに携帯電話を利用する
6. 固定電話のみを利用する
7. その他（記入欄→）_____

Q 3 7. あなたは、インターネットを利用していますか。

1. 使っていない
2. 月に数回使う
3. 週に数回使う
4. 毎日1時間程度使う
5. 毎日2時間程度使う
6. 毎日3時間以上使う
7. その他（記入欄→）_____

Q 3 8. あなたの世帯で所有する自家用車（バイクを含む）の数について教えてください。

1. 所有していない
2. 1台
3. 2台
4. 3台以上

Q 3 9. 冬の間に最も頻繁に利用する交通手段は、次のうちどれですか。最も頻繁に利用するものを1つだけ選んでください。

1. 自家用車（バイクを含む）
2. 公共交通機関（バス）
3. 公共交通機関（JR）
4. 公共交通機関（地下鉄）
5. タクシー
6. 徒歩、自転車
7. その他（記入欄→）_____

Q 4 0. あなたの世帯で、次の設備や機械を所有していますか。

① 家庭用小型除雪機

1. 所有している
2. 所有していないが、購入する予定がある
3. 所有していないし、購入予定もない
4. その他（記入欄→）_____

② 自宅敷地内のロードヒーティング

1. ロードヒーティングがあり、使用している
2. ロードヒーティングはあるが、使用していない
(理由は→) _____
3. 設置していないが、検討、または設置予定がある
4. 設置していないし、今後設置する予定もない

③ 小型融雪槽・融雪機

1. 融雪槽・融雪機があり、使用している
2. 融雪槽・融雪機はあるが、使用していない
(理由は→) _____
3. 設置していないが、検討、または設置予定がある
4. 設置していないし、今後設置する予定もない

Q 4 1. ご回答いただいた日付をご記入ください。

(月 日)

質問は、以上です。

最後までご回答いただき、ありがとうございました。

討論フォーラム参加意向調査票

討論フォーラム参加案内

T1 調査への回答方法の解説

討論フォーラム 参加意向調査票

次の1～4のいずれかに○を付け、その他必要事項をご記入の上、同封の「黄色」の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、平成26年2月10日（月）までに、郵便ポストへ投函してください。

なお、討論フォーラムへのご参加は、同封の世論調査の回答者ご本人に限らせていただきます。世論調査の回答者以外の方による代理参加はできません。

1 参加したい

2 参加したいが、まだ予定を確定できない

3 参加するかどうか迷っている

4 参加したくない

用事がある・興味がない・
その他（ ）1～4のいずれかに
○を付けてください
(4の場合は、よろしければ
理由もお知らせください)

(ふりがな)

① お 名 前 : _____

② ご 住 所 : 〒 _____

札幌市 _____ 区

ご住所は、区からご記入ください。現時点で、3月15日までに現在の住所から市内の他の場所への転居を予定されている方は、右の口欄にチェックをし、新しい住所を記入してください。

なお、3月15日時点で札幌市内に在住の方が、討論フォーラムの参加対象となります。

☐

③ 性 別 : 男性 ・ 女性

④ 平成26年3月15日時点での年齢 : _____ 歳

⑤ 電 話 番 号 : _____

ご連絡がしやすい番号をご記入ください。携帯電話でもかまいません。

⑥ 電子メール : _____ @ _____ 日常お使いの方のみ。

○ 記入にあたっての注意事項等については、裏面に記載しております。

○ お気づきの点などがございましたら、裏面にお書きください。

【記入にあたっての注意事項】

- この「参加意向調査票」（黄色）は、世論調査の調査票（桃色）とは別に、黄色の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、平成26年2月10日（月）までに、郵便ポストへ投函してください。
- 1～3に○を付けた方には、2月下旬までに、討論フォーラムのご案内を差し上げます。なお、参加希望者が多数の場合には、抽選とさせていただきます。
- 4に○を付けた方（参加を希望されない方）も、お手数ですが、この用紙をご返送ください。

※ ご質問やお気づきの点などがございましたら、こちらにお書きください。

討論フォーラムへのご参加にあたって、特に主催者側で気を付けることがあれば、こちらにお書きください（車椅子のお手伝いや食物アレルギーの有無など）。

託児施設（無料）をご利用の方は、スタッフの準備の都合がありますので、お子様の年齢・性別をお書きください。

＜個人情報の取り扱いについて＞

ご記入いただいた個人情報は、討論フォーラムに関する案内等、当該事業の目的以外に使用することはいたしません（札幌市個人情報保護条例第8条）。

札幌市市長政策室広報部市民の声を聞く課
札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎1階
電話番号：011-211-2045（直通）（電話受付時間：平日8：45～17：15）

世論調査にご協力
いただいた方の中から

200名※
ご招待

札幌市・慶應義塾大学DP研究センター共同プロジェクト

「雪とわたしたちの暮らし」 討論フォーラムのご案内

札幌市と慶應義塾大学DP研究センターでは、「雪とわたしたちの暮らし」をテーマに、札幌市における今後の雪対策(除雪水準や費用負担の問題など)について考える「討論フォーラム」を開催します。

参加者には、論点を整理した資料を事前に郵送いたしますので、雪についての詳しい知識などは不要です。資料を片手に参加者同士でお話をしたり、疑問に感じたことやもっと知りたいことなどを専門家へ質問したりすることなどを通じて、「雪とわたしたちの暮らし」について、一緒に考えてみましょう！

※討論フォーラムへの参加は、世論調査の回答者ご本人に限らせていただきます。代理などによる参加はできません。



小グループ討論の様子



全体会議の様子



討論前(後)アンケート

日 時: **平成26(2014)年3月15日(土) 9:00～18:30**

場 所: 札幌市男女共同参画センター (札幌市北区北8条西3丁目 JR札幌駅北口徒歩5分)

定 員: 200人(希望者多数の場合、抽選で決定します。)

謝 礼: **8,000円を贈呈いたします。**

申込方法: 「討論フォーラム 参加意向調査票(黄色)」に必要事項を記入の上、同封の黄色の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに**平成26年2月10日(月)**までに郵便ポストへ投函してください。

その他: 昼食はご用意します。会場はバリアフリー構造です。無料の託児サービスも有ります。

～当日のスケジュール(予定)～

09:00 受付開始
09:30 全体説明会(討論前アンケート)
10:10～11:40 小グループ討論①
11:40～12:50 昼食
12:50～14:10 全体会議①
14:30～16:00 小グループ討論②
16:20～17:50 全体会議②
18:00 全体説明会(討論後アンケート)
18:30 解散(予定)

〈お問い合わせ先〉

札幌市市長政策室広報部市民の声を聞く課
札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎1階
電話番号:011-211-2045(直通)

(電話受付時間:平日8:45～17:15)



世論調査+討論フォーラム

札幌市・慶應義塾大学DP研究センター共同プロジェクト

「雪とわたしたちの暮らし」



日ごろから、札幌市政にご協力いただき、ありがとうございます。

このたび、札幌市では、慶應義塾大学DP研究センターと共同して、「雪とわたしたちの暮らし」をテーマに、「討論型世論調査」(※詳しくは裏面参照)を実施することといたしました。

まずは、札幌市在住の18歳以上の皆さまから、3,000人を無作為で選ばせていただき、通常の「世論調査」として、調査票へのご回答をお願いしております。

さらに今回は、この世論調査の回答者の皆さまから200人の方を、平成26年3月15日(土)に開催する「討論フォーラム」へご招待いたします。(ご参加いただいた方には、8,000円の謝礼をお支払いします。)

回答用紙が2種類ありますので、以下の説明をご参照ください。

ご回答方法について

桃色は世論調査用です。

桃色の用紙



世論調査への回答にご協力ください。

桃色の封筒



上記**桃色**の回答用紙を入れてください。

黄色は討論フォーラム用です。

黄色の用紙



討論フォーラムへの参加意向をお聞かせください。お名前などを記入する欄がございます。

黄色の封筒



上記**黄色**の用紙を入れてください。

2月10日(月)までに切手を貼らずにポストにご投函ください。

※フォーラム参加の可否に関わらず2通ともお送りください。



お問い合わせ:札幌市市長政策室広報部市民の声を聞く課 TEL:011-211-2045

⇒裏面もご覧ください。



討論型世論調査(DP)とは…

世論調査

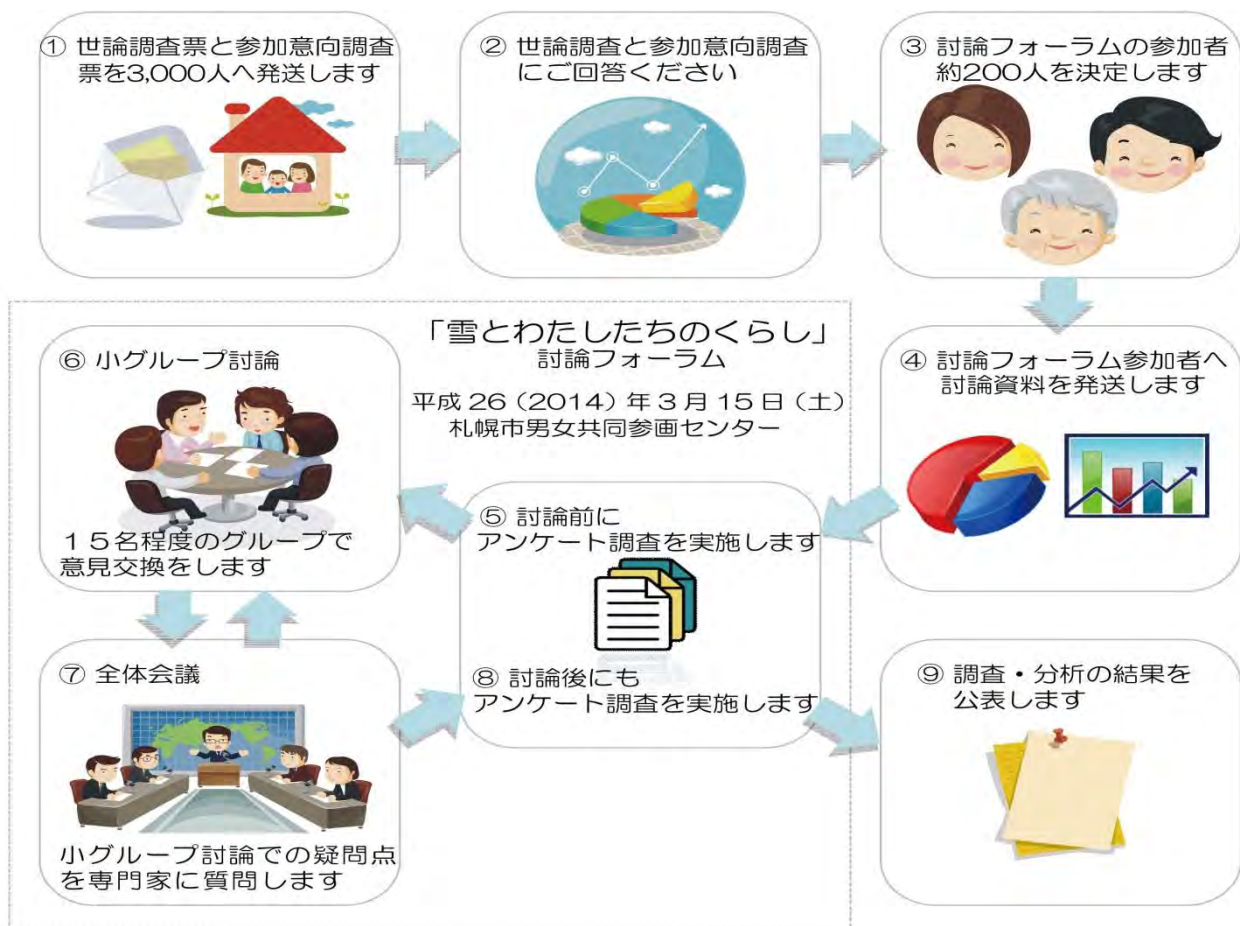
+

討論フォーラム

2つから構成される社会調査のことです。

討論型世論調査(Deliberative Poll:DP)とは、「世論調査」と「討論フォーラム」の2つから構成される社会調査の方法です。アメリカのスタンフォード大学の研究者らが開発し、世界中で行われています。わが国でも、これまでに6回行われました(北海道内では2回目です)。

討論フォーラムでは、小さなグループに分かれて他の参加者と話し合う「小グループ討論」と、グループでの疑問点を専門家に質問する「全体会議」を行います。小グループ討論では、参加者が自由に発言できるように、司会者が進行を担当します。討論の開始前と終了後にアンケート調査を行い、討論過程前後の意見の変化を調査します。



★討論型世論調査の実施主体

今回の討論型世論調査は、札幌市と慶應義塾大学DP研究センター(代表:曾根泰教 慶應義塾大学教授)とが共同で行います。DP研究センターは、これまでに、自治体と連携した討論型世論調査や、日本全国の有権者を対象にした討論型世論調査を4回実施してきました。政府(内閣官房)からの受託でDP研究センターが全国民を対象に行った討論型世論調査の結果は、平成24(2012)年の国のエネルギー政策の策定の参考にされました。

討論資料

雪とわたしたちの暮らし

《 討論資料 》

札幌市・慶應義塾大学DP研究センター共同プロジェクト

開催日：2014（平成26）年3月15日（土）

会 場：札幌市男女共同参画センター



慶應義塾大学DP（討論型世論調査）研究センター

ジェームズ・S・フィッシュキン	スタンフォード大学コミュニケーション学部教授 (スタンフォード大学DD研究センター所長)
アリス・シュール	スタンフォード大学DD研究センター副所長

赤城	由紀	札幌国際大学人文学部准教授
内田	和男	北海道武蔵女子短期大学学長
小山	茂	札幌大学地域共創学群教授
杉岡	直人	北星学園大学社会福祉学部教授
乳井	文夫	札幌市除雪事業協会会長
萩原	亨	北海道大学大学院工学研究院教授
原	文宏	北海道開発技術センター理事

(五十音順)

1. この資料は、2014年3月15日に札幌市で開催される討論フォーラム「雪とわたしたちの暮らし」で、雪についての現状と今後の課題をテーマとして討論する際に、参考にしていただくためのものです。北海道内の7名のアドバイザーから指導・助言をいただきながら、慶應義塾大学DP（討論型世論調査）研究センターが作成しました。
2. この資料は、3つの章からなる本文と巻末資料とから構成されています。
3. この資料では、3月15日の討論フォーラムで話題になると思われることが、わかりやすく解説されています。ただし、札幌市の雪についてのすべてのことが書かれているわけではありません。3月15日には、この資料に書かれていないことでも、自由にご発言ください。
4. この資料の無断転載・複製などをご遠慮ください。

「雪とわたしたちの暮らし」 討論資料 目次

1. 「雪とわたしたちの暮らし」の討論フォーラムでは、何を議論するのか.....	4
1.1. 何が目的か.....	4
1.2. 討論型世論調査とは何か.....	4
2. 札幌の雪の現状.....	6
2.1. 札幌の雪の特徴.....	6
札幌市は日本有数の大都市.....	6
日本の大都市で飛び抜けて多い降雪量.....	6
札幌市の雪対策費は約 150 億円.....	7
雪が多い年にはもっと費用がかかる.....	8
2.2. 札幌市の雪対策の課題.....	9
除雪対象の道路は 5,400 キロメートル.....	9
排雪にかかる莫大な費用.....	9
札幌市内の雪堆積場の確保が困難となり、郊外の堆積場が増える.....	10
除雪従事企業の減少.....	11
3. 討論フォーラム「雪とわたしたちの暮らし」.....	12
3.1. 雪対策のいま.....	12
生活道路除雪に対する根強い市民ニーズ.....	12
深刻化する雪堆積場の不足.....	13
論点 1 いま何が一番問題か。生活道路の排雪なのか.....	14
論点 2 雪堆積場を増設すべきか.....	15
3.2. 札幌市の雪対策のこれから.....	17
第一の観点：市民が積極的に雪対策に関与すべき.....	17
第二の観点：雪対策は行政が責任をもって対処すべき.....	17
論点 3 札幌市は今後もっと雪対策に取り組むべきなのか。 取り組むとすれば何を行うべきか.....	18
論点 4 市民の役割は何か。例えば、歩道の除雪を市民の義務にすべきか。 超高齢化社会での雪対策という問題をどう解決すべきか.....	18
3.3. まとめ：「雪とわたしたちの暮らし」の選択肢.....	21
4. 巻末資料.....	23
5. 参考文献.....	26

1. 「雪とわたしたちの暮らし」の討論フォーラムでは、何を議論するのか

1.1. 何が目的か

今回の討論フォーラムでは、議論すべき2つの大きなテーマがあります。1つ目は、現状の札幌市の雪の問題とは何かを、市民の立場から明らかにすることです。2つ目は、これからの札幌市が雪対策をどうすればよいのかを、市民の立場から選択することです。そのときに、市民が果たす役割とは何かということも考えてみましょう。

冬の札幌市では、雪の問題には誰もが直面せざるをえません。人それぞれに雪と向き合っているでしょうが、札幌市として、どうすればよいのかを選択する必要があります。ここでは、自分の庭先の雪のことから一歩進めて、目の前の道路、個人の通勤・通学、あるいは買い物や通院という市民に関わる日常生活と雪の問題、さらには市全体の交通システムの関係することを、**学び、考え、話しあう**ために討論フォーラムを開きます。

札幌市民の雪に対する考え方については、一般の世論調査を行えばわかると思われがちですが、この討論型世論調査では、少し異なる方法をとります。すでに世論調査は行いました。その世論調査にお答えいただいた方々に1か所に集まっていただき、討論フォーラムにおいて、さらに集中的な討論をします。この資料は、その議論のための材料です。そして、討論過程の前後でアンケート調査を実施します。

通常の世界論調査で出た答えが札幌市民の考え方の方向性を示しているとばかりはいえませんが、札幌市が現在実施している雪対策が、市民の要望を十分反映しているのかも確認する必要があります。

そのような現実を踏まえて、札幌市は今後、どのように雪対策をしたらいいのでしょうか。雪対策では、1つのことが、さまざまなこととつながって、大きなシステムになっていることを理解した上で、どのような対策を行うべきかを選択しましょう。そのときに、市民の役割も考えなければいけません。

その結果、通常の世界論調査では調べきれないことが浮き彫りになるはずですが、それが、現実の政策を選択するときに活かされるということが、討論型世論調査の目的でもあります。

1.2. 討論型世論調査とは何か

ここで、討論型世論調査(Deliberative Poll :DP)という今回行う手法の説明を簡単におきます。通常の世界論調査は無作為で対象者を選びます。そこには市民の「縮図」(microcosm)ができあがります。さらに、その回答者に、話しあいができる規模の討論フォーラムにご参加いただきます。そして、もう一度「縮図」となった皆さんの意見がどう変化するかを調べようとするものです。通常の世界論調査は1回で意見や態度を調べるのに対して、討論型世論調査は、今回の「雪とわたしたちの暮らし」のようなテーマについて、この討論資料で背景の情報提供を受け、さらには、討論フォーラムで、少人数のグループによる討論を行い、さらに専門家に対して、疑問に思ったことを質問することができるようになっています。アンケートは、討論フォーラムの開始前とすべて終了した後で行いますので、合計3回の世界論調査が行われます。

この方法は、スタンフォード大学のフィッシュキン(James S. Fishkin)教授たちが考案して、

1994年に英国で初めて行われて以来、世界18か国70回以上行われてきました。日本では今回で7回目ですが、札幌市内では2回目になります。

2. 札幌の雪の現状

2.1. 札幌の雪の特徴

「雪とわたしたちの暮らし」を議論するために、現状の札幌市のことを確認しておきましょう。札幌市と雪の関係を考えるときに、次の3つのことを踏まえておく必要があります。1番目に、札幌市は人口190万人の大都市であるということです。2番目に、札幌市の降雪量は他の大都市よりも多いということです。3番目に、大都市の機能は車に大きく依存しているということです。当たり前のことばかりですが、この3つが同時に存在しているというところに、札幌市における雪の問題の難しさがあります。具体的なデータを見ながら考えていきましょう。

札幌市は日本有数の大都市

札幌市はその人口や経済規模から見ても日本有数の都市です。札幌市の人口は政令指定都市のなかで4番目の約194万人です。面積は政令指定都市のなかで3番目の広さを持つ1,121平方キロメートル（東京都23区の約2倍の広さ）です。市の経済規模を示す市内総生産（実質）は約6兆5千億円で、これは政令指定都市のなかで5番目の大きさとなっています。一般会計の当初予算は約8,500億円（2013年度）で、これは政令指定都市のなかで4番目の大きさです。

日本の大都市で飛び抜けて多い降雪量

札幌市では、一年のうち約3分の1（平均125日）は雪が降っています（図表1参照）。毎冬の降雪量は平均約6メートル、最大積雪深は平均1メートルとなっており、これは全国主要都市のなかでも飛び抜けて多い数値です（図表2参照）。

日本の大都市の中では一番といっても当たり前だと思う人も多いでしょうが、実は世界で見ても人口100万人を超える札幌市のような大都市で、これだけの降雪があるのは珍しいことです。札幌市では、ロシアの古都として有名なサンクトペテルブルクやカナダ第2位の都市であるモントリオールよりもたくさんの雪が降っています（図表3参照）。

【図表1 全国主要都市の降雪・積雪の出現日数（1981年～2010年の平年値）】（単位：日／年）

	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	那覇
雪日数	125.9	66.5	70.8	9.7	16.6	15.5	23.3	17.1	0
積雪0cm以上	132.4	36	54.4	4.8	6.2	1.5	7.1	3.7	0

（出典：さっぽろお天気ネット「札幌と他都市の比較」）

【図表2 全国主要都市の累積降雪量・積雪深（1981年～2010年の平年値）】（単位：cm）

	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	那覇
降雪の深さ（年合計）	597	71	217	11	16	3	12	4	0
積雪の深さ（年最大）	100	17	36	6	8	2	6	3	－

（出典：同上）

【図表 3 世界のなかで見た札幌の降雪量】

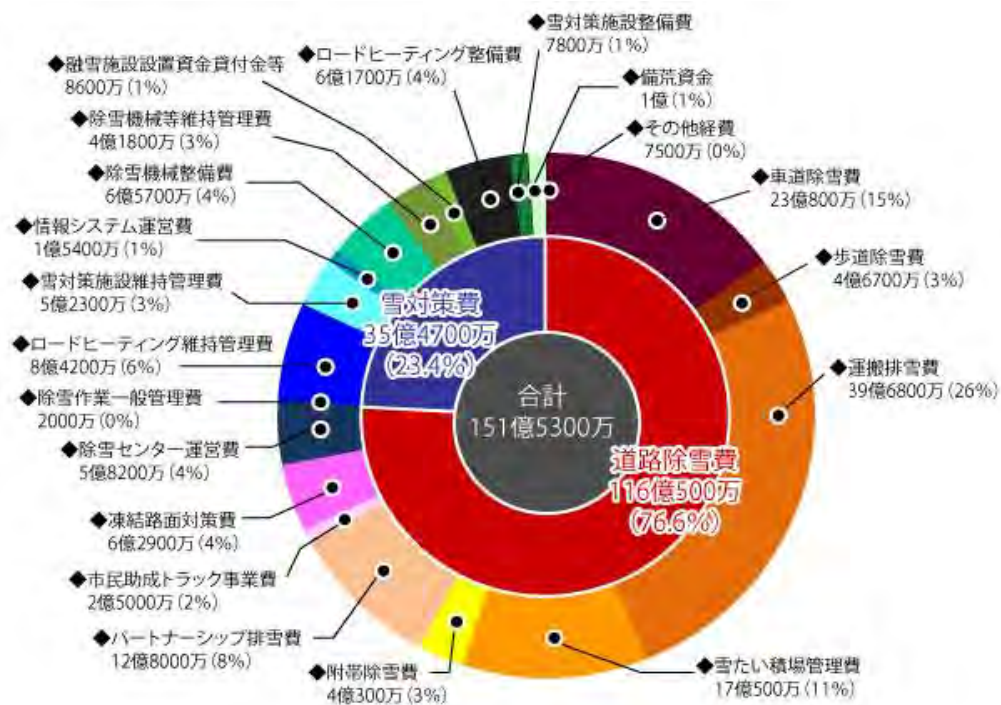


(出典：札幌市 HP「札幌にはどれくらいの雪が降るの？」)

札幌市の雪対策費は約 150 億円

札幌市は、日本有数の経済都市でありながら、たくさんの雪が降るという特徴を持っています。冬の時期に札幌市の経済と札幌市民の生活を支えるためには、雪対策の予算も大きくなります。2013 年度の札幌市の雪対策の当初予算は 151 億円でした。約 150 億円のうち、いちばん多くのお金を使っているのが雪の運搬排雪費（約 39 億円）です（図表 4 参照）。当初予算ベースで見ると、151 億円という額は札幌市の一般会計予算（8,524 億円）の 1.7%という規模になります。また 1 世帯あたりの道路除雪費は約 13,000 円、市民 1 人あたりの雪対策費は 7,600 円となっています（図表 5 参照）。この負担額は雪対策予算と同様に近年、横ばいの傾向にあります。

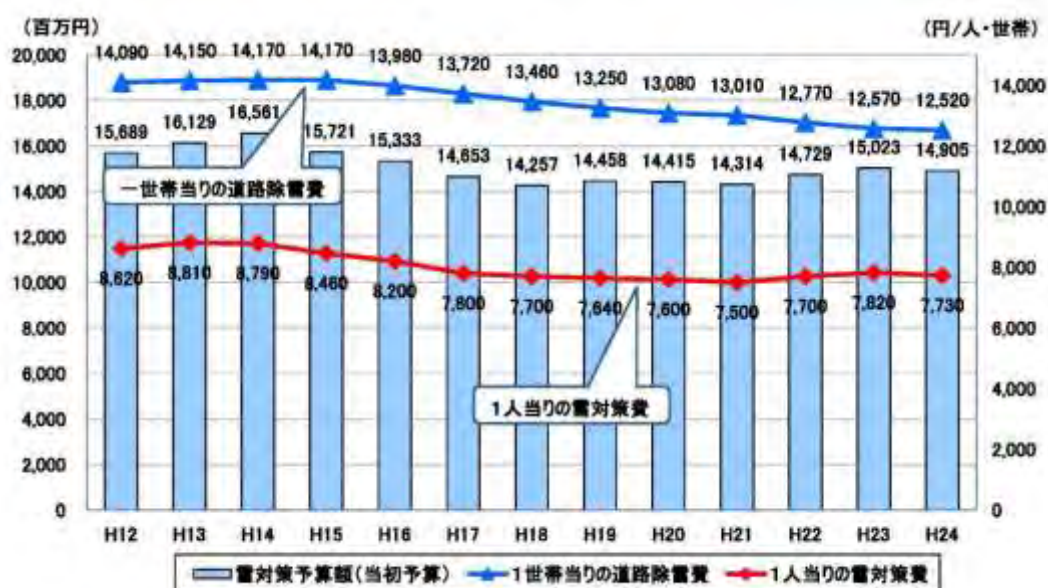
【図表 4 札幌市の雪対策当初予算（2013 年度）】



（※四捨五入等の関係で合計と各費目に差異があります。）

(出典：札幌市 HP「雪対策費実績」)

【図表 5 一世帯あたり、一人あたりの雪対策のための負担（2001 年～2012 年）】



(出典：札幌市『札幌市冬のみちづくりプラン』52 ページ)

雪が多い年にはもっと費用がかかる

例年札幌市ではたくさんの雪が降りますが、特に 2012 年度は記録的な大雪となりました。札幌管区气象台によると、2012 年度の降雪量は 628 センチメートルとなり、2011 年度を 229 センチメートルも上回りました。これは観測を始めた 1954 年以降で 5 番目に多い記録です。この結果、雪対策の費用は過去最高の 213 億 2400 万円まで膨らみ、札幌市にとって大きな負担となりました。

注) これ以降の文章の中で、「除雪」と「排雪」、「幹線道路」と「生活道路」という言葉を使いますが、それぞれの言葉の意味は、次のとおりです。

- ・「除雪」とは、雪をかき分けること
- ・「排雪」とは、道路の雪山を雪堆積（たいせき）場等に運ぶこと
- ・「幹線道路」とは、都市活動を支える道路
- ・「生活道路」とは、地域に密着した住宅街に接した道路



2.2. 札幌市の雪対策の課題

札幌市の雪対策を取り巻く環境には厳しいものがあります。現状のサービス水準を今後も続けるためには、さまざまな課題があります。ここでは、その現状について見ていきましょう。

除雪対象の道路は 5,400 キロメートル

札幌市全域に雪が降った場合に、除雪が必要となる道路の距離は約 5,400 キロメートルあります。この距離は、札幌市から石垣島を往復する距離と同じくらいになります。この距離について全市で一斉に除雪作業を行うと、一晩で除雪機械は約 1,000 台、除雪作業員は 3,000 人以上、経費は約 1 億 2 千万円が必要になります。

また、ロードヒーティングや融雪施設も高いコストがかかります。例えばロードヒーティングは、電気代で年間約 8 億円、設備の改修費はピークの年で約 30 億円にもなります。このためロードヒーティングは、急な坂道や急カーブなど、ロードヒーティングがなければ安全を保てない箇所に限って設置されています。融雪施設や流雪溝も同様の理由で新設のハードルはとても高いといえます。

【図表 6 除雪と排雪の人手と機械の違い】

排雪にかかる莫大な費用

除雪やロードヒーティングにはこれだけの費用、時間、労力がかかりますが、排雪はより大変です。生活道路の場合、除雪にはタイヤショベル 1 台に作業員 2 人で、一晩かけて 10 キロメートルの作業が可能です。しかし、排雪には、その何倍にも及ぶ機械 19 台、作業員 25 人以上必要になります（図表 6 参照）。

また、排雪の費用は除雪の 80 倍もかかります。幹線道路約 100 メートルを 1 回除雪する費用が約 3,000 円なのに対し、排雪には約 24 万円かかります。また、道路を除排雪する予算のうち、半分以上は排雪に関係する予算に充てられています。



（出典：札幌市『さっぽろ雪の絵本』

15 ページ）

【図表 7 札幌市の道路除雪・排雪(2012 年)】

除雪延長合計	{	幹線道路・通学路（札幌市が排雪）		
		1,640km	{	除雪パートナーシップ制度
		2,320km		市民助成トラック制度
		400km		排雪未実施
		1,000km		
5,360km		生活道路等	{	
		3,720km		

札幌市内の雪堆積場の確保が困難となり、郊外の堆積場が増える

排雪に関しては、排雪した雪を堆積しておく場所（雪堆積場）の確保が困難になっており、その多くが郊外に存在しているという問題もあります。札幌市から雪堆積場に運ばれる雪は、ひと冬あたり札幌ドーム×12杯分（約1,800万立方メートル）以上です。近年、多くの市民や企業が敷地内や自宅前の道路、店舗などの駐車場の雪を排雪するようになりました。加えて、市による排雪の対象となる道路も増加しています。このような要因により、気象状況にもよるものの、運ばれる雪は増加する傾向にあります。

また、一方で雪堆積場は郊外に増えています。2008年には、すべての雪堆積場のうちの45%が札幌駅から10キロメートル以上離れたところに設置されるようになりました(図表8参照)。雪堆積場の郊外化が進むと、雪を運ぶ距離が長くなり、排雪作業のコストが増加するとともに、運搬時間が長くなるために道路渋滞や大気汚染などの問題も深刻になります。

【図表 8 札幌市の雪堆積場】



(出典：札幌市『さっぽろ雪の絵本』22ページ)

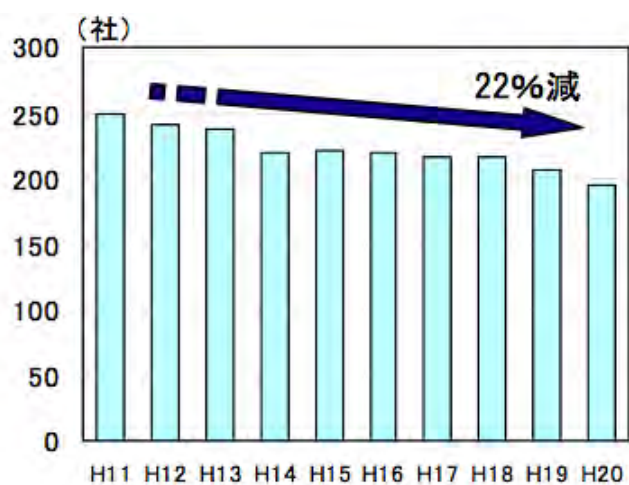
除雪従事企業の減少

除雪事業に従事する民間の建設・土木系企業は難しい状況に立たされています。これらの企業は公共事業の減少などによって収益構造が悪化し、倒産に陥る会社も出てきています。1995年度から2004年度までの札幌市の建設費の削減も進んでおり、1995年度に1,000億円程度あった予算が、2004年度には600億円を切るところまで減少しています。この影響を受けて、除雪事業に従事する企業数が減少しています。1999年には250社あった除雪従事企業が2008年には200社以下にまで減少しています。また、2008年に行われた除雪従事企業へのアンケートでは、「除雪作業に参加していくことが難しい」または「会社の存続自体も難しい」と答えた企業が4割近くにまで達しました。

除雪従事企業の倒産や収益構造の悪化は、除雪能力の低下につながっています。2002年から2011年の間に約1,000台のトラックが減少しています。

民間企業が保有する除雪機械（除雪グレーダ）の老朽化も進んでいます。2008年の時点で、民間が保有する除雪機械のうち、使用年数が21年以上経過しているものが48%となりました。これは、民間企業で新しい機械への設備投資が進んでいないことを示しています。

【図表 9 除雪従事企業数の推移】



(出典：札幌市「札幌市冬のみちづくりプラン」3 ページ)

3. 討論フォーラム「雪とわたしたちの暮らし」

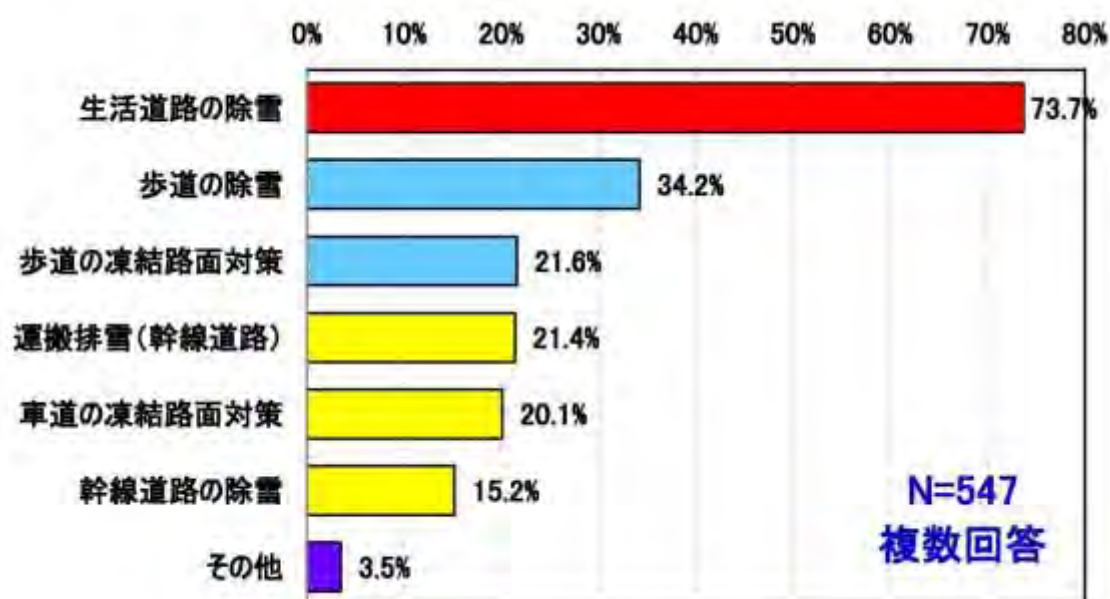
3.1. 雪対策のいま

生活道路除雪に対する根強い市民ニーズ

現在の札幌市が抱える雪の問題とは何でしょうか。札幌市が毎年実施している市政世論調査では、「除雪」がこの35年間、市政に関する要望の第1位となっています（2009年を除く）。例えば、2013年度の調査では、市政への要望で「力を入れてほしい」と思うもの（3つまで回答）の1位に「除雪に関すること」がきます（40.6%）。

その雪対策に関する市民のニーズとして最も多いのは、「生活道路の除雪」でした（図表10参照）。生活道路の雪対策の要望の内訳を示したものが図表11です。また、特に大雪となった2012年度に雪対策に関して市民から札幌市によせられた苦情・要望の数は、2011年度の数字を87.8%も上回る4万1877件となりました。苦情・要望の内訳は、「玄関・車庫前に雪を置いていく」が前年度に比べ7割増の1万3897件で最多となりました。生活道路については、「雪をかき分けるだけで間口処理しない除雪方法が不満」、「道路の両側、隣接宅と均等な除雪をしてほしい」などの声が多く寄せられました。また、車道の轍（わだち）や凸凹への対処、交差点排雪や横断歩道の除雪、融雪水処理などへの要望も数多く見られました。

【図表 10 市民が札幌市に積極的に進めてほしい雪対策（2013年度）】



（出典：札幌市「札幌市の雪対策の現状と課題」58ページ）

【図表 11 生活道路の雪対策に対する市民の要望（2009 年度）】



（出典：札幌市 2009 年度市政世論調査）

深刻化する雪堆積場の不足

一方で、札幌市が大きな問題と考えているのは、雪堆積場が不足していることや郊外になっていることです。雪堆積場には広い土地が必要であるため、札幌市内で雪堆積場に適した土地を見つけるのは難しくなっています。また、雪堆積場の近くでは排雪を行うダンプカーがたくさん通ることになるため、近隣住民が雪堆積場の設置になかなか賛成しないというのも、堆積場を増やすことが難しい要因の 1 つです。

このため、新たに開設される雪堆積場には、札幌市に隣接する石狩市、北広島市に設置しているものもあり、現在では雪堆積場の約半分が、札幌駅から 10 キロメートル以上離れた場所に設置されています。

この問題に対応するには、排雪する雪の量を減らすか、新たに雪堆積場をつくるかのどちらかしかありません。現在の札幌市における市民生活や経済活動を考えると、排雪量を減らすことは簡単ではありません。しかし、雪堆積場の有料化などによって排雪量を抑制できる可能性もあります。

新たに雪堆積場をつくる場合は、札幌市内につくるか、近隣自治体につくるかが問題になります。札幌市内には雪堆積場に適した土地がそもそも少ない上に、土地の使用料が高いという問題があります。他方で、近隣自治体に設置する場合には、雪堆積場の遠隔化が進み、雪の輸送コストがかかったり、排雪にもたくさんの時間がかかったりすることになります。

論点 1 いま何が一番問題か。生活道路の排雪なのか

市民のニーズがもっとも高い「生活道路の除雪」を代表例として議論してみましょう。「生活道路の除雪」は、実際には、「排雪」の問題を含む議論になります。論点 1 では、生活道路の排雪が一番の問題とすると、「誰がどのように行うのか」と「誰が費用を負担するのか」という 2 つのポイントを押さえる必要があります。

費用の面で見ると、除雪や排雪には大きなコストがかかることがわかります。このような費用を負担するのは、結局のところ、一人ひとりの市民です。市民の負担額が増えたとしても、札幌市（行政）が生活道路の排雪を行うべきでしょうか。また、現在、行政や行政の委託を受けた民間の除雪企業に生活道路を排雪する余力は残っているのでしょうか。データを見ると、行政の財政状況の悪化、民間除雪企業の減少など、気になることがたくさんあります。

ここでは、雪対策のなかでも市民が札幌市に積極的に進めて欲しいと考えている**生活道路の除雪**について考えてみましょう。

生活道路の除雪はどの程度行えばよいのでしょうか。すべての雪を除雪して、なおかつそれを取り除く**排雪**まで行うことが望まれているのでしょうか。それとも、車 1 台が通れるだけの除雪ができていればよいのでしょうか。

まず、生活道路の排雪は現実的に可能かという問題を議論しましょう。そのときに問題になるのは、費用負担と除雪の能力の問題です。

すでに見てきたように、排雪には、除雪と比較して多くの費用、労力、時間がかかるので、札幌市（行政）が費用をすべて負担して排雪しているのは、バス路線などの幹線道路と一部の通学路のみです。

となると、生活道路の排雪を行わないことになりますが、札幌市には次のような制度があります。生活道路の排雪には、地域と市の双方が費用を負担して、除雪事業者が作業を行う「除雪パートナーシップ制度」と、市が運転手付きのトラックを地域に無償で貸し出して、地域住民が積み込み作業を行う「市民助成トラック制度」とがあります。この 2 つの制度により、生活道路の約 3,700 キロメートルの 7 割にあたる 2,700 キロメートルが排雪され、残りの 3 割は排雪されない道路となっています。

このような仕組みを市民は十分に理解しているのでしょうか。理解しているが、それでも生活道路の除雪・排雪を札幌市に求めるということなのか、そのような原則を知らずに、生活道路の除雪・排雪を求めるということでは大きな違いがあります。

もう 1 つの論点は、生活道路まで札幌市が排雪するとしたら、その費用は膨大になりますが、誰が負担するのかという点です。さらに、仮に費用はまかなわれたとしても、それを具体的にを行うだけの排雪能力があるのかという問題です。

費用の点では、住民が負担するとしたら、民間企業に直接委託して排雪を実施するほうが安上がりになるという意見があります。現実には、運搬排雪をシーズンで企業と契約している個人も増加しているようです。

もし、札幌市（行政）が実施することになれば、除雪事業費を増額し、生活道路の排雪を市が行うことになるでしょう。おそらく札幌市内の生活道路すべてを 1 回運搬排雪するだけで、

30 億円～40 億円の増加になるのではないのでしょうか。その場合、除雪事業費の増額については、除雪税のような「新税」を設けたり、札幌市の予算の組み替えて他の行政サービスの水準を下げ除雪に回したりするということになります。

次に、そのような除雪・排雪能力はあるのかという点が問題になります。すでに見てきたように、現状でも、除雪・排雪の能力には限界があります。これ以上に増やすことはできるのでしょうか。

それだけではありません。除雪した雪を運んで堆積する場所、すなわち雪堆積場の問題が大きく関係してきます。

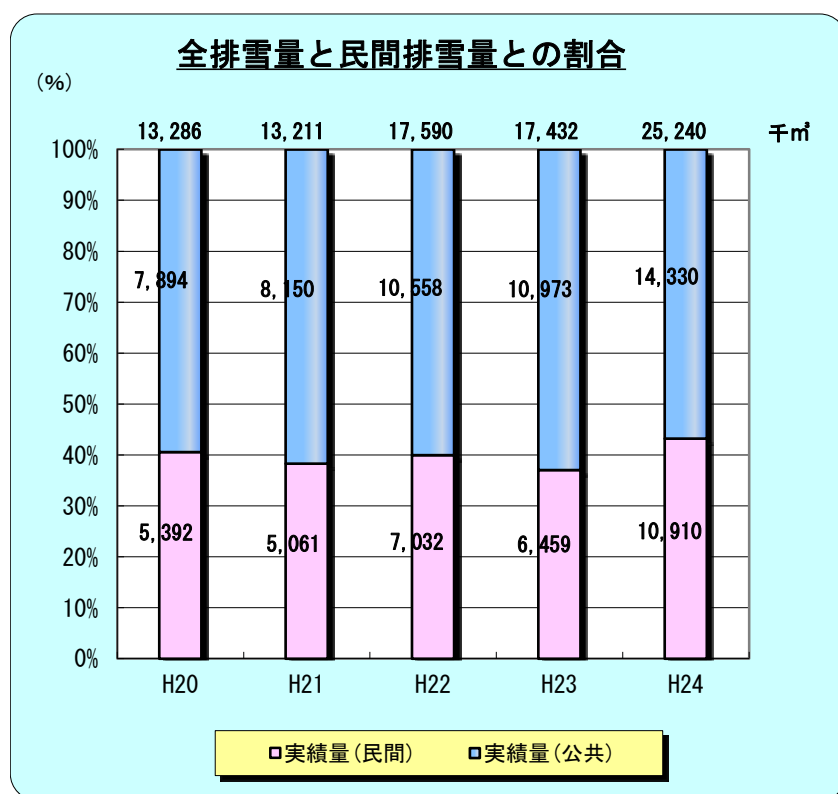
論点 2 雪堆積場を増設すべきか

論点 2 を考える際には、「あとどれくらいの雪堆積場が必要なのか」、「増設が難しい雪堆積場をどのように増やしていくのか」という 2 つのポイントを押さえる必要があります。

1 つ目の「あとどれくらいの雪堆積場が必要なのか」に関しては、札幌市は、近年、雪堆積場の増設に継続して取り組んでいます。2013 年度は新たに 3 か所の雪堆積場を確保し、69 か所から 72 か所になりました。しかし、多くの市民が、民間企業と契約し敷地内や自宅前の道路を排雪するようになっていくことから、今後、雪堆積場に運ばれる雪の量は増加する可能性があります。また、論点 1 での議論で、仮にすべての生活道路の排雪を行うことになった場合にも、雪堆積場に運ばれる雪の量は増加することになります。

このような状況を踏まえると、果たして、札幌市にはあとどれくらいの雪堆積場が必要なのでしょうか。これには「生活が多少不便になっても排雪する雪の量を減らすことで、既存の雪堆積場の容量の範囲内で対応する」という考え方もあります。有料化も 1 つの方法かもしれません。この考え方を支持する場合は、どれくらいの不便なら我

【図表 12 雪排雪量の変化】



(出典:『札幌市の雪対策事業について』(記者懇談会資料) 15 ページ)

慢ができるのかという点を明確にする必要があります。

あとどれくらいの雪堆積場が必要なのかということがはっきりしても、次に2つ目の「増設が難しい雪堆積場をどうやってどのように増やしていくのか」という問題が残っています。雪堆積場をどこに作ればよいのでしょうか。

雪堆積場は大きな面積が必要であることに加え、雪を積んだダンプカーが雪堆積場の近隣を行き交うことになるため、人口密度が高く土地利用が難しい札幌市中心部につくることは容易ではありません。

しかし、中心部から離れたところに作る場合は、排雪用ダンプカーの移動距離が長くなることによる費用や環境負荷の上昇という問題が発生します。近隣自治体に雪堆積場を増設する場合には、近隣自治体との調整が必要となるため、これもまた容易な方法ではありません。また、雪堆積場確保には、市内に点在している休耕地・離農地を活用できないのかという意見もあります。このような問題を念頭においた上で、それでも雪堆積場を増設すべきかを考えてください。

3.2. 札幌市の雪対策のこれから

雪の問題を、生活道路の問題から議論し始めましたが、今後の雪の問題を、「市民が積極的に雪対策に関与すべき」という観点と、「行政が責任を持って雪対策を行うべき」という観点の、2つの極端な視点から考えてみましょう。現実には、2つの立場は混在して、明確に線が引かれるわけではありませんが、それぞれの考え方には違いがあります。市全体のこれからの雪のプランを考えるときに、「市民も当事者意識をもって考えるべき」か、それとも「行政が責任をもってプランを作るべき」かが判断すべきことの1つです。もう1つは、実際の除雪・排雪作業について、「市民の役割をできるだけ少なくする」か、「市民の役割がもっと大きくなってよい」ということです。

それぞれ、前者の立場であっても、後者の立場であっても、市民の役割には大きいものがあるのです。このようなことを念頭に置いて、今後の雪の対策を考えてみましょう。

第一の観点：市民が積極的に雪対策に関与すべき

まず、雪の問題は市民が解決することから始まるという視点を考えてみましょう。市民でできることは市民が行い、それでもまかないきれないことを行政が行うという自治の主張があります。雪の問題にこの考え方を当てはめてみましょう。

自分の敷地内のことは自分で処理するということでは、それほど意見は分かれなないでしょう。では、敷地に隣接する歩道の除雪は誰が行うのでしょうか。アメリカなどで行われているように、地主や土地利用者に義務化するということはありうるのでしょうか。

さらに、生活道路の除雪は住民の役割でしょうか。すでに、生活道路の除雪問題は論じてきましたが、このような文脈で考えると、個人から出発する視点には大きな問題があるということがわかります。もっと進めて、幹線道路の除雪はどうでしょうか。そこまでくると、市民には手に負えないということになるでしょう。また、個人や世帯の活動を合計すれば、全体になるわけではないという問題があります。どこか抜け落ちてしまう部分が出てきます。

この観点であっても、道路、河川、公園などの公共的な場所や施設の管理は、行政が行うことになります。市民は、選挙を通じて議会の議員や市長を選び、その代表が決定したことを行政が実施していることになります。つまり、行政と市民とはまったく無関係ではないのです。

第二の観点：雪対策は行政が責任をもって対処すべき

雪の問題を考えるときには専門的・技術的なことが多いので、まずは、行政が計画を作り、その中で市民の役割を位置づけるという立場もあります。全体像から把握しないと個々の問題も解けないということとも関連します。また、個人や世帯の活動で抜け落ちる部分を誰が責任をもって解決するのかを考えるべきだという立場から見れば、行政が責任をもって対処するほうが確実であるとも考えられます。まずは幹線道路から取り組み、主要な施設の除雪・排雪を市の能力の範囲内で行うという考え方です。ただし、優先順位をつけるという考え方からいえば、生活道路の排雪は最初には来ないことになるでしょう。

もちろん、この考え方でも、行政が責任をもって対処すべきということと、市民の参加や協力が重要だということとは矛盾するものではありません。行政のプランの中に市民の役割をき

ちゃんと位置づける必要があります。

論点 3 札幌市は今後もっと雪対策に取り組むべきなのか。取り組むとすれば何を行うべきか

論点 3 を考える際には、「市民の費用負担を増やすとしても、札幌市は現在の水準よりも雪対策を充実させるべきか」、「もし充実させるとすれば、具体的に何をやるべきか」という 2 つのポイントを押さえる必要があります。

市民の雪対策に対する要望は根強く存在します。現在の水準よりも対策の範囲を拡大させ、これまで十分な除雪が行われてこなかったところまで除雪や排雪を行ったり（範囲の拡大）、除雪や排雪の回数を増やしたりする（頻度の増加）という考え方があります。また、ロードヒーティングや融雪設備の増強という対応も考えられるでしょう。このような対策を行った場合、追加の費用負担が発生します。このような費用を市民が負ったとしても、今後もっと雪対策に取り組むべきだと思いますか。また、具体的に何を行うべき雪対策は何でしょうか。

雪への向き合い方を考えた場合に、対策を充実させて雪を抑えこむという方法のほかに、雪に合わせて生活の仕方を変えて対応していく方法もあります。例えば、通勤や通学の時間を変えたり、移動手段を車から公共交通機関にしたりすることが考えられるでしょう。また、自宅学習や自宅勤務の時間を増やして、そもそもの移動の機会を減らすということも考えられるかもしれません。また、冬の期間は仕事の時間を減らして、地域の人々と協力をして雪かきする時間を増やすという可能性も検討されてもよいかもしれません。

論点 4 市民の役割は何か。例えば、歩道の除雪を市民の義務にすべきか。今後の超高齢化社会での雪対策という問題をどう解決すべきか

札幌市の雪対策には、市民がもっと関与すべきという意見もあります。市民ができることといっても、自分の家の敷地内の雪を解決すれば、どうにかなるという問題ではないのが、札幌市の雪の問題の難しいところです。雪とゴミは似ているところがありますが、大きく違う点もあります。ゴミは自分の努力で少なくすることもできますが、雪は自然に降ってきます。自宅の敷地内や間口の雪かきだけでも大変なのに、それ以上の関与は無理という意見は当然あるでしょう。

図表 13 は、市民が守ること、協力すること、取り組むことについて整理した一覧表です。この中にはありませんが、アメリカなどで市民の義務になっている、自宅に隣接する歩道の除雪を例に考えてみましょう。生活道路の排雪も住民が行うことに含まれるのだとすれば、当然、歩道の除雪は住民の義務になってもおかしくないはずです。除雪車が通れる 2 メートル以上の歩道とそれより幅の狭い歩道は区別しないといけませんが、原則を考えてみましょう。

【図表 13 雪に関する市民のルール・マナー一覧】

ルール・マナー	内容	根拠法令・条例
守 る こ と	敷地内から道路へ雪出しをしない	道路法第 43 条
		道路交通法第 76 条
		道路交通法施行細則第 19 条
	路上駐車をしない	自動車の保管場所の確保等に関する法律
		札幌市における良好な交通環境を確保するための違法駐車等の防止等に関する条例第 12 条
	作業の支障となる物(歩車道の段差解消ブロックなど)を道路に置かない	道路法第 43 条
		道路交通法第 76 条
	河川に投雪をしない	河川法施行令第 16 条
	マンホールや雨水桝に投雪をしない	下水道法第 16 条
	バスレーン(専用・優先)において通行帯違反、駐停車違反をしない	道路交通法第 20 条
協力すること	氷雪の落下による危害を防止するため屋根に雪止めを設置する	札幌市建築基準法施行条例第 12 条
	スパイクタイヤを装着しない	スパイクタイヤ粉じんの発生に関する法律第 7 条
	玄関・車庫前などの間口の雪処理	
	ごみは収集日の朝に出す	
	作業中の除雪車に近づかない	
	深夜・早朝の除雪作業への理解	
	冬の交通安全市民総ぐるみ運動の参加	
取り組むこと	砂まき活動	
	地域の高齢者や障害のある方への除雪支援	
	敷地内での雪処理(融雪槽の設置や雪置き場の確保など)	
	春先の雪割りと清掃	
	マイカーから公共交通機関への転換	
	冬期の運転マナーの励行	
	冬の自転車利用の自粛	

(出典：札幌市 HP を参照して慶應義塾大学 DP 研究センターが作成)

雪対策の中には、行政が行うほうが効率のよいものもあれば、そうではないものもあります。例えば、道幅が広い大きな道路の除雪や排雪は、行政がたくさんの除雪機やダンプカーを使いながら行うほうが効率的でしょう。しかし、住宅地に隣接した狭い道幅の歩道の除雪を行政が効率的に行うことは難しいでしょう。行政が行うよりも、その歩道の近くに住む人が除雪をしたほうがお金もかからず、時間も早く終る可能性があります。

このように考えると、今後の札幌市の雪対策は、市民一人ひとりができることはできるだけ市民で対応し、市民ができないことは地域で対応し、市民でも地域でも対応できないことのみを行政が対応していくという考え方で進めていくのがよいかもしれません。

一方で、「市民ができることは市民で」、「地域ができることは地域で」では、うまくいかない可能性もあります。例えば、札幌市が市民に対して「自分の家の前の歩道を除雪する」ことを義務付けたとして、その場合、住宅に面している歩道は、すべて市民によって除雪されるこ

とになります。しかし、現実には、ゴミステーションや町内会館などの施設、あるいは高齢者や障害を持った人の家の前の除雪は難しい問題です。今までも、歩道の除雪などは、自発的に地域で解決したところも多いので、あえて義務化する必要はないという意見もあります。むしろ、高齢者などの除雪をサポートすることをどのようにするのかという別の課題のほうが大きいという意見もあります。

個人や世帯が行って来て、それでもまかなえないことを地域がカバーするということは、今までに議論されてきましたし、工夫もなされてきました。そのような地域・コミュニティの解決の方向性を探ることは重要なことの1つです。

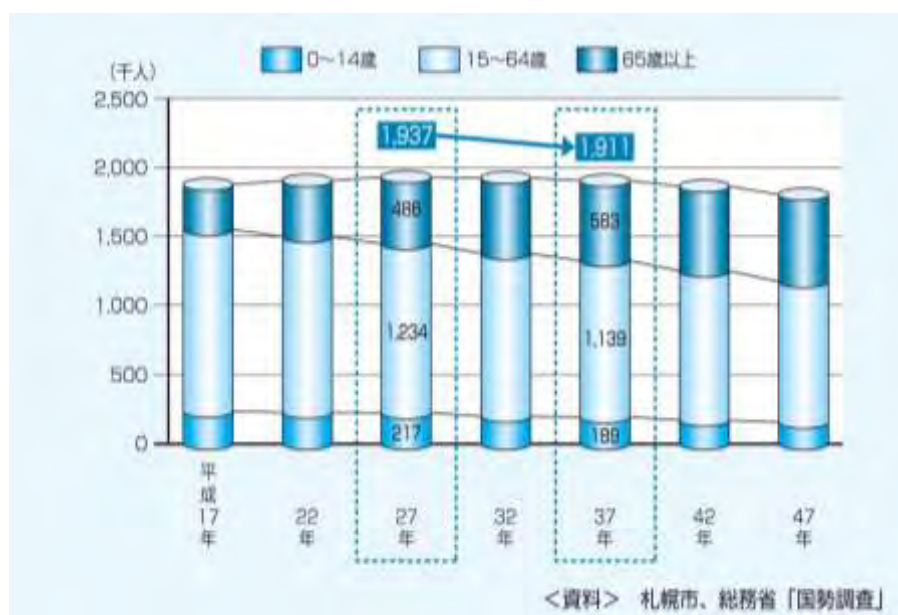
しかし、札幌市の高齢化率は、今後も高くなっていきます（図表 14 参照）。例えば、札幌市のある地域で、間口の雪処理ができない世帯が半分以上になったとき、間口の雪処理は世帯の義務であるといくら行政がいても、それができない高齢者に対して、どうすればよいのでしょうか。高齢者が多くて間口の雪処理ができない地域では、「共助」のシステムも難しくなります。札幌市のような都市部ではコミュニティの人間関係が希薄な地区が多いので、このような「共助」を前提にするシステムはさらに深刻になるでしょう。札幌市には福祉除雪の制度もありますが、それを支えるボランティア（地域協力員）の数はまだ足りていない状態です。

すでに見てきたように「除雪車の除雪作業によって間口に残される雪処理」は大きな問題ですし、ルールに違反して道路へ雪出しをする人も少なからず見られます。違反者には罰則を強化した方がよいとい

う意見や除雪時の路上駐車はレッカー移動すべきだという意見もありますが、実行するのは簡単ではありません。

これらの雪対策については、ルール・マナーのレベルではなく、もっと進めて、条例として明確にしたほうがよいという意見もあります。高齢化が進む中で、今後の雪対策という難しい問題を直ちに考えなければなりません。

【図表 14 札幌市の人口の将来見通し】



（出典：『札幌市まちづくり戦略ビジョン』（2013年）9ページ）

3.3. まとめ：「雪とわたしたちの暮らし」の選択肢

札幌市のいま

論点 1 生活道路の除雪・排雪が一番の問題か

選択肢 a. 生活道路の排雪を札幌市が行う（すべての生活道路の除雪と排雪）

- 反論
- ・費用負担は誰がするのか
 - ・それをするだけの除雪・排雪の能力が事業者にあるのか

選択肢 b. 市民が自己負担で除雪業者を使うことで解決する

- 反論
- ・経済的に余裕がある市民しか排雪はできない
 - ・排雪した雪を堆積する場所が足りなくなる

選択肢 c. 現状を維持する（車 1 台通れるだけの道幅の確保）

- 反論
- ・生活道路の排雪は世論調査で一番多い要望である
 - ・間口処理の苦情は多い

論点 2 雪堆積場を増設すべきか

選択肢 a. 雪堆積場を増設すべき

- 反論
- ・場所の確保が難しい
 - ・雪堆積場を作る際の近隣住民の説得が難しい

選択肢 b. 排雪を少なくする、排雪を自制する、排雪を有料化する

- 反論
- ・今でも困っているのに、排雪は少なくできない
 - ・負担増（有料化）は受け入れられない

札幌市のこれから

論点 3 札幌市は今後もっと雪対策に取り組むべきなのか。

取り組むとすれば何を行うべきか

選択肢 a. 市民の負担を増やしてでも

札幌市は現在の水準よりも雪対策を充実させる（雪対策の範囲・頻度の拡大）

- 反論
- ・負担の増加には反対
 - ・具体的な雪対策の優先順位がついていない
 - ・今後の予測が十分ではない

選択肢 b. 費用負担を減らして、雪対策を縮小させる

- 反論
- ・現状でも不満が多いのに、縮小ではもっと不満が出てくる
 - ・今後、雪対策の需要は多くなる

選択肢 c. 拡大路線ではなく、雪に合わせてライフスタイルを変える

- 反論
- ・ライフスタイルの改善だけでは、問題は解決しない
 - ・現状の経済活動を維持できない

論点 4 市民の役割は何か。例えば、歩道の除雪を市民の義務にすべきか。

今後の超高齢化社会での雪対策という問題をどう解決すべきか

選択肢 a. 歩道の除雪を市民の義務とすべき

- 反論
- ・すでに地域で自発的に歩道は除雪されている
 - ・高齢者など除雪できない市民もいる

選択肢 b. 今後の超高齢化社会での雪対策こそ重要

- 反論
- ・福祉除雪の制度がある
 - ・地域ですでにカバーし合っている

選択肢 c. 現状でも市民はできることを行っているので新しいことは必要がない

- 反論
- ・現状は市民の関与が少ない
 - ・市民が関与すべき分野がもっとある

4. 巻末資料

【資料1 除雪パートナーシップ制度】

除雪パートナーシップ制度は、地域住民の皆さん・除雪業者・札幌市の3者がそれぞれの役割を分担し、連携協力しながら住宅街の道路（生活道路）の運搬排雪を実施して、冬季間の生活環境を向上させることを目的としています。

「除雪パートナーシップ制度」による費用の役割分担

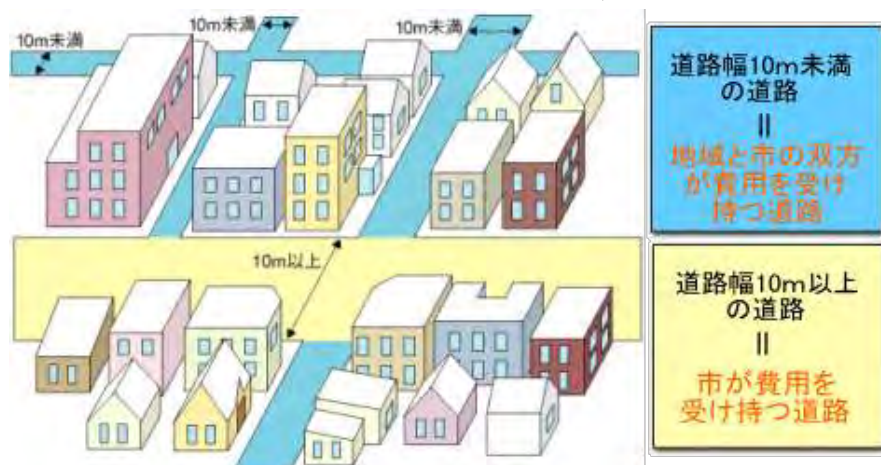
道路幅 10m 未満の道路は地域と市の双方が費用を受け持つため、地域支払額が発生します。

道路幅 10m 以上の道路は、札幌市が費用を受け持ちます。

ただし、申請が道路幅 10m 以上の道路のみの場合は、地域と市の双方が費用を受け持つこととし、地域支払額が発生します。

「市民助成トラック制度」との重複利用はできません。

※平成 25 年度の 1km 当りの地域支払額は 431,100 円です。



（出典： <http://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/jigyoun/partner.html> ）

【資料2 市民助成トラック制度】

町内会などで道路の排雪を行う場合、年1回無料で運搬用トラックを貸し出して、町内会等の排雪作業を支援することを目的としています。

注意事項とお願い

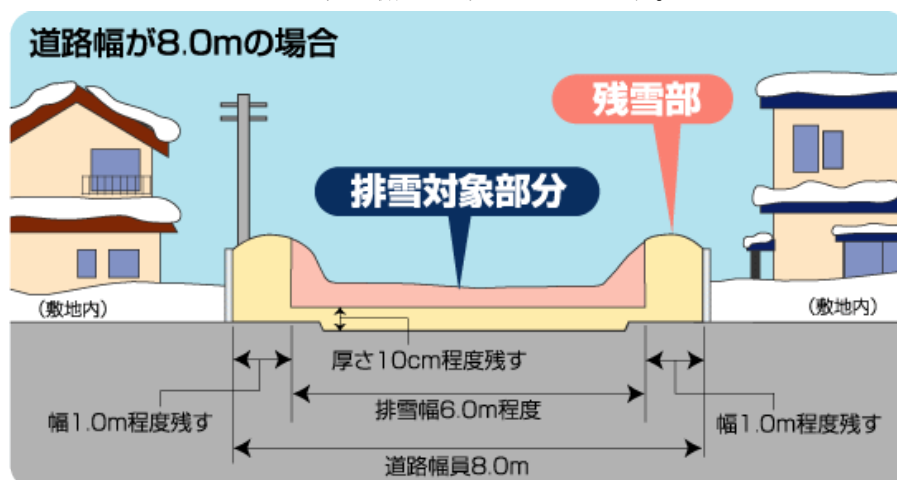
トラックへの積み込み作業と走行上支障にならないような路面整正作業については、皆さんで行なっていただきます。

除雪パートナーシップ制度との重複利用はできません。

道路の雪の排雪を行うもので、個人や企業が処理すべき宅地内・屋根・駐車場などから出さ

れる雪は対象となりません。自宅敷地内の雪を道路へ出さないようお願いします。

平成 21 年度から、市民助成トラック制度でも、除雪パートナーシップ制度と同様の排雪幅にて施工していただくようご協力お願いしています。



(出典 : <http://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/jigyuu/track.html>)

【資料 3 福祉除雪サービスの概要（2013 年度）】

● 対象となる世帯

道路に面している一戸建ての住宅に住み、約 500m 以内に除雪を援助できる子ども又は子どもの配偶者が居住していない世帯で、以下のいずれかに該当し、自力で除雪することが困難と認められる世帯です。ただし、二世帯住宅等で間口を共有している場合は、それらをひとつの世帯とみなします。

- (1) 70 歳以上の方だけで構成されている世帯
- (2) 重度（1、2 級）の身体障がいのある方だけで構成されている世帯
- (3) 70 歳以上の方と重度の身体障がいのある方だけで構成されている世帯
- (4) 区社会福祉協議会が特に認めた世帯

● 除雪の内容

(1) 除雪する場所

間口部分（道路に面した出入口部分）は概ね幅 1.5m、敷地内については間口から玄関先までの通路部分で歩行に支障がない程度（概ね 80cm）に除雪します。

間口部分の除雪は 1 箇所のみとし、車庫及びロードヒーティング使用部分は除きます。また、排雪は行いません。

(2) 除雪する日時

道路除雪が行われた日に実施し、実施時間はその日の正午頃までとし、利用者からは時間の指定はできません。

なお、大雪等やむを得ない場合には、実施が遅れることがあります。

(3) 除雪回数

除雪の実施は1日1回とします。

(4) 除雪を実施する期間

平成25年12月1日（日曜日）～平成26年3月25日（火曜日）

● 利用者負担金

世帯の課税状況区分により一冬あたりの利用者負担金がかかります。

- ・ 市民税非課税世帯・・・・・・・・5,000 円（世帯全員に市民税がかかっていない世帯）
- ・ 市民税課税世帯・・・・・・・・10,000 円
- ・ 生活保護世帯・・・・・・・・無 料

● 協力員活動費

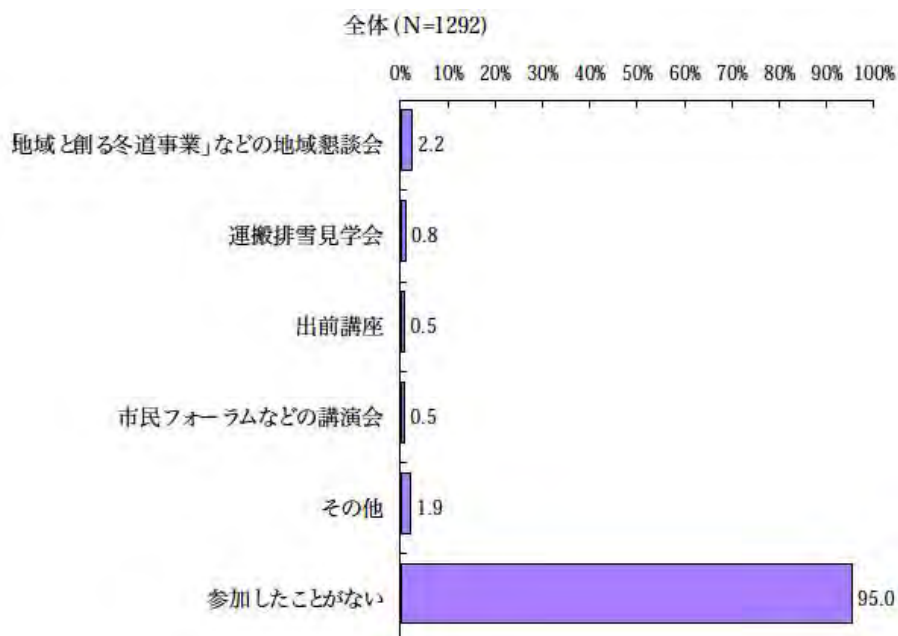
地域協力員の方には一冬一世帯あたり2万1000円の活動費を支給します。

（出典：札幌市 HP「福祉除雪」から作成）

【資料4 雪対策に関する市民参加の現状】

札幌市は市民を対象にした雪対策に関する説明会や講演会などを開催しています。しかし、これらの機会に参加したことがある市民は非常に少なく、「参加したことがない」という市民が95%となっています。

【図表 15 雪対策に関する説明会等に参加したことがあるか】



（出典：札幌市 2009 年度市政世論調査）

【資料 5 地域と創る冬みち事業】

札幌市が行っている「地域と創る冬みち事業」は、地域の方に懇談会を通して札幌市の除排雪の現状を知ってもらったり、行政が地域の方が雪について困っていることを理解したりする機会をつくることを目的に、2005 年に開始されました。

この事業を通じて、地域の方と札幌市が理解しあったうえで、地域における除排雪の課題について、地域住民・除雪事業者・行政が話し合い、雪に関するさまざまな課題を解決していこうとしています。

話し合いの中から生まれた実現可能なアイデアは出来るところから実行し、現在の予算の範囲のなかで、地域のニーズや状況に応じた除排雪を地域住民・除雪事業者・行政の役割分担の下に協力し合って雪対策を進めることを目指しています。2012 年度は、札幌市の 431 町内会で市民懇談会が開催されました。

5. 参考文献

〈雪とわたしたちの暮らしについて〉

- ・ 札幌市のホームページ
- ・ 札幌市『札幌市冬のみちづくりプラン』（平成 21 年 11 月）
- ・ 札幌市建設局『さっぽろの雪処理施設』
- ・ 札幌市建設局管理部雪対策室計画課『さっぽろ雪の絵本』
- ・ 札幌市建設局土木部雪対策室計画課『パパは雪だるま！』
- ・ 札幌市建設局土木部雪対策室「札幌市の雪対策事業について」（記者懇談会資料）（平成 25 年 12 月）

〈討論型世論調査について〉

- ・ J・フィッシュキン『人々の声が響き合うとき 熟議空間と民主主義』（早川書房、2011 年）
- ・ 曾根泰教・柳瀬昇他『「学ぶ、考える、話しあう」討論型世論調査』（ソトコト新書、2013 年）
- ・ <http://keiodp.sfc.keio.ac.jp/>
- ・ <http://www.city.sapporo.jp/somu/shiminnokoe/dp/index.html>

KeioDP
The Center for Deliberative Poll

討論フォーラム参加のしおり

札幌市・慶應義塾大学DP研究センター共同プロジェクト
討論フォーラム「雪とわたしたちの暮らし」
— 参加のしおり —



- ❧ 平成26(2014)年3月15日(土)、札幌市男女共同参画センターを会場に市民約200人が一堂に会し、札幌市の今後の雪対策について考える討論フォーラム「雪とわたしたちの暮らし」を開催します。
- ❧ このしおりは、討論フォーラムにご参加いただく皆さまに、当日のスケジュールや会場のご案内、事前にご用意いただくものなど、必要となる情報をまとめたものです。
- ❧ この資料に関してご不明な点などがございましたら、お気軽にお問い合わせください。



【お問い合わせ先】

札幌市市長政策室広報部市民の声を聞く課
札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎1階
電話番号:011-211-2045(直通)
(電話受付時間:平日8:45~17:15)

討論フォーラムへ参加される皆さまへ

札幌市と慶應義塾大学DP研究センターは、「雪とわたしたちの暮らし」をテーマとして、市民の皆さまに除雪水準や費用負担の問題などについて幅広くお聞きし、今後の雪対策の参考とさせていただくため、1月中旬より、郵送による世論調査を実施いたしました。

このたびは、この世論調査にご協力いただき、また、3月15日（土）に実施いたします討論フォーラムへのご参加も表明いただきまして、誠にありがとうございます。

当日ご参加いただく皆さまは、雪対策の専門家である必要はありません。普通の市民感覚でお話しいただくことが大切です。何もご心配なさらず、個人として、討論フォーラムにご来場いただければ幸いです。

また、事前に同封する「討論資料」をぜひご一読なさってからご来場ください。札幌市が抱える雪対策の問題に対して、理解を深めていただいた上で、当日討論フォーラムに参加していただくことで、充実した議論が展開されることを願っております。

なお、この討論資料は、参加者の皆さまにのみお配りしておりますので、情報の取り扱いにはご留意をいただけますと幸いです。何卒ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

当日の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

平成26（2014）年 3 月

札幌市・慶應義塾大学DP研究センター共同プロジェクト

「雪とわたしたちの暮らし」討論型世論調査

プロジェクト代表 曾根 泰教

（慶應義塾大学大学院教授）

目次



- ❧ 1. 討論フォーラムの日時・会場
- ❧ 2. 討論フォーラムのスケジュール
- ❧ 3. 謝礼のお支払について
- ❧ 4. 討論型世論調査の実施体制
- ❧ 5. Q&A

1. 討論フォーラムの日時・会場

日 時：平成26(2014)年3月15日(土) 9:00～18:30

当日は、9時から9時30分までの間に、3階の討論フォーラム受付へお越しください。

会 場：札幌市男女共同参画センター
(札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ3階)

JR札幌駅北口より徒歩5分、北口地下歩道12番出口



会場は、バリアフリー構造となっています。エスカレータまたはエレベータで、3階の受付まで、お越しください。

駐車場の用意はありませんので、公共交通機関でお越しください。

休憩時間には、1階の情報センターや2階の札幌市環境プラザなどもご利用いただけます。

当日の緊急連絡先：090-7514-9732
(※ 3月15日(土)のみ使用できます。)

補足事項



託児サービスについて

- ❧ 事前に託児サービス(無料)のご利用をお申し出いただいた方は、当日、受付でお伝えください。

昼食 (アレルギー) について

- ❧ 昼食にはお弁当を用意しておりますが、食物アレルギーのある方は、ご持参ください。また、お子さまなど同伴の方の昼食もご持参ください。

謝礼のお支払について

- ❧ 討論フォーラムに最後までご参加いただいた方には、謝礼として、8,000円を贈呈いたします。

2. 討論フォーラムのスケジュール

- ❧ 会場内の移動は、すべてスタッフがご案内します。
- ❧ 適宜、休憩をはさみます。時間に余裕をもって計画しておりますので、ご安心ください。

9:00～9:30	受 付	3階の受付で、参加証・口座振込申出書をお渡しください。当日の資料をお渡しします。
9:30～10:00	全体説明会 (討論前アンケート)	3階のホールで、今回の討論型世論調査についてご説明します。その後、討論前アンケートにご回答いただきます。
10:10～11:40	小グループ討論① 「雪対策のいま」	15人程度の小グループに分かれて、モデレータの進行の下で、参加者同士で話し合いをし、専門家へ尋ねたい質問をまとめます。
11:40～12:40	昼 食	お茶とお弁当をご用意します。小グループ討論の会場で、お召し上がりください。
12:50～14:20	全体会議① 「雪対策のいま」	3階のホールで、小グループ討論①で出てきた質問について、専門家が回答します。
14:30～16:00	小グループ討論② 「雪対策のこれから」	小グループ討論①と同様に、話し合いを行い、質問をまとめます。
16:20～17:50	全体会議② 「雪対策のこれから」	3階のホールで、小グループ討論②で出てきた質問について、専門家が回答します。
18:00～18:30	全体説明会 (討論後アンケート)	3階のホールで、討論後アンケートにご回答いただきます。最後に、閉会の挨拶をします。
18:30(予定)	解 散	

3. 謝礼のお支払について

- ❧ 討論フォーラムに最後までご参加いただいた方には、8,000円の謝礼を贈呈いたします。
- ❧ 支払方法は、後日、銀行振り込みとさせていただきます。
- ❧ 同封の「口座振込申出書」について、下の記入例の赤字で記されている部分をご記入いただき、**署名捺印の上**、当日、受付にお持ちください。
- ❧ 謝礼は、ご指定いただいた銀行口座に、4月末までに、札幌市役所よりお振り込みいたします。

「口座振込申出書」の記入例

署名捺印を忘れず
お願いいたします。

口座振込申出書	
札幌市長様	
平成 26年 3月 15日	
住所	〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
氏名	札幌 太郎 ㊟
電話	211-2045
「雪とわたしたちの暮らし」(討論型世論調査)討論フォーラムへの参加に係る謝礼金については、下記の口座に振込をお願いします。	
記	
フリガナ 口座名義	(サッポロ タロウ 札幌 太郎)
金融機関名	(札幌市役所) (銀行・信組・信金 農協・その他) (大通) (支店 本店)
口座種別・番号	(普通 当座) 1 2 3 4 5 6 7

口座番号に誤りがない
ことをご確認ください。

4. 討論型世論調査の実施体制

プロジェクト代表

事業の実行責任者として、全体統括を行います。

曾根 泰教 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授
(慶應義塾大学DP(討論型世論調査)研究センター研究代表)

企画・運営

討論型世論調査の企画・運営を行います。

慶應義塾大学DP(討論型世論調査)研究センター

全体監修

アンケート調査票及び討論資料に関して、手法についての専門的見地から意見を提供するとともに、小グループ討論のモデレータ(司会)を研修します。併せて、今回の事業全体を通じて、公式の討論型世論調査の手法に従って実行されているかどうかを監修します。

ジェームズ・S・フィッシュキン スタンフォード大学コミュニケーション学部教授
(スタンフォード大学DD研究センター所長)
アリス・シュー スタンフォード大学DD研究センター副所長

アドバイザー委員

アンケート調査票及び討論資料に関して、テーマについての専門的見地から、意見や助言を提供します。また、討論フォーラム(全体会議)のパネリストも兼務します。

赤城 由紀	札幌国際大学人文学部准教授
内田 和男	北海道武蔵女子短期大学学長
小山 茂	札幌大学地域共創学群教授
杉岡 直人	北星学園大学社会福祉学部教授
乳井 文夫	札幌市除雪事業協会会長
萩原 亨	北海道大学大学院工学研究院教授
原 文宏	北海道開発技術センター理事

(五十音順)

※ 討論フォーラムのパネリストのプロフィールは、当日にご案内します。

5. Q&A

Q1. 討論フォーラムでは、何をするのですか。

A はじめに、「雪とわたしたちの暮らし」についての皆さまのお考えをアンケートでお尋ねします。その後、15人程度の小グループに分かれて、お話し合いいただきます(小グループ討論)。この小グループ討論で出てきた疑問点などを、参加者が一堂に会して、専門家に対してご質問いただきます(全体会議)。この小グループ討論と全体会議を2回繰り返します。最後に、再び、皆さまのお考えをアンケートでお尋ねします。

Q2. 討論フォーラムは、いつ行うのですか。

A 平成26(2014)年3月15日(土)の9:00～18:30に開催します。なお、受付を9:00～9:30の間に済ませてください。

Q3. 討論フォーラムは、どこで行うのですか。

A 会場は、札幌市男女共同参画センターです。JR札幌駅北口より徒歩5分の場所にあります。札幌駅の地下からは、地上に出ることなく北口地下歩道で12番出口から直通です。札幌市消費者センター、札幌市市民活動サポートセンター、札幌市環境プラザなどと同じ建物(札幌エルプラザ)です。

Q4. 札幌市における雪対策の問題について、詳しい知識を持っていないので、不安です。また、「議論」や「討論」と聞くと難しそうな気がします。

A ご安心ください。雪対策についての情報を整理した「討論資料」を同封しましたので、それをお読みいただければ、それ以外に特別な知識は必要ありません。また、「議論」や「討論」といっても、日ごろ、皆さまがお考えになっていることや実感などをお話しいただければ大丈夫です。

Q5. どのような人が参加するのですか。

A 札幌市在住の18歳以上の3,000人の方を無作為で選び、通常の世論調査を実施しました。この世論調査の回答者のうち、討論フォーラムに参加してもよいとお答えいただいた約200人の方々が参加します。なお、今回は希望者多数であったため、抽選で選ばせていただきました。

Q6. 初めて会う知らない人と議論をする自信がありません。

A 十分に訓練されたモデレータ(司会者)が、各小グループに1人ずつ付き、参加者全員が話しやすい雰囲気を作るよう努力します。15人程度の小さなグループですので、和やかにお話いただけます。

Q7. 討論フォーラムは公開されますか。多くの人が見ている中で発言をする自信がありません。

A 討論フォーラムは、原則として非公開です。小グループ討論や全体会議の会場には、事前に登録し許可されたごく少数の見学者(研究者や行政関係者など)がいることがありますが、参加者の邪魔にならないように注意させます。もし差し支えるようであれば、当日、運営スタッフにお伝えください。

Q8. 途中参加や早退はできますか。

A 途中参加や早退はできません。調査の都合上、朝に実施する最初のアンケート調査から、夕方に実施する最後のアンケート調査まで、すべてにご参加いただくようお願いします(お手洗いなどによる一時的な退出は問題ありません)。

Q9. 参加するために費用はかかりますか。謝礼はいつもらえるのですか。

A 費用は一切かかりません(会場までの交通費は自己負担となります)。また、討論フォーラムの最後までご協力いただいた方には、8,000円の謝礼を贈呈いたします。謝礼は遅くとも4月末までにご指定の口座に振り込みさせていただきます。

Q10. 昼食は用意した方がいいですか。

A お茶とお弁当をご用意しますので、必要ありません。ただし、食物アレルギーなどで食事に制限のある方は、ご持参ください。また、託児施設を利用されるお子さまなど、同伴の方の昼食も、ご持参ください。

Q11. 服装は自由ですか。

A 皆さまにリラックスして参加していただくため、服装は自由となっています。討論フォーラムの会場の空調管理には注意しますが、念のため、体温調整のしやすい服装でお越しください。

Q12. 配偶者や子どもを同伴することはできますか。

A 討論フォーラムそのものへの参加は、ご本人のみとさせていただきます。同伴の方は、事前にお知らせいただければ、討論フォーラムを見学していただくことができます。

Q13. 乳幼児を連れて参加することはできますか。

A 無料の託児施設を、討論フォーラムの会場内(全体会議の会場と同じフロア)に設けます。託児スタッフの用意や遊具等の準備のため、託児サービスをご利用予定の方は、事前に、年齢・性別・注意事項等をお知らせください。

小さいお子さまは、ほかにご同伴の方がいらっしゃれば、討論フォーラムを見学いただけます。同じ建物内の情報センター(1階)や札幌市環境プラザ(2階)などもご利用いただくことができます。

なお、会場には、授乳室も用意しております。

Q14. 持病や障害があるため、参加するのが不安です。

A 討論フォーラムの会場は、バリアフリー構造です。階段のほかに、エレベータやエスカレータがあります。そのほかに、何かサポートが必要な方は、事前にご相談ください。

なお、申し訳ございませんが、当日の手話通訳は、ご用意しておりません。

Q15. 車で行ってもよいですか。

A 駐車場の用意はありませんので、公共交通機関でお越しください。札幌エルプラザのビルには有料の駐車場(38台収容、20分100円)がありますが、ご利用なさる場合にはご本人の負担となります。

Q16. 同封の「討論資料」は、中立的な立場で作られたものですか。何か特定の考え方を押し付けられたりしていませんか。

A 同封の討論資料は、慶應義塾大学DP研究センターが、北海道在住の専門家によるアドバイスを受けて、作成したものです。雪対策や生活についての多様な意見をもった複数の学識経験者のチェックを受けて、中立的な観点で作成したものであり、参加者を特定の考え方に誘導するものなどではありません。

Q17. 私の個人の意見が公表されることになるのですか。

A 皆さまにご協力いただくアンケート調査などは、すべて統計的に処理を行い、全体をまとめた結果のみを公表します。個人が特定されるようなことは決してありません。また、討論の模様を報道機関が取材することもあります。取材に関するご本人の同意が得られない方については、メディアに対して配慮を求めるように注意いたします。

Q18. この討論フォーラムはどんな機関が実施しているのですか。特定の政党・政治団体と何らかの関係はありませんか。

A 札幌市と慶應義塾大学DP研究センターとが共同で行います。DP研究センターは、慶應義塾大学公認の研究組織であり、慶應義塾大学大学院教授の曾根泰教が研究代表を務めております。また、スタンフォード大学DD研究センターが、公式の討論型世論調査として全体を監修します。政治的に中立な立場から実施しており、特定の政党・政治団体とは一切関係を持っておりません。

Q19. なぜアメリカや東京の大学の研究者が実施しているのですか。

A 今回行う討論型世論調査とは、スタンフォード大学のフィッシュキン教授らが考案したものであり、調査手法等が厳格に定められ、徹底して品質が管理されております。そこで、今回の札幌市の取り組みが公式の討論型世論調査と認定しうるかどうかを、考案者のフィッシュキン教授に確認してもらいます。

また、慶應義塾大学DP研究センターは、公式の討論型世論調査を単独で企画・運営できる日本国内で唯一の研究機関です。これまでに、自治体と連携した討論型世論調査や、日本全国の有権者を対象にした討論型世論調査を4回実施してきました。政府(内閣官房)からの受託でDP研究センターが全国民を対象に行った討論型世論調査の結果は、平成24(2012)年の国のエネルギー政策の策定の参考にされました。

Q20. 参加を予定していたが、その後、参加できなくなった場合は、どうすればよいですか。

A なるべくお早めに、札幌市役所市民の声を聞く課(011-211-2045)にご連絡ください。受付時間は、平日の8:45~17:15です。

Q21. 当日、遅刻しそうになったり、道に迷ったりした場合には、どこに連絡すればよいですか。

A 当日の緊急連絡先として、**090-7514-9732**までご連絡ください。この専用ダイヤルは、3月15日(土)当日のみ利用可能です。

そのほかにご意見やご質問などがございましたら、お気軽にお問い合わせください。スタッフ一同、3月15日(土)当日に、皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

当日の持ち物チェックリスト

☐ この「参加のしおり」

☐ 同封の「討論資料」

☐ 同封の「口座振込申出書」

(記入欄・署名捺印をご確認ください)

☐ 同封の「参加証」(はがきサイズ)

☐ 筆記用具(黒色の鉛筆またはペン)



【お問い合わせ先】

札幌市市長政策室広報部市民の声を聞く課

札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎1階

電話番号:011-211-2045(直通)

(電話受付時間:平日8:45~17:15)

全体会議のパネリストの紹介



雪とわたしたちの暮らし 討論フォーラム



全体会議のパネリスト等のご紹介

(登壇・五十音順)



小山 茂 (こやま しげる)

札幌大学地域共創学群教授。専門は、物流・交通計画、まちづくり。

日本大学理工学部卒業。修士課程修了。札幌大学女子短期大学部教授を経て現職。著書に、『オペレーションズ・リサーチ』(コロナ社)、

『ビジネススクールのPC演習』(中央経済社)、『地域活性化に関する研究』(札幌大学附属総合研究所)など。



赤城 由紀 (あかぎ ゆき)

札幌国際大学人文学部心理学科准教授。専門は、消費者心理、ライフスタイル。

北海道大学文学部行動科学科卒業。フリーコピーライター、まちづくり系シンクタンク協力研究員等を経て現職。内閣総理大臣及び経済産業大臣認定消費生活アドバイザー。



乳井 文夫 (ちちい ふみお)

札幌除雪事業協会 会長。
札幌中小建設協会 役員
札幌土木事業協会 理事



杉岡直人 (すぎおか なおと)

北星学園大学 社会福祉学部 福祉計画学科教授。専門は、地域福祉学、福祉社会学、農村社会学。北海道地方社会保険医療協議会長、北海道地域福祉学会会長などを兼務。

最近の著書に、『ビギナーズ 地域福祉』(有斐閣、共著)、「福祉社会のガバナメントとガバナンス」『福祉社会学ハンドブック』(三重野 卓編)(中央法規)など。



萩原 亨 (はぎわら とおる)

北海道大学・大学院工学研究院教授。専門は、交通工学、交通計画学。北海道大学工学土木工学科卒業。北海道大学・大学院工学研究科土木工学専攻修了。北海道大学助手、助教授を経て現職。

主な研究領域は、運転者の人間工学(特に、視認性)と冬の道路交通工学。



原 文宏 (はら ふみひろ)

一般社団法人北海道開発技術センター理事・地域政策研究所所長。専門は、積雪寒冷地域の交通計画や地域づくり。北海学園大学工学部卒業。北海道大学大学院工学研究科博士課程修了、博士(工学)。

雪工学会理事、ボランティア活動による広域交流イノベーション研究会事務局長等を兼務。著書に、『雪国の視座』(毎日新聞、共著)、『雪国の生活と身体活動』(北海道大学図書刊行会、共著)など。

全体会議 司会者



曾根 泰教 (そね やすのり)

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授。専門は、政治学、政策研究。慶應義塾大学法学部卒業、慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了。慶應義塾大学法学部教授、総合政策学部 教授を経て、現職。日本アカデミア運営幹事。著書に、『決定の政治経済学』(有斐閣)、『現代の政治理論』(放送大学教育振興会)、『日本ガバナンス』(東信堂)、『日本の民主主義』(慶應義塾大学出版会、共著)、『学ぶ、考える、話し合う「討論型世論調査」』(ソトコト新書、共著)など。

討論前アンケート調査（T2 調査）、
討論後アンケート調査（T3 調査）の調査票

札幌市・慶應義塾大学 DP 研究センター共同プロジェクト（平成 26 年 3 月）

「雪とわたしたちの暮らし」

すでに世論調査でお答えいただいた質問もありますが、いまのお気持ちをお答えください。

〈プライバシーの保護について〉

ご回答いただいた内容は統計的に処理し、「〇〇に賛成△△%」というように、数値・表にまとめますので、個人のお名前や回答内容が公表されることは、決してありません。

また、ご記入いただいた調査票は、集計後に裁断し、情報管理を徹底いたします。

〈ご回答にあたって〉

- ・ 右上にある整理番号は、集計を匿名で行うために使用するものです。
- ・ この調査票には、お名前やご住所を書いていただく必要はありません。
- ・ ご自身のお考えでご回答ください。ほかの人に尋ねたり調べたりして答える必要はありません。
- ・ 一度答えた質問に戻ることなく、順番通りにご回答ください。
- ・ 回答時間は十分にあります。あせらずゆつくりにご回答ください。

〈回答が終わったら〉

- ・ 各グループのモデレータにお渡しください。
- ・ そのままこのホールの中でお待ちください。なお、お手洗いは、このホールの外にあります。

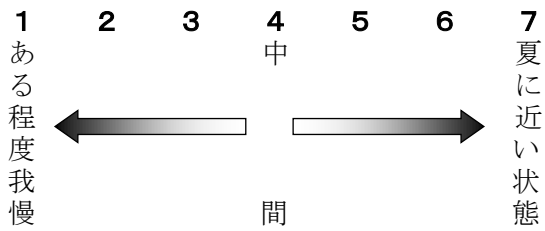
Q 1. あなたは、現在の札幌市による除雪や排雪についてどのように考えますか。次の①～④について、「まったく不満足」を1、「大いに満足している」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

	まったく不満足			中 間			大いに満足			意見がない
①幹線道路の除雪	1	2	3	4	5	6	7			99
②幹線道路の排雪	1	2	3	4	5	6	7			99
③生活道路の除雪	1	2	3	4	5	6	7			99
④生活道路の排雪	1	2	3	4	5	6	7			99

Q 2. 冬の道路の排雪についてお尋ねします。ふたつの意見1と7のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を4としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

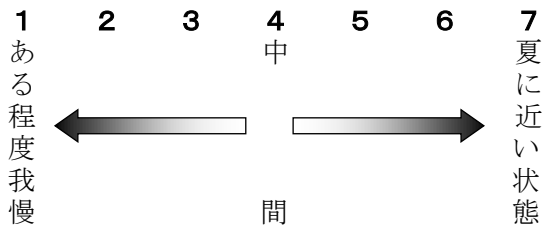
① 幹線道路について

- 移動に多少の時間がかかっても、ある程度の不便は我慢すべき
- 雪がほとんど排雪された夏に近い状況を目指すべき



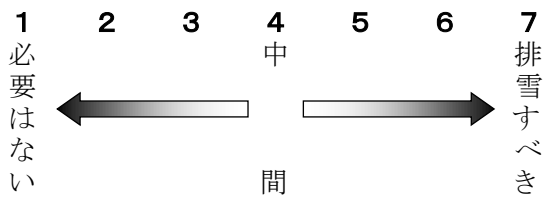
② 生活道路について

- 車1台が通行できる状態が確保されれば、ある程度の不便は我慢すべき
- 雪がほとんど排雪された夏に近い状況を目指すべき



③生活道路について

- 行政が排雪をする責任はない
- 税など住民の負担が増えても、行政が排雪をするべき

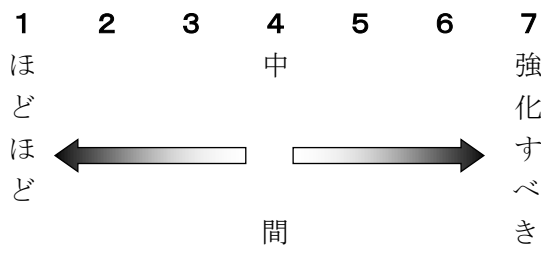


Q 3. あなたが冬の暮らしについて我慢できることと、できないことは何ですか。次の①～⑦について、「まったく耐えられない」を1、「十分に我慢できる」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

	まったく耐えられない			中 間			十分に我慢できる			意見がない
①行政による除雪作業で自宅の間口に雪が置かれること	1	2	3	4	5	6	7			99
②車道にワダチや凸凹ができること	1	2	3	4	5	6	7			99
③道路や家ごとに均等に除雪が行われないこと	1	2	3	4	5	6	7			99
④通勤・通学時間に車道の除雪が間に合わないこと	1	2	3	4	5	6	7			99
⑤車道が凍結しアイスバーンになってしまうこと	1	2	3	4	5	6	7			99
⑥歩道が凍結して、転倒の危険が増すこと	1	2	3	4	5	6	7			99
⑦車道や歩道の路側に除雪された雪が堆積され、必要な車線が確保されないこと	1	2	3	4	5	6	7			99

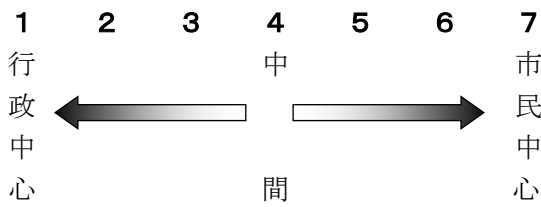
Q 4. 札幌市の今後の雪対策について、ふたつの意見 1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を 4 としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

1. ほどほどの雪対策にとどめ、かける費用を軽減すればいい
7. 税など住民の負担が増えても、現在の雪対策をもっと強化すべき



Q 5. 札幌市の雪対策プラン（市が取り組む除雪や排雪対策の計画）の作り方についてお聞きます。ふたつの意見 1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を 4 としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

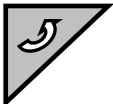
1. 市（行政）が雪対策のプランを作るべきだ
7. 市民が中心で雪対策のプランを作るべきだ



Q 6. 札幌市の今後の雪対策について、あなたができると思うことはどれですか。次の①～⑬について、「まったくできない」を 1、「大いにできる」を 7 とし、「ちょうど中間」を 4 としたときに、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

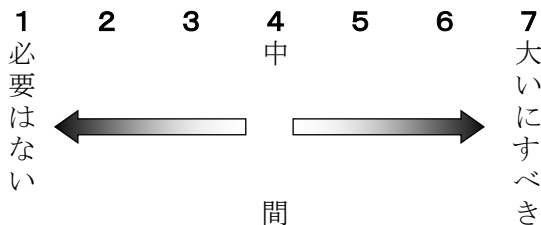
	まったくできない		中				大いにできる		意見がない
	1	2	3	4	5	6	7	99	
①雪かきボランティアに参加する	1	2	3	4	5	6	7	99	
②行政や除雪企業との合同パトロールに参加する	1	2	3	4	5	6	7	99	
③近所や地域の人々と協力して雪かきを行う	1	2	3	4	5	6	7	99	
④行政の除雪作業で発生した自宅前の雪を除雪する	1	2	3	4	5	6	7	99	
⑤通勤・通学時などに公共交通機関を利用する	1	2	3	4	5	6	7	99	
⑥車での通勤・通学時にピーク時間帯を避ける	1	2	3	4	5	6	7	99	
⑦砂まきなど、歩道のツルツル路面対策をする	1	2	3	4	5	6	7	99	
⑧道路に雪出しをしないなどルール・マナーを守る	1	2	3	4	5	6	7	99	
⑨除雪作業が行われる路上に車を駐車しない	1	2	3	4	5	6	7	99	
⑩福祉除雪の地域協力員になる	1	2	3	4	5	6	7	99	
⑪除雪パートナーシップ制度を利用する	1	2	3	4	5	6	7	99	
⑫市民助成トラック制度を利用する	1	2	3	4	5	6	7	99	
⑬民間除雪サービス会社と契約する	1	2	3	4	5	6	7	99	

次のページの左上のQ7に進んでください



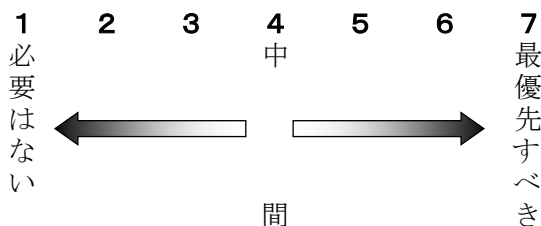
Q 7. あなたは、歩道の除雪は隣接地の居住者や地主の義務にすべきだと思いますか。ふたつの意見 1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を 4 としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

1. 義務の必要はまったくない
7. 大いにすべきと思う



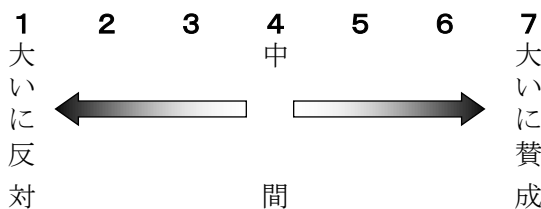
Q 8. 雪堆積場の増設についてお尋ねします。ふたつの意見 1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を 4 としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

1. 堆積場の増設を最優先する必要はない
7. 堆積場の増設を最優先すべきだ



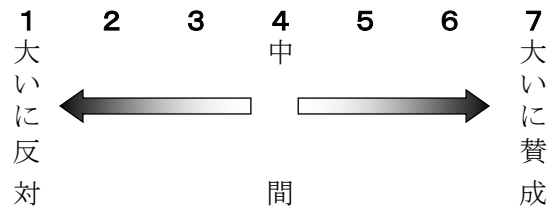
Q 9. 雪堆積場の利用について有料化すべきという意見がありますが、1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。

1. 有料化に大いに反対
7. 有料化に大いに賛成



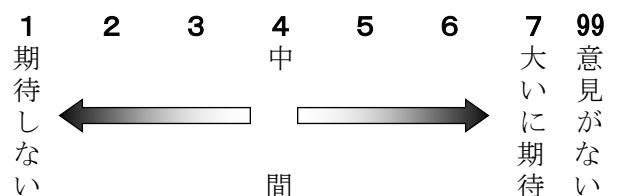
Q 10. 今後の雪対策について、強化路線を考えるよりも、冬の暮らし方のライフスタイルを変えて、雪との共存を考えるべきだという意見があります。1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。

1. 大いに反対
7. 大いに賛成

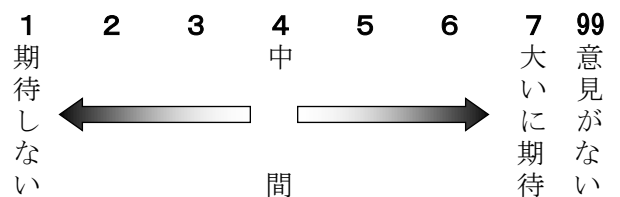


Q 11. 新たな雪処理施設の整備についてお尋ねします。あなたは、次の①～③について、どの程度期待していますか。「まったく期待しない」を 1、「大いに期待する」を 7 とし、「ちょうど中間」を 4 としたときに、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

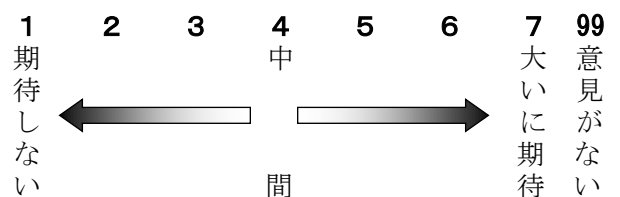
- ① 電気やガスを使用して道路の凍結を防ぐロードヒーティングの整備をさらに進める



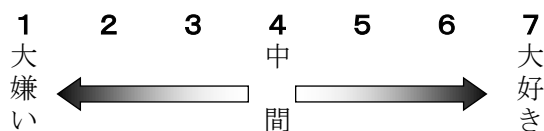
- ② 河川水や下水処理水を利用し、雪を流す流雪溝の整備をさらに進める



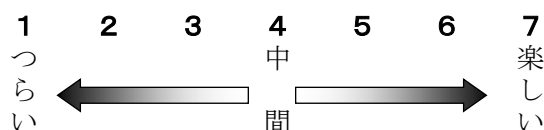
- ③ 水対策や水質保全を目的として建設する調整池や貯留管などを、冬期間に融雪施設として複合的に利用できるようにした融雪槽・融雪管の整備をさらに進める



Q 1 2. あなたは、冬が好きですか。



Q 1 3. あなたは、札幌市の冬の暮らしについてどのように感じていますか。「つらいことが多い」を1、「楽しいことが多い」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。



Q 1 4. あなたは、札幌市の冬の暮らしのなかで、何が大変だと感じていますか。次の①～④について、「大変だ」を1、「苦にならない」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。

	大 変 だ			中 間			苦 に な ら な い	意 見 が な い
① 自宅周辺の雪かき	1	2	3	4	5	6	7	99
② 自家用車での移動 (渋滞など)	1	2	3	4	5	6	7	99
③ 徒歩での移動 (路面の凍結など)	1	2	3	4	5	6	7	99
④ 公共交通機関での移動 (遅延など)	1	2	3	4	5	6	7	99

◆ Q 1 5～Q 1 9の質問はクイズ形式ですので、正解を調べずに、あなたが、正しいと思うものを1つ選んでください。

Q 1 5. 札幌市の平成 25 (2013) 年度の雪対策の予算は、次のうちどれだと思いますか。

1. 約 60 億円 2. 約 110 億円
3. 約 160 億円 4. 約 210 億円
5. 約 260 億円 6. 約 310 億円

Q 1 6. 札幌市の雪対策において、最も費用がかかるものは、次のうちどれだと思いますか。

1. 車道を除雪するための費用
2. 除雪した雪を堆積場へ運搬するための費用
3. 生活道路パートナーシップ排雪（町内会と共同で負担し生活道路等の排雪をすること）のための費用
4. 雪堆積場を管理するための費用

Q 1 7. 幹線道路 100m を 1 回除雪するための費用は約 3,000 円ですが、同じ距離を 1 回排雪する（除雪した雪を堆積場等へ運ぶ）ために必要となる費用は、次のうちどれだと思いますか。

1. 約 3,000 円
2. 約 6,000 円
3. 約 1 万円
4. 約 5 万円
5. 約 15 万円
6. 約 25 万円
7. 約 35 万円

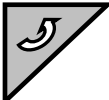
Q 1 8. 札幌市の雪堆積場に運ばれるひと冬あたりの雪の量は、次のうちどれだと思いますか。

1. 札幌ドーム約 5 杯分
2. 札幌ドーム約 15 杯分
3. 札幌ドーム約 25 杯分
4. 札幌ドーム約 35 杯分

Q 1 9. 国や札幌市などが定めるルールとして誤っているものは、次のうちどれだと思いますか。

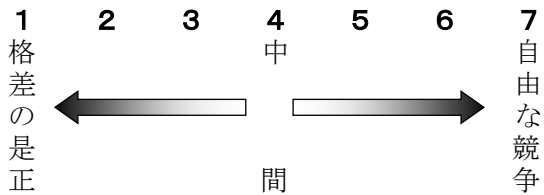
1. 敷地内から道路へ雪出しをしてはいけない
2. スパイクタイヤを装着してはいけない
3. 札幌市内のすべての公園に、雪入れをしてはいけない
4. 河川に投雪をしてはいけない

次のページの左上のQ20に進んでください

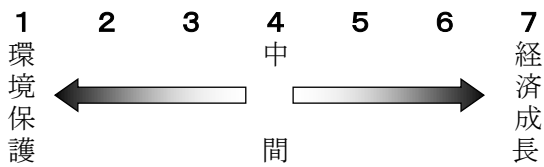


Q 2 0. あなた自身の考えについてお尋ねします。次の①～④について、それぞれ1と7のどちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を4としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

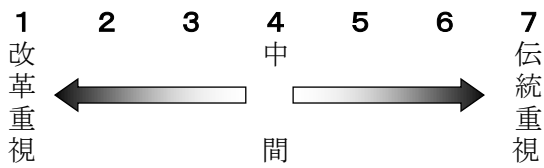
- ① 1. 所得や資産の格差を減らすべきだ
7. 経済活動は自由に競争すべきだ



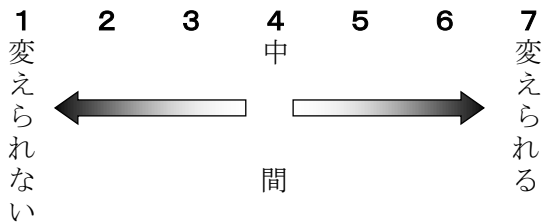
- ② 1. 経済活動に支障があっても環境保護を重視すべきだ
7. 環境保護を考えるよりも経済成長を重視すべきだ



- ③ 1. 社会に活力をもたらすためには、改革を続けるべきだ
7. 歴史や伝統を守って、社会の秩序を維持すべきだ



- ④ 1. 自分の一票では、政治や社会を変えることはできない
7. 政治や社会を変えるには、まず自分の一票からだ



Q 2 1. 雪に関する情報について、あなたは、次の①～⑤をどの程度信頼していますか。「まったく信頼できない」を1、「大いに信頼できる」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

	まったく信頼できない	1	2	3	4	5	6	7	大いに信頼できる	意見がない
①札幌市役所の情報	1	2	3	4	5	6	7	99		
②マスコミの情報	1	2	3	4	5	6	7	99		
③研究者・専門家の情報	1	2	3	4	5	6	7	99		
④近所の人などの「口コミ」の情報	1	2	3	4	5	6	7	99		
⑤インターネット上の情報	1	2	3	4	5	6	7	99		

Q 2 2. 冬の間に最も頻繁に利用する交通手段は、次のうちどれですか。最も頻繁に利用するものを1つだけ選んでください。

1. 自家用車（バイクを含む）
2. 公共交通機関（バス）
3. 公共交通機関（JR）
4. 公共交通機関（地下鉄）
5. タクシー
6. 徒歩、自転車
7. その他（記入欄→）_____

Q 2 3. あなたの世帯で、次の設備や機械を所有していますか。

① 家庭用小型除雪機

1. 所有している
2. 所有してないが、購入する予定がある
3. 所有していないし、購入予定もない
4. その他（記入欄→）_____

② 自宅敷地内のロードヒーティング

1. ロードヒーティングがあり、使用している
2. ロードヒーティングはあるが、使用していない
(理由は→) _____
3. 設置していないが、検討、または設置予定がある
4. 設置していないし、今後設置する予定もない

③ 小型融雪槽・融雪機

1. 融雪槽・融雪機があり、使用している
2. 融雪槽・融雪機はあるが、使用していない
(理由は→) _____
3. 設置していないが、検討、または設置予定がある
4. 設置していないし、今後設置する予定もない

質問は、以上です。

最後までご回答いただき、ありがとうございました。

札幌市・慶應義塾大学 DP 研究センター共同プロジェクト（平成 26 年 3 月）

「雪とわたしたちの暮らし」

すでに世論調査でお答えいただいた質問もありますが、いまのお気持ちをお答えください。

〈プライバシーの保護について〉

ご回答いただいた内容は統計的に処理し、「〇〇に賛成△△%」というように、数値・表にまとめますので、個人のお名前や回答内容が公表されることは、決してありません。

また、ご記入いただいた調査票は、集計後に裁断し、情報管理を徹底いたします。

〈ご回答にあたって〉

- ・ 右上にある整理番号は、集計を匿名で行うために使用するものです。
- ・ この調査票には、お名前やご住所を書いていただく必要はありません。
- ・ ご自身のお考えでご回答ください。ほかの人に尋ねたり調べたりして答える必要はありません。
- ・ 一度答えた質問に戻ることなく、順番通りにご回答ください。
- ・ 回答時間は十分にあります。あせらずゆっくりとご回答ください。

〈回答が終わったら〉

- ・ 各グループのモデレータにお渡しください。
- ・ そのままこのホールの中でお待ちください。なお、お手洗いは、このホールの外にあります。

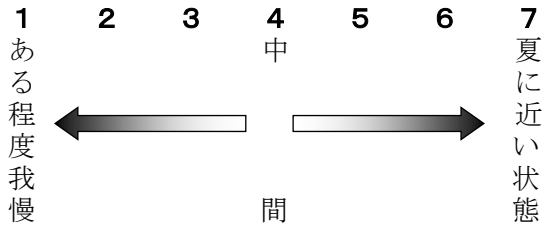
Q 1. あなたは、現在の札幌市による除雪や排雪についてどのように考えますか。次の①～④について、「まったく不満足」を1、「大いに満足している」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

	まったく不満足			中 間			大いに満足			意見がない
①幹線道路の除雪	1	2	3	4	5	6	7			99
②幹線道路の排雪	1	2	3	4	5	6	7			99
③生活道路の除雪	1	2	3	4	5	6	7			99
④生活道路の排雪	1	2	3	4	5	6	7			99

Q 2. 冬の道路の排雪についてお尋ねします。ふたつの意見1と7のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を4としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

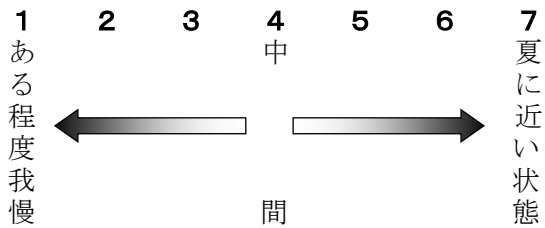
① 幹線道路について

- 移動に多少の時間がかかっても、ある程度の不便は我慢すべき
- 雪がほとんど排雪された夏に近い状況を目指すべき



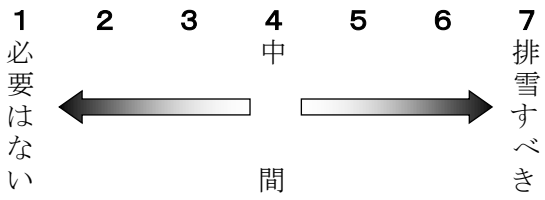
② 生活道路について

- 車1台が通行できる状態が確保されれば、ある程度の不便は我慢すべき
- 雪がほとんど排雪された夏に近い状況を目指すべき



③生活道路について

- 行政が排雪をする責任はない
- 税など住民の負担が増えても、行政が排雪をするべき

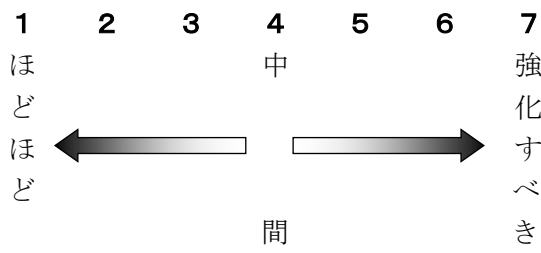


Q 3. あなたが冬の暮らしについて我慢できることと、できないことは何ですか。次の①～⑦について、「まったく耐えられない」を1、「十分に我慢できる」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

	まったく耐えられない			中 間			十分に我慢できる			意見がない
①行政による除雪作業で自宅の間口に雪が置かれること	1	2	3	4	5	6	7			99
②車道にワダチや凸凹ができること	1	2	3	4	5	6	7			99
③道路や家ごとに均等に除雪が行われないこと	1	2	3	4	5	6	7			99
④通勤・通学時間に車道の除雪が間に合わないこと	1	2	3	4	5	6	7			99
⑤車道が凍結しアイスバーンになってしまうこと	1	2	3	4	5	6	7			99
⑥歩道が凍結して、転倒の危険が増すこと	1	2	3	4	5	6	7			99
⑦車道や歩道の路側に除雪された雪が堆積され、必要な車線が確保されないこと	1	2	3	4	5	6	7			99

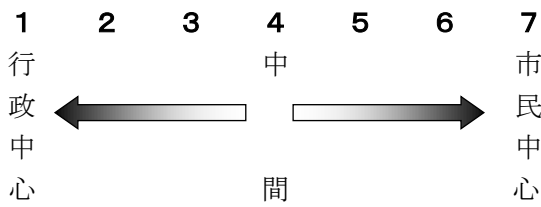
Q 4. 札幌市の今後の雪対策について、ふたつの意見
1と7のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょ
うど中間」を4としたとき、あなたの意見に最も近
いものを選んでください。

1. ほどほどの雪対策にとどめ、かける費用を軽減す
ればいい
7. 税など住民の負担が増えても、現在の雪対策をも
っと強化すべき



Q 5. 札幌市の雪対策プラン（市が取り組む除雪や排
雪対策の計画）の作り方についてお聞きします。ふ
たつの意見1と7のうち、どちらの意見に近いです
か。「ちょうど中間」を4としたとき、あなたの意
見に最も近いものを選んでください。

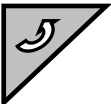
1. 市（行政）が雪対策のプランを作るべきだ
7. 市民が中心で雪対策のプランを作るべきだ



Q 6. 札幌市の今後の雪対策について、あなたができ
ると思うことはどれですか。次の①～⑬について、
「まったくできない」を1、「大いにできる」を7
とし、「ちょうど中間」を4としたときに、あなた
の意見に最も近いものを選んでください。

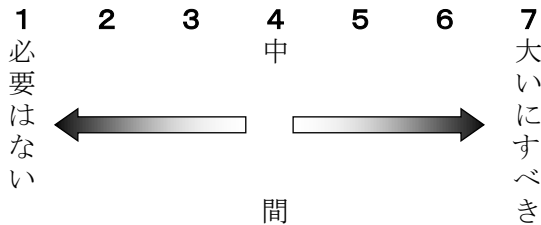
	ま た っ く で き な い	1	2	3	中 間	4	5	6	7	大 い に で き る	意 見 が な い
①雪かきボランティアに参加する	1	2	3	4	5	6	7	99			
②行政や除雪企業との合同パトロールに参加する	1	2	3	4	5	6	7	99			
③近所や地域の人々と協力して雪かきを行う	1	2	3	4	5	6	7	99			
④行政の除雪作業で発生した自宅前の雪を除雪する	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑤通勤・通学時などに公共交通機関を利用する	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑥車での通勤・通学時にピーク時間帯を避ける	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑦砂まきなど、歩道のツルツル路面対策をする	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑧道路に雪出しをしないなどルール・マナーを守る	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑨除雪作業が行われる路上に車を駐車しない	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑩福祉除雪の地域協力員になる	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑪除雪パートナーシップ制度を利用する	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑫市民助成トラック制度を利用する	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑬民間除雪サービス会社と契約する	1	2	3	4	5	6	7	99			

次のページの左上のQ7に進んでください



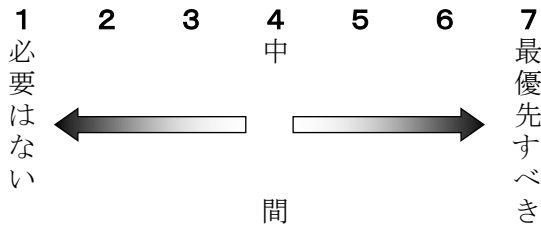
Q 7. あなたは、歩道の除雪は隣接地の居住者や地主の義務にすべきだと思いますか。ふたつの意見 1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を 4 としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

1. 義務の必要はまったくない
7. 大いにすべきと思う



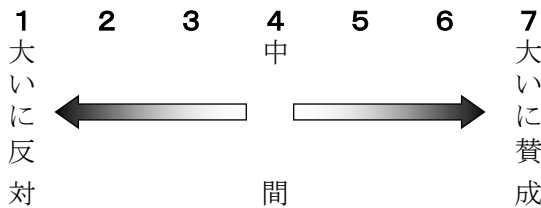
Q 8. 雪堆積場の増設についてお尋ねします。ふたつの意見 1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を 4 としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

1. 堆積場の増設を最優先する必要はない
7. 堆積場の増設を最優先すべきだ



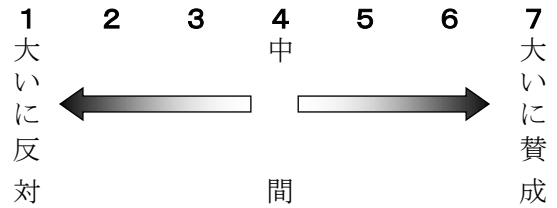
Q 9. 雪堆積場の利用について有料化すべきという意見がありますが、1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。

1. 有料化に大いに反対
7. 有料化に大いに賛成



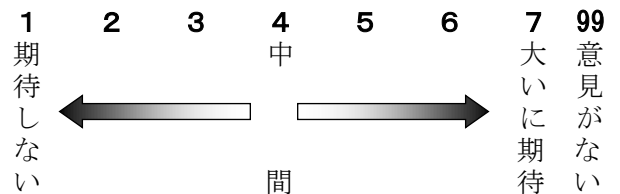
Q 10. 今後の雪対策について、強化路線を考えるよりも、冬の暮らし方のライフスタイルを変えて、雪との共存を考えるべきだという意見があります。1 と 7 のうち、どちらの意見に近いですか。

1. 大いに反対
7. 大いに賛成

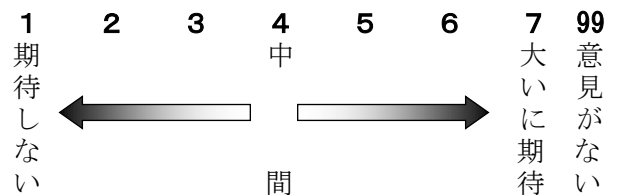


Q 11. 新たな雪処理施設の整備についてお尋ねします。あなたは、次の①～③について、どの程度期待していますか。「まったく期待しない」を 1、「大いに期待する」を 7 とし、「ちょうど中間」を 4 としたときに、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

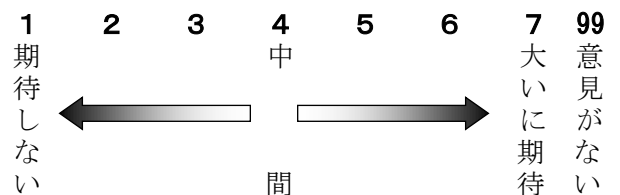
- ① 電気やガスを使用して道路の凍結を防ぐロードヒーティングの整備をさらに進める



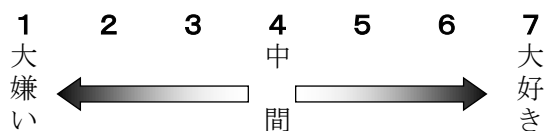
- ② 河川水や下水処理水を利用し、雪を流す流雪溝の整備をさらに進める



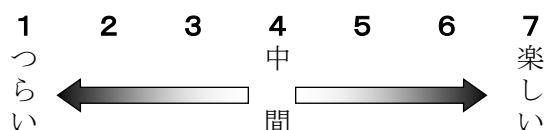
- ③ 水対策や水質保全を目的として建設する調整池や貯留管などを、冬期間に融雪施設として複合的に利用できるようにした融雪槽・融雪管の整備をさらに進める



Q 1 2. あなたは、冬が好きですか。



Q 1 3. あなたは、札幌市の冬の暮らしについてどのように感じていますか。「つらいことが多い」を1、「楽しいことが多い」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。



Q 1 4. あなたは、札幌市の冬の暮らしのなかで、何が大変だと感じていますか。次の①～④について、「大変だ」を1、「苦にならない」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。

	大 変 だ			中 間			苦 に な ら な い	意 見 が な い
① 自宅周辺の雪かき	1	2	3	4	5	6	7	99
② 自家用車での移動 (渋滞など)	1	2	3	4	5	6	7	99
③ 徒歩での移動 (路面の凍結など)	1	2	3	4	5	6	7	99
④ 公共交通機関での移動 (遅延など)	1	2	3	4	5	6	7	99

◆ Q 1 5～Q 1 9の質問はクイズ形式ですので、正解を調べずに、あなたが、正しいと思うものを1つ選んでください。

Q 1 5. 札幌市の平成 25 (2013) 年度の雪対策の予算は、次のうちどれだと思いますか。

1. 約 60 億円
2. 約 110 億円
3. 約 160 億円
4. 約 210 億円
5. 約 260 億円
6. 約 310 億円

Q 1 6. 札幌市の雪対策において、最も費用がかかるものは、次のうちどれだと思いますか。

1. 車道を除雪するための費用
2. 除雪した雪を堆積場へ運搬するための費用
3. 生活道路パートナーシップ排雪（町内会と共同で負担し生活道路等の排雪をすること）のための費用
4. 雪堆積場を管理するための費用

Q 1 7. 幹線道路 100m を 1 回除雪するための費用は約 3,000 円ですが、同じ距離を 1 回排雪する（除雪した雪を堆積場等へ運ぶ）ために必要となる費用は、次のうちどれだと思いますか。

1. 約 3,000 円
2. 約 6,000 円
3. 約 1 万円
4. 約 5 万円
5. 約 15 万円
6. 約 25 万円
7. 約 35 万円

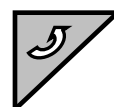
Q 1 8. 札幌市の雪堆積場に運ばれるひと冬あたりの雪の量は、次のうちどれだと思いますか。

1. 札幌ドーム約 5 杯分
2. 札幌ドーム約 15 杯分
3. 札幌ドーム約 25 杯分
4. 札幌ドーム約 35 杯分

Q 1 9. 国や札幌市などが定めるルールとして誤っているものは、次のうちどれだと思いますか。

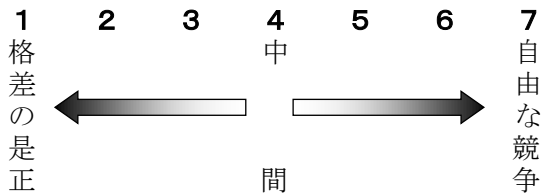
1. 敷地内から道路へ雪出しをしてはいけない
2. スパイクタイヤを装着してはいけない
3. 札幌市内のすべての公園に、雪入れをしてはいけない
4. 河川に投雪をしてはいけない

次のページの左上のQ20に進んでください

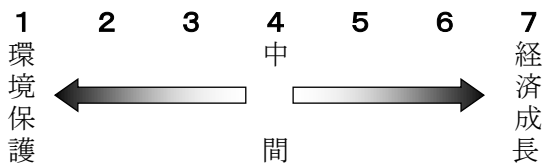


Q 2 0. あなた自身の考えについてお尋ねします。次の①～④について、それぞれ1と7のどちらの意見に近いですか。「ちょうど中間」を4としたとき、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

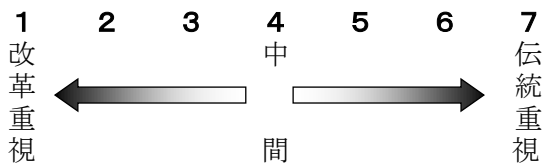
- ① 1. 所得や資産の格差を減らすべきだ
7. 経済活動は自由に競争すべきだ



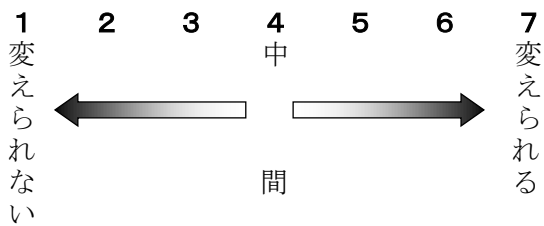
- ② 1. 経済活動に支障があっても環境保護を重視すべきだ
7. 環境保護を考えるよりも経済成長を重視すべきだ



- ③ 1. 社会に活力をもたらすためには、改革を続けるべきだ
7. 歴史や伝統を守って、社会の秩序を維持すべきだ



- ④ 1. 自分の一票では、政治や社会を変えることはできない
7. 政治や社会を変えるには、まず自分の一票からだ



Q 2 1. 雪に関する情報について、あなたは、次の①～⑤をどの程度信頼していますか。「まったく信頼できない」を1、「大いに信頼できる」を7、「ちょうど中間」を4としたときに、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

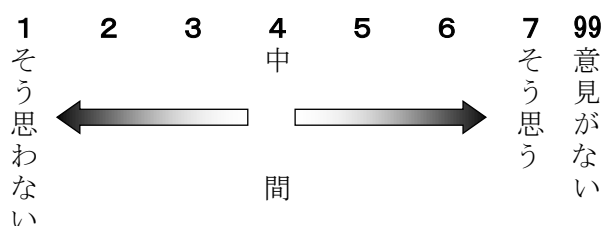
	ま	た	く		中		大		意
	っ	く	信	た	間	く	い	に	見
	信	頼	で	き		な	い	信	が
	頼	で	き	な		い	信	頼	な
	で	き	な	い		い	信	頼	い
	き	な	い				で	き	
	な	い					る		
①札幌市役所の情報	1	2	3	4	5	6	7		99
②マスコミの情報	1	2	3	4	5	6	7		99
③研究者・専門家の情報	1	2	3	4	5	6	7		99
④近所の人などの「口コミ」の情報	1	2	3	4	5	6	7		99
⑤インターネット上の情報	1	2	3	4	5	6	7		99

Q25. 小グループ討論について伺います。グループ討論の内容や進行について、あなたはどのように感じましたか。あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

	まったく役に立たない			中			非常に役に立った	意見がない
①この討論フォーラム全体	1	2	3	4	5	6	7	99
②小グループ討論への参加	1	2	3	4	5	6	7	99
③小グループ討論外での、他の参加者との意見交換	1	2	3	4	5	6	7	99
④全体討論での専門家との質疑応答	1	2	3	4	5	6	7	99
⑤討論資料からの情報	1	2	3	4	5	6	7	99

	まったくそう 思わない	1	2	3	中 間	4	5	6	7	強くそう 思う	意見が ない
①小グループ討論の進行役（モデレーター）は、全員が討論に参加できるような機会を適切に作っていた	1	2	3	4	5	6	7	99			
②私のグループの参加者は、討論にほぼ等しく参加した	1	2	3	4	5	6	7	99			
③進行役（モデレーター）は反対の意見も考慮に入れるように促した	1	2	3	4	5	6	7	99			
④争点の重要な側面を話し合うことができた	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑤私は、自分とは違う立場の人から多くを学んだ	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑥私のグループでは、議論を独占した者がいた	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑦私のグループでは、互いの意見を尊重していた	1	2	3	4	5	6	7	99			
⑧見学者が、表情や身振りなどで、自身の意見を示したことがあった	1	2	3	4	5	6	7	99			

- Q24. 討論資料では、異なる立場の意見がバランスよく扱われていたと思いますか。



次のページの左上のQ26に進んでください

Q 2 6. 全体会議についてお伺いします。全体会議の内容や進行について、あなたはどのように感じましたか。あなたの意見に最も近いものを1つ選んでマルをつけてください。

	まったくそう 思わない			中 間			強 く そ う 思 う			意 見 が な い
①司会者が適切に議論を整理していた	1	2	3	4	5	6	7			99
②専門家の回答は、適切なものであった	1	2	3	4	5	6	7			99
③他のグループの質問の論点に興味をわいた	1	2	3	4	5	6	7			99
④全体として、自分が理解するのに役立った	1	2	3	4	5	6	7			99
⑤全体会議の質疑応答は、小グループ討論の際に役立った	1	2	3	4	5	6	7			99

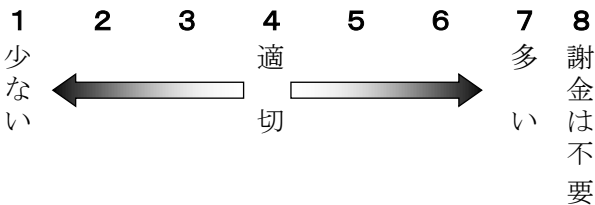
Q 2 7. 本日の討論フォーラムへ参加することを決めた理由はなんですか。当てはまるものに2つまで○をつけてください。

1. テーマ「雪とわたしたちくらし」に関心があったから
2. 札幌市の雪対策に関心があったから
3. 討論型世論調査という手法に関心があったから
4. 自分の意見を述べることや、他人の意見を聞くことに興味があったから
5. 札幌市の政策や事業に活かされることを期待するから
6. 謝金や昼食が提供されるから
7. その他（記入欄→）

Q 2 8. 本日の討論フォーラム全体について、それぞれあなたはどのように考えますか。次の①～④について、お答えください。

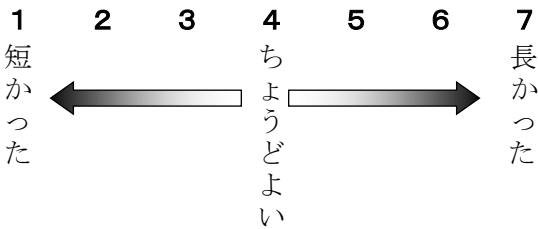
① 謝金（8000 円）について、どう感じましたか

1. 少ない
7. 多い



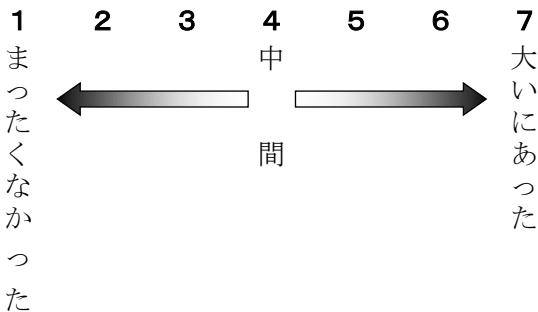
② 本日の討論フォーラムの時間は長く感じましたか

1. とても短かった
7. とても長かった



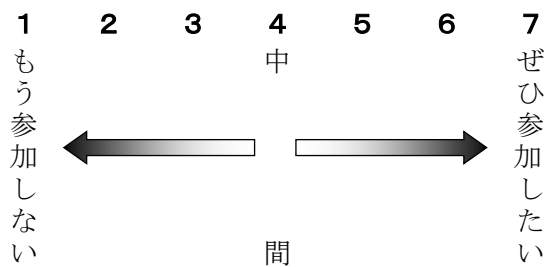
③ 討論フォーラムに参加して、「雪とわたしたちのくらし」に関し、新たに気づかされたことがありましたか

1. とくに新しく気づいたことはまったくなかった
7. 新たに気づいたことが大いにあった



④ 今回のような討論フォーラムに参加する機会があれば、また参加したいと思いますか

- 1. もう参加したくない
- 7. ぜひ参加したい



Q 2 9. 本日の討論フォーラムに参加して、討論型世論調査についてのご感想やご意見などありましたら、自由に記載してください。

(自由記載欄)

全体会議①、全体会議②で出された質問

全体会議①質問概要

- ・ 他都市や諸外国の雪対策はどうなっているか。
- ・ 今ある排水溝を排雪に利活用してはどうか。
- ・ 除排雪以外に、雪をなくす研究はされていないのか。
- ・ 融雪溝や発熱性のアスファルト等、雪の新しい処理法は進んでいるか。
- ・ 雪文化のメリットを活用している他国の事例と、雪に合わせたライフスタイルを送るための取組はないか。
- ・ 流雪溝について（なぜ 8 ヲ所なのか、メリット・デメリット、コスト、今後の計画は？）
- ・ 市民や除排雪業者に対して、除雪の「教育」「マニュアル」の徹底はされているのか。
- ・ 札幌市の除雪の長期計画は。専門家が考える都市計画ビジョンは。
- ・ 雪の活用について、研究機関や人材育成のための取組はあるか。
- ・ 下水道施設の活用や融雪溝の設置がアイデアとして考えられるが、費用対効果を教えてほしい。
- ・ 雪対策に関する予算繰越の可否、市がすべてを負担した場合の一人当たりの増額分、除雪費用の徴収義務化条例や制度ができるか。
- ・ 予算を含めた行政（国・道・市）の役割分担はどうなっているのか。除雪予算（全体予算の 1.7%）は適切なのか。川・海・流雪溝・街中の遊休地を活用して、予算を効率的に使うことを検討しているのか。
- ・ ダンプなどが減っていることへの対策など、排雪事業計画への議論があったら、具体的に教えてもらいたい。除雪ができない世帯へのサポートの考え方について、議論があったら具体的に教えてもらいたい。
- ・ 冬の災害を防止するために、今何をやっているのか。
- ・ 流雪溝・融雪溝の設置等、理想的な除雪・排雪を考えて費用を試算したら、どのようになるか。

全体会議②質問概要

- ・ 各地域町内会で、どのような動きをすれば良いか。行政はどう関われば良いか。
- ・ 学生の有償ボランティアの先進事例はあるか。
- ・ 市は、地域コミュニティ・町内会に今以上に関わって整備を考えているのか。
- ・ 市民や企業のマナー育成をどう考えているのか。（罰則・報償・助成・個人委託などを含めて）
- ・ 除雪⇒集雪⇒排雪 集雪場をつくる。学校の校庭や公園を活用する規制・法律・現実の問題はあるか。
- ・ 福祉除雪の範囲をどう考えているか。
- ・ 従来の雪処理の考え方ではなく、「まちづくり」等の違う考え方の雪対策といった 20～30 年後を見据えたビジョンはあるか。
- ・ 市の広報不足、どうしたら市民が同じ情報を持てるか。（結果、やっていることもわからない）
 - 今後の高齢者住宅の除雪対策（福祉除雪サービス等を市民が知らない）
- ・ 札幌市の管轄外の道路も含め、国・道・市から、他団体（三セク、民間など）がまとめて対応していくことは可能か。
- ・ 市内で、高齢者が先進的に取り組んでいる地域はないか。元気な高齢者と学生が、教育の一環として活躍できる組織づくりを市が率先して取り組む予定はあるか。
- ・ 区画ごとに小規模の排雪場（雪ステーション）を設けることにより、排雪距離が短くできないか。
- ・ 市は、冬の交通渋滞緩和のために、どんな取り組みをしているのか。しようとしているのか。
- ・ マナー教育やボランティア活動を充実させていくため、市の広報や PR 活動を強化する計画はあるか。
- ・ 市内に生活道路の除排雪モデル地区はあるか。モデル地区をつくって、費用や住民のモラルなどを検証すべきではないか。
 - 理想的な新しい雪対策について、専門家の方の見解を教えてもらいたい。特に融雪法についてや介護・福祉サービスに付随した除雪について。

討論型世論調査「雪とわたしたちの暮らし」調査報告書

平成 26 年（2014 年）8 月発行

市政等資料番号	01-A04-14-1367
関係部局保存期間	1 年

発行 札幌市市長政策室広報部市民の声を聞く課
〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
Tel 011-211-2045

この報告書は再生紙を使用しています。